

K y u s h u

I n s t i t u t e o f

T e c h n o l o g y

平成25年度

現状と課題

九州工業大学大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書

九州工業大学大学院工学研究院部局評価委員会

目 次

| | | |
|-------|--------------------------------|-----|
| 1 | はじめに | 1 |
| 2 | 工学部・工学府・工学研究科の教育 | |
| 2.1 | 2013年度卒業生アンケート（工学部） | 2 |
| 2.2 | 2013年度修了生アンケート（工学府） | 36 |
| 2.3 | 教育達成度評価アンケート：雇用主（2011年3月以前卒業生） | 59 |
| 2.4 | 教育達成度評価アンケート：雇用主（2011年3月以前修了生） | 67 |
| 2.5 | 教育達成度評価アンケート：卒業生（2011年3月以前卒業生） | 72 |
| 2.6 | 教育達成度評価アンケート：修了生（2011年3月以前修了生） | 79 |
| 3 | 大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営 | |
| 3.1 | 大学院工学研究院・工学府・工学部の組織図 | 85 |
| 3.2 | 各種委員会活動の点検・評価 | 86 |
| 3.2.1 | 大学院工学研究院部局評価委員会 | 86 |
| 3.2.2 | 工学部教務委員会 | 87 |
| 3.2.3 | 工学部学生委員会 | 95 |
| 3.2.4 | 工学部入学試験委員会 | 97 |
| 3.2.5 | 大学院工学府・工学部安全環境委員会 | 98 |
| 3.2.6 | 大学院工学研究院情報化推進委員会 | 99 |
| 3.2.7 | 工学部広報委員会 | 101 |
| 3.2.8 | 大学院工学府学務委員会 | 103 |
| 3.2.9 | 大学院工学府入学試験委員会 | 105 |
| 3.3 | 教員組織 | 107 |
| 3.3.1 | 教員の配置 | 107 |
| 3.4 | 事務組織 | 109 |
| 4 | 大学院工学研究院・工学府・工学部の財政 | |
| 4.1 | 運営費交付金配分状況 | 110 |
| 4.2 | 科学研究費補助金の採択状況 | 111 |
| 4.3 | 外部資金導入状況 | 112 |
| 4.3.1 | 寄附金（奨学寄附金） | 112 |
| 4.3.2 | 民間等との共同研究 | 112 |
| 4.3.3 | 受託研究 | 112 |

| | | |
|---------|----------------------------|-----|
| 4. 3. 4 | 寄附講座 | 113 |
| 4. 3. 5 | 寄附金の利息 | 114 |
| 5 | 大学院工学研究院・工学府・工学部と社会とのつながり | |
| 5. 1 | 地域貢献活動 | 115 |
| 5. 1. 1 | 大学公開 | 115 |
| 5. 1. 2 | 公開講座等 | 116 |
| 5. 1. 3 | 北九州市民カレッジへの協力 | 120 |
| 5. 1. 4 | 出前講義 | 121 |
| 5. 1. 5 | 情報公開 | 129 |
| 5. 2 | 学生の国際交流 | 130 |
| 5. 2. 1 | 外国人留学生（国籍別・課程別・費用別）在籍状況一覧表 | 130 |
| 5. 2. 2 | 外国人留学生（学科別・専攻別）在学状況一覧 | 131 |
| 5. 2. 3 | 学生の海外派遣 | 132 |
| 6 | おわりに | 134 |

1. はじめに

平成25年度版九州工業大学大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書「現状と課題」をここに発刊する運びとなりました。

本報告は、この「はじめに」の章に続けて4つの章

第2章 工学部・工学研究科の教育

第3章 大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営

第4章 学院工学研究院・工学府・工学部の財政

第5章 学院工学研究院・工学府・工学部と社会とのつながり

から成り、工学研究院・工学府・工学部の活動の評価資料です。

大学組織にとっても継続的に改善を行っていくことは極めて重要なことではありますが、そのためには現状を把握し、その評価結果を分析・記録し続けることが必要です。

本報告では大学における活動の実情のデータに加え、修了・卒業を控えた学生、修了・卒業した学生、修了生・卒業生を受け入れた企業に対するアンケートも実施し、その結果を分析しています。

これらの記録や分析結果は、各種委員会や教員にフィードバックし、大学の教育・研究の改善に繋げるべく利用されるものです。

なお、本報告書は平成18年度版以降、閲覧を便利にしてより社会に開かれた状態で大学の役割を知って頂けるよう、工学部のホームページにて掲載しております。

平成27年2月吉日

横野 照尚（大学院工学研究院部局評価委員会委員長）

2 工学部・工学府・工学研究科の教育

2.1 2013年度卒業生アンケート（工学部）

※アンケート実施年月日 平成26年2月21日

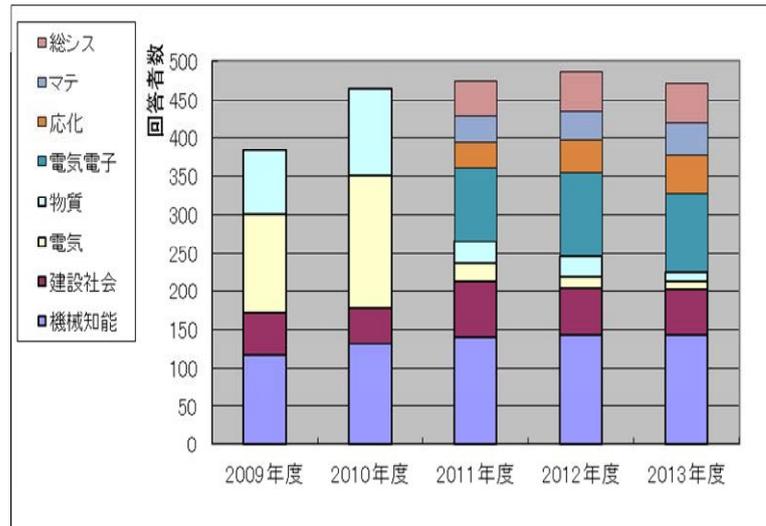
※アンケート回収率

| 学年 | 配付枚数 | 回収枚数（回答率） |
|------------|------|------------|
| 4年生（卒業予定者） | 564枚 | 471（83.5%） |

[1]所属する学科・コース名を書いて下さい。

機械知能工学科（143名）
 建設社会工学科（59名）
 電気工学科（11名）
 物質工学科（12名）
 電気電子工学科（103名）
 応用化学科（49名）
 マテリアル工学科（43名）
 総合システム工学科（51名）

回答者数はここ数年大きな変化はなく、回答率は今年も83%を超えているので、この程度の状態を維持できれば宜しいと思われる。



[1-1]3年次編入の人は[]に○を入れて下さい。 [33名]

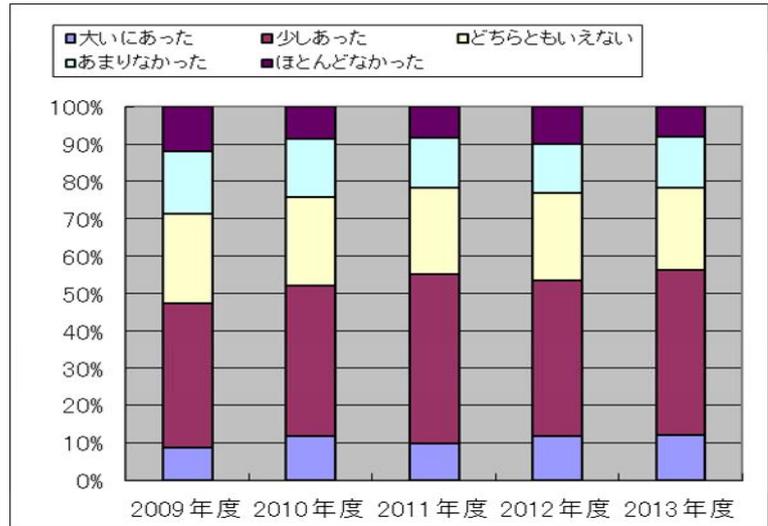
今年度も殆ど全ての学生が回答をしてきており、編入生は大学に対してのつながりを好意的に捉えてくれていると判断され、この状態が今後も維持できれば望ましい。



[2]大学教育があなたの成長（自己形成）に及ぼした効果についてお尋ねします。

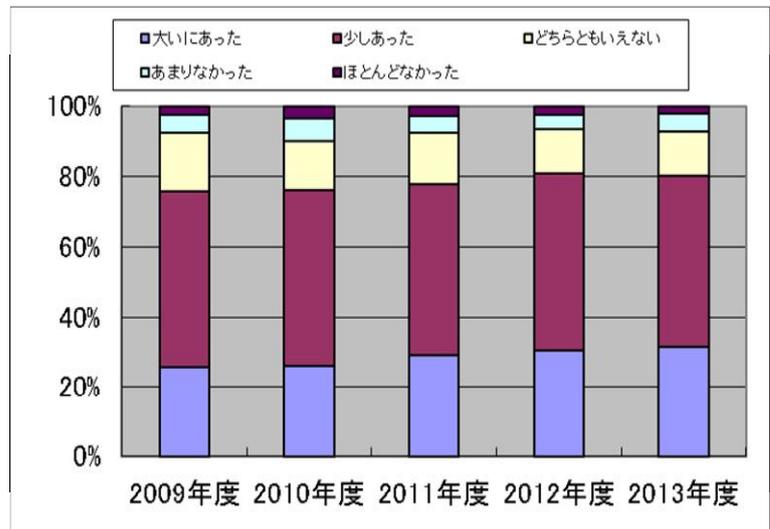
[2-1]人間科学科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（法学、経済学、社会学、哲学、倫理学、歴史学、語学、保健体育学、文学、教育学等）

ここ数年来そうであるが、今回はとりわけ前回と変化が少なく、否定的な回答をした者の割合は少なく維持されている。これは、人間科学科目において学生が教育内容・状況を望ましく受入れていることと判断される。



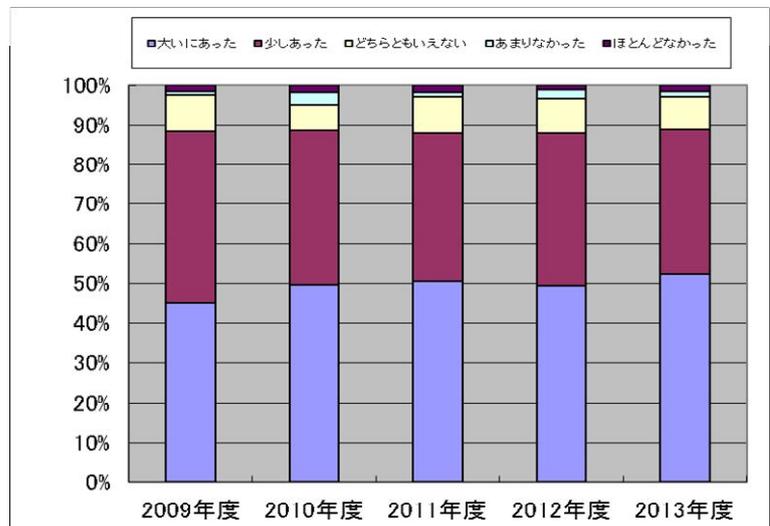
[2-2]工学基礎科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（数学、物理学、化学、情報関連基礎科目）

前問と同様、ここ数年来の傾向に変化は極めて少なく、(大いにあった+少しあった)と回答した者の割合が80%と高い水準で維持されている。逆に効果を否定的に評価した者の割合はかなり少なく、これにより工学基礎科目の教育が望まれる内容・状況に維持されていると判断され、今後もこの状態が維持されれば望ましい。



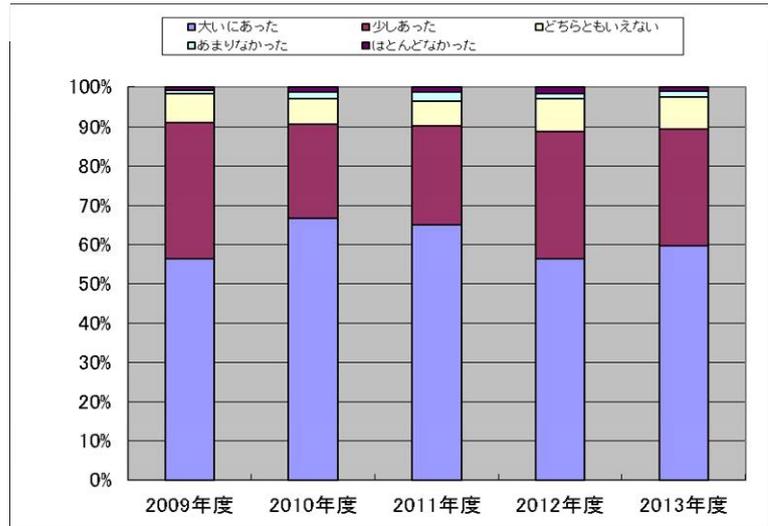
[2-3]工学専門科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

これまでも効果があったと回答した学生の割合は高く、本年度は約90%にも達しており、その中で大いにあったと回答した者も増加している。本学の工学専門科目教育がこのように、学生にとって充実した内容で実際に役立っていると感じてもらっていることは、極めて好ましいことであり、これが維持されることが望まれる。



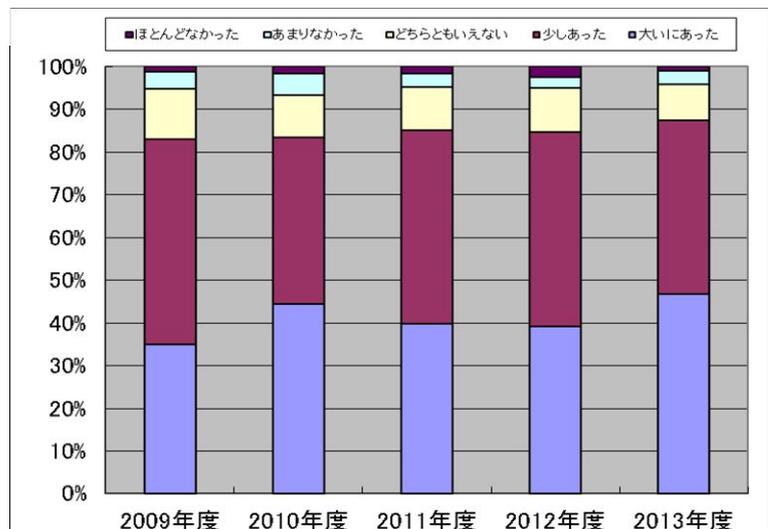
[2-4] 卒業研究はあなたの自己形成に効果がありましたか。

昨年、過去3年で大いに役立ったと回答したものが少し減っていることがやや気になったが、今年はそれが解消され、効果がない（あまりなかった＋ほとんどなかった）と回答した学生の割合は数パーセントにすぎず、大学に於ける卒業研究の意味が大きいことを裏付けている。



[2-5] 実験・実習・演習・製図はあなたの自己形成に効果がありましたか。

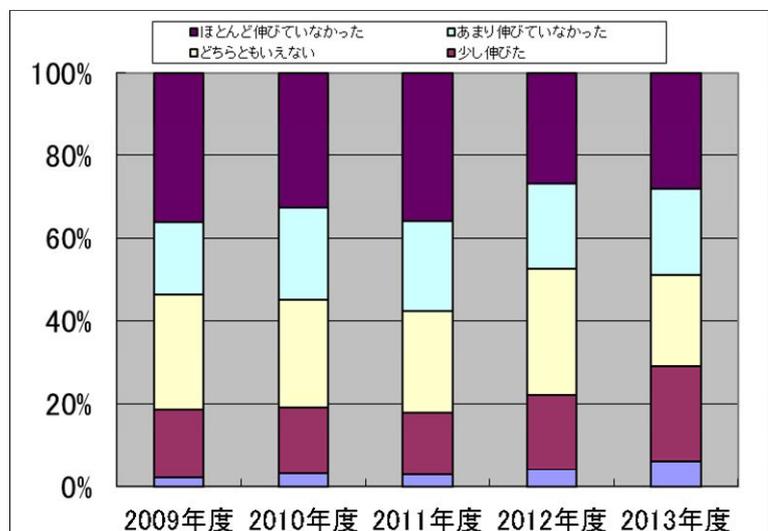
効果があった（大いにあった＋少しあった）と回答した学生の割合が前回にも増してさらに非常に高い水準を示している。これは工科系大学において重要な側面である実験や実習などの効果が大きいことの表れであり、この水準が今後も維持されることが願われる。



[3] 英語力についてお尋ねします。

[3-1] 大学の4年間であなたの英語力は伸びましたか。

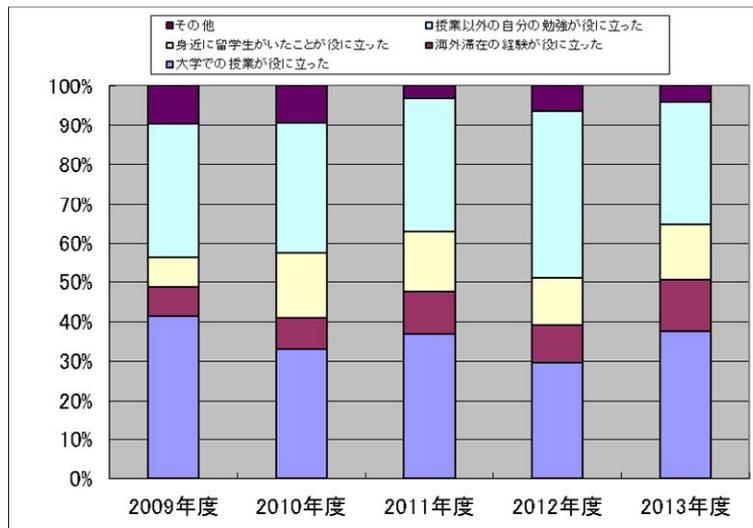
英語力が伸びたと感じている学生は徐々に増えてきていることは確かで、これは近年の英語教育の工夫などの表れであると思われるが、まだそう思わないと回答している学生が多い。大学では、英語学習に割くことのできる時間割合が少ないという現状、伸びたと実感するにはかなりな効果がないとそうは感じないことにも理由はあるが、持続的な教育改善が行われており、



徐々にその効果があらわれることを期待したい。

[3-2][3-1]でA（大いに伸びた）またはB（少し伸びた）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

大学での授業が役に立ったとの答えと、海外滞在の経験が役立ったとの答えの割合が増えている。これは、最近、英語教育において、大学がこれまでの一般的な講義以外の多様な選択肢を提供し始め、加えて自発的に自然に英語を身につけるような仕組みづくりも行われており、今後の結果かと思われ、今後、徐々に成果が出てくることの予兆ではないかと期待される。



E（その他） [具体的に]

- ・ 海外旅行時に少し使えた
- ・ 院試に向けての TOEIC 学習が役に立ちました。
- ・ 部活動、学習自治会などの活動
- ・ TOEIC の機械が増えたから
- ・ 研究室でのゼミ
- ・ 論文
- ・ 国際交流サークルに参加した

[3-3][3-1]でD（あまり伸びていない）またはE（ほとんど伸びていない）と答えた方：その理由は何ですか。

英語の習得には、英語に接する機会、時間数が多いことがどうしても求められるが、工学部では、専門科目の負担は非常に大きい分、英語の授業だけで全員の英語能力を伸ばすことには無理がある。それを補うには、休日などを利用しての独学ツールによるコンスタントな学習が必要になるが、実際はそれがやれる学生は多くない。専門科目において英語に触れ続けられる機会があれば、その分、別の時間を費やさずにかつ、将来彼らにとってより必要となる“エンジニアのための英語”が学べることとなるので、現在の方向の検討が成されており、多少なりとも効果があることを期したい。

- ・ 英語に触れる機会が少なかったため
- ・ 苦手意識があるからか、勉強しても頭に入っていない

- ・ 勉強不足
- ・ 授業時間が少なく、1,2年以降は復習をしなくなったのが原因
- ・ 勉強時間が短すぎたため
- ・ 英語に触れる機会が少なかった
- ・ 英語を集中的に学んだのは学部2年までだったため、その後ほとんど英語を勉強しなかったから
- ・ 英語力が伸びた実感がないため
- ・ 勉強はしたが能力が上がらなかった
- ・ 英語の授業を受けなかった。
- ・ 英語に対する意欲不足
- ・ 語学の勉強を怠っていたから
- ・ 実践的でなかったため
- ・ 英語が今でもよくわからないから。
- ・ 授業数が少ない
- ・ 高校の復習レベルの内容
- ・ 英語教育の機会が少なく、また授業のレベルが高くてついていけなかった。
- ・ 勉強不足
- ・ 英語にかかわる時間が少ない
- ・ 英語の授業以外であまり触れる機会がなかったため
- ・ 高校レベルの授業だから(あるいはそれ以下)
- ・ 英語論文などを読むときに過去に覚えていた単語を何度も調べていたから
- ・ TOEICの点数が変わっていない
- ・ 高校より英語に触れる時間が少なかった
- ・ 英語の勉強をしてないから、高校レベルが以下のことをしたいから
- ・ 1,2年以外で何も勉強しなかった
- ・ 英語に興味、関心があまり持てなかった
- ・ 授業以外で積極的に取り組む機会が少なかった
- ・ やる気がなかった。まず基礎がないから伸びない伸びないからやる気もでない
- ・ 英語の授業がほとんど無かったため
- ・ やらなかった
- ・ 学習意欲がたりなかった為
- ・ 勉強が足りなかった
- ・ あまり勉強していないから。
- ・ 講義以外での学習意欲がないと感じたから
- ・ 演習量の低下
- ・ 高校のときより勉強量が圧倒的に少ない
- ・ 高校時代に比べ英語の勉強時間が短い
- ・ 勉強しなかった為。
- ・ 2年生から英語の授業が少なかったから
- ・ 英語の自主勉強をしなかったから(英語に触れる機会が少ないため)
- ・ 週に一度しか授業がないため、高校の時よりも英語に接する機会が減った。

- ・あまり英語を使わなかったため
- ・英語を勉強する機会が減った。
- ・授業数を内容があまり良くない
- ・あまり英語に関わる機会がなかった
- ・全く勉強する機会がなかった。
- ・勉強不足のため
- ・勉強していないから
- ・英語の授業をとっていなかったから
- ・単語を少し覚えてただけど英語力は伸びていない
- ・英語授業の内容が高校よりもレベルが低いため
- ・授業が少ないし、レベルが低い
- ・英会話ができるようにならなければ意味がないと思うから
- ・学校の授業が高校英語レベルだったため
- ・高校受験程度の文法などを勉強するよりも、TOEIC などの内容でないとやる気が出ないから
- ・英語学習を積極定期にできなかった。
- ・英語の基礎科目が自分にとっては易しく、上級科目があったにも関わらず一つしか履修でていなかった為
- ・苦手意識が強く自ら積極的に勉強しなかった
- ・高校で習った範囲だったため
- ・講義でしか英語を勉強しなかったから
- ・高校の方が勉強していたから
- ・英語を使う場がない。少人数の会話形式の英語授業増やすべき
- ・使う機会もなく、3年からは授業もなかったのだ。
- ・自分の努力が足りなかった
- ・英語を使う機会がなかったから
- ・使う機会があまりなかった
- ・英語の授業がわかりにくかった
- ・英語に触れる機会が少なかったから
- ・内容が難しく理解できなかった
- ・英語に触れる機会が少ない
- ・資格(TOIEC)に向けて努力し試験を積極的に受けるべきだった。
- ・全部
- ・英語の勉強をあまりやらなかったから
- ・英語を使う機会がなかったため
- ・三年次以降英語に触れる機会が少ないため
- ・使う機会が少なかったため、忘れてしまった。
- ・実力
- ・英語を扱うことが少ない、授業内容が高校と大差ない
- ・高校のように受験で必要という具体的な目標がなかったため
- ・受験のような目標がなかったから、熱心に取り組まなかった
- ・自分にやる気がなかったから

- ・ 入試に科目として入っていないので、その段階で軽視されており、授業もセンターレベルで意味がない
- ・ 週一だから授業が
- ・ 3,4年で英語にまったく触れてなかったから。
- ・ TOEICにおいて1年次と4年次で点数が変わらなかった
- ・ 授業のレベルが高校以下だった為。
- ・ 英語力をどの基準で向上したと言っていいのか分からないが TOEIC のスコアなどはあまり上がらなかったから
- ・ 自分の努力が足りないだけです。英会話系の授業をしてほしいです。
- ・ あまり意味のない授業
- ・ 英語を実際に使う機会がないため
- ・ 英語の勉強をしていなかった
- ・ 実戦につながらない。TOEICがひどかった。
- ・ 本格的な教え方をされていない
- ・ 工学科目の方に力を入れていたので、英語はあまり勉強しなかった。
- ・ 授業量
- ・ 普段使わないから
- ・ 英語を使う時間が大学に入って減ったから
- ・ 英語を使う機会が少なかった
- ・ 英語に触れる機会が少なかった。
- ・ TOEICのスコアが下がった。高校の時の英語の授業の方がより高いレベルを目指していた。
- ・ 授業数が少ない
- ・ 高校より、勉強時間が減った。
- ・ 他の教科を優先していた。
- ・ レベルが低い。
- ・ 英語に触れる機会を作らなかったため。語彙力が大幅に低下した。
- ・ 個人で勉強をしていなかったから
- ・ 授業が高校の授業以下だったため
- ・ 大学の時より高校の方が学ぶ量が多かったから
- ・ 英語にふれる機会が少ないため
- ・ 現状維持しかしていないため
- ・ 高校生の時の方が勉強してたから
- ・ 教え方の下手さ、時間の少なさ
- ・ 英語科目を余り履修していなかった。
- ・ 英語に触れる機会が少ない
- ・ 機会がない
- ・ 高校までとすることが同じなのに授業量が少なくリスニングもあまりないから
- ・ 量が少ない
- ・ 伸びた実感がない
- ・ 高校ほど英語がハードではなかった。TOEIC対策など、特別な対策はなく、ただ単に単位が取ればよいという感じのやり方

- ・ つかわなかった。
- ・ 高校英語よりもレベルの低い講義で、かつ実戦的でもないため。
- ・ 英語を学ぶ機会が少なくなったため
- ・ 英語力を伸ばすような努力が少なかった。
- ・ 英語があまり好きじゃないから
- ・ 英語の授業はなかった
- ・ 4年間を通して英語に関わる時間が少なかったから
- ・ 語学の講義は必修であった2年次までしか受けておらず、その後はなかなか勉強する時間が確保できなかったから
- ・ 学ぶことをおこたったから
- ・ 英語にふれる機会があまりなかった。
- ・ 授業数が少なく、レベルも消して高くはなかったため。TOEICの受験も義務ではなかったため。
- ・ 英語に触れ合う機会が減ったから
- ・ 大学生活内で、英語を学ばなくてはならぬという危機感がなかった。必要に迫られないとやらない自己責任もある
- ・ 英語に苦手意識があり、授業に積極的でなかったから
- ・ 授業で力がつかなかった。自主勉強をしていない。
- ・ 高校レベルの英語しかしていないから(高校以下かもしれない)
- ・ 高校時より学習時間が少ないため
- ・ 英語に興味を持てなかった。
- ・ 授業のレベルが低い。
- ・ 授業以外の時間に、英語を勉強しようという意識がなかった。
- ・ 勉強を自主的にしなかった。授業は高校レベル以下
- ・ 大学1年間でしか英語の授業を受けてないから
- ・ 授業時間が少なすぎだから、伸びるはずがない
- ・ 英語を使う機会がなかったから
- ・ 英語を学習する機会が無かったから
- ・ 英語の時間が少ない
- ・ 高校までの授業の方が、もっと懸命に取り組んでいたから。
- ・ 自主的に取り組まなければならなかったが、意欲的に活動できなかったため
- ・ 授業があっても高校の時ほど、心身に教えてくれず、そのまま進むから
- ・ 授業の内容が高校とあまり変わらなかった
- ・ 授業は高校までのレベルで解くことが出来、TOEIC等を全く受けていないから
- ・ 英語に触れる機会が年々減っていたこと
- ・ 勉強しなかったから
- ・ 英語を使う機会がなかった。
- ・ 自身で取り組まなかった為
- ・ 長文に親しむ機会があまりなかった。
- ・ レベルが低い
- ・ 英語の授業レベルが低い

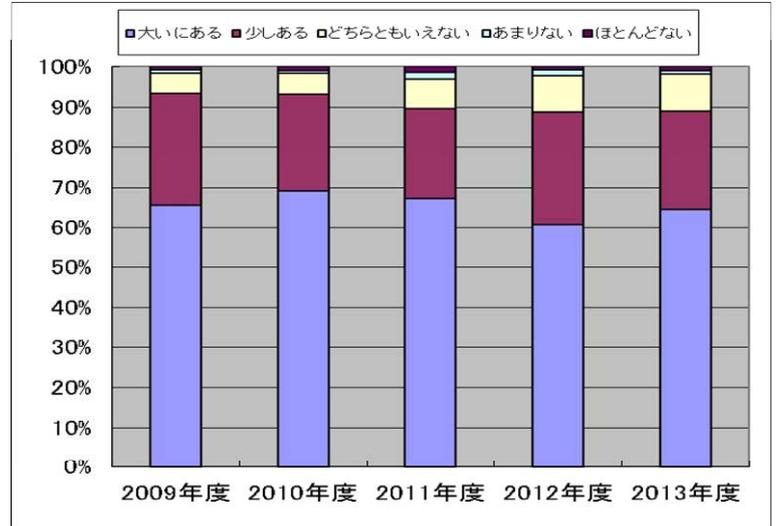
- ・ 授業がクラスでバラバラすぎる
- ・ 話す力には結びつかないから
- ・ 英語に接する機会が少なかった
- ・ 大学での英語の授業が少ない。
- ・ 外人と話す機会がない。
- ・ 英語が簡単すぎるのともっとTOEIC等、実用的な英語をしたかった
- ・ 忘れてしまう
- ・ 英語に興味が無い
- ・ 自身の努力不足
- ・ 英語の学習時間が以前より減ったため
- ・ 英語を勉強する機会が減ったから
- ・ 高校時と違い、英語にふれている時間が減った為
- ・ 学校の授業では難しいと思うが個別に実践的にする機会がないため
- ・ 勉強しなかった
- ・ 点数として目に見えた変化を得ることはなかった
- ・ 意欲の問題
- ・ 積極的に英語に関わろうとしなかったのもあるが、実感することはなかった
- ・ 文法をきっちりと復習できなかった
- ・ 精力的に取り組んでも英語力が伸びる内容でなかったから
- ・ 勉強量が減った
- ・ 勉強をあまりしていなかったため
- ・ 英語を身につけなければならないという意識が足りなかった
- ・ 英語の授業が足りなかった。
- ・ 自分自身にも問題はありますが、大学の雰囲気が悪いから
- ・ 勉強量の不足
- ・ 英語を話す機会がない
- ・ 英語に触れる機会が大学では少なかったから
- ・ 二次以降はあまり英語を勉強する機会が無かった
- ・ 使う機会が少なく忘れてしまう
- ・ 苦手意識が無くならなかった
- ・ TOEICの点数があまり伸びなかった
- ・ 3年以降英語の授業がなくなったので
- ・ 英語の勉強に力を入れなかった
- ・ 自己学習が足りませんでした。
- ・ 講義のあるときしか勉強してないから
- ・ 使う機会がなかったから
- ・ 英語の授業の延長みたいだった
- ・ 高校の時ほど英語に触れる機会がなかったから
- ・ 英語の授業が2年で終わってしまうから
- ・ 学部1,2年の授業のみでその後はあまり英語にふれる機会がなかった

- ・ 英語に触れる時間が減った
- ・ 週1しかないため
- ・ 授業数が少ない。

[4] 卒業研究についてお尋ねします。

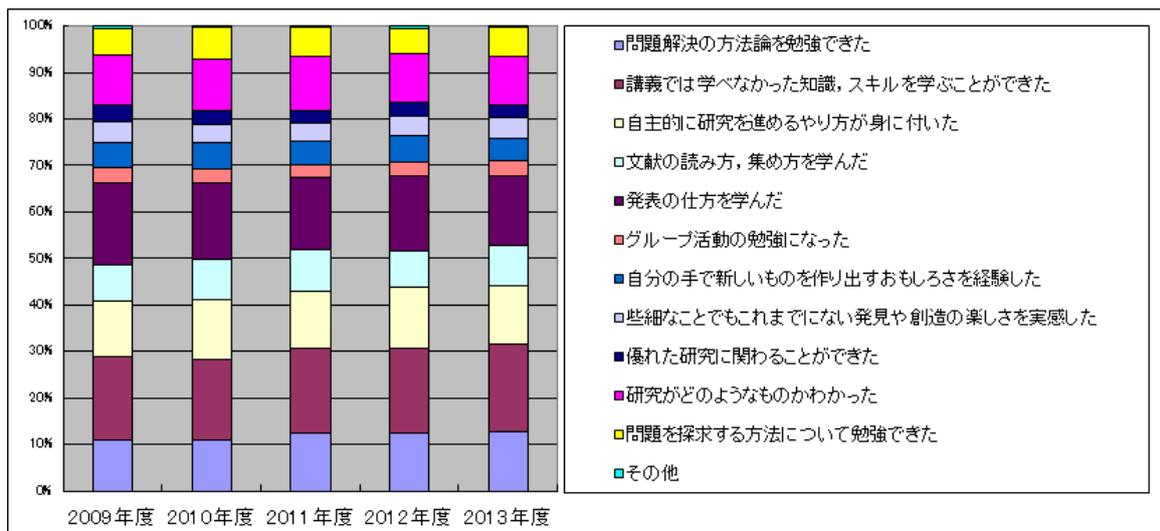
[4-1] 卒業研究の意義はあると思いますか。

卒業研究を（大いにある＋ある）と回答した学生の割合は、例年約90%程度と非常に高く維持されている。卒業研究の意義が高いものであることは、恐らくすべての教員の思いであろう。それは工学が、それまでの学んだ座学をもとに実際にどのように展開できるかを目的としたものであるから当然の帰結として反映されているためであろう。今後もこの状況が維持され、実践力の身についた学生を社会に送り出せるようこの傾向が維持されたい。



[4-2][4-1]でA（大いにある）またはB（少しある）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

卒業研究に対して、意義がある（大いにある＋ある）と回答した理由は、例年ほとんど変化はなく、講義では学べなかった知識・スキルが学べた、発表の仕方が学べた、問題解決方法論が学べた等が多く、他にも様々な理由を挙げている。工学部では多くの実践的・応用的な能力の向上を卒業研究を通じて得ることを目的としており、卒業研究を行うことがその目的にか敵っていることをこの回答は示している。



L（その他） [具体的に]

- ・ 先輩、先生との会話（交流）がためになった。
- ・ 上司からの圧力になれる方法を知った。罵詈雑言を浴びせられても平気なメンタルになった

- ・ 学会へ参加することができた
- ・ 結果がわからない実験ができたから

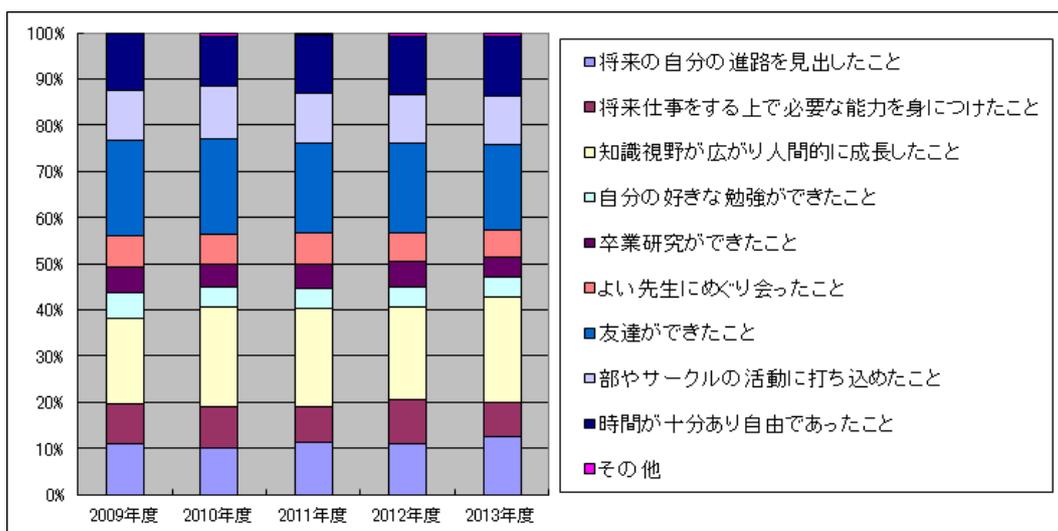
[4-3][4-1]で卒業研究の意義がD(あまりない)またはE(ほとんどない)と答えた方：その理由は何ですか。

毎年、僅かではあるが、卒業研究に意義がない(あまりない+ほとんどない)と回答する学生は必ずいるが、少数のこれらの学生をさらに減らすことは容易ではないであろう。何故なら、恐らくその理由が、自分自身の希望した研究テーマが思いのものと異なっていた等の理由で卒業研究を行う意欲が低くなってしまったことや、学生が研究テーマの意義を理解しようとしめない等が原因ではないかと推察されるからである。研究室配属方法の工夫等でこれを何とか低減する努力は必要であろうが、なかなか難しい問題である。

- ・ 先生が悪くストレスがたまった
- ・ 期間が短い
- ・ 自身が理解できない 教えてもらえない
- ・ 優れた研究に関わることが少なかった
- ・ やりたいこととちがうから
- ・ テーマにより難度に差がありすぎる
- ・ 1年じゃ研究のさわりしかやってない気がする。

[5]大学生活を振り返って、どのようなことがよかったですか。(複数回答可)

進路選択への意義、仕事従事への準備、良い友人や先生との出会い、知識や視野の広がり等々、大学生活の意義は各人多様であり、多面的でバランスの意義を彼らは感じている。この結果は、本学が提供している学業内容や学生生活に係る事項が、大学生活を全般的に有意義にさせる内容であることの証しであることを示しているものと思われ、心強い結果である。



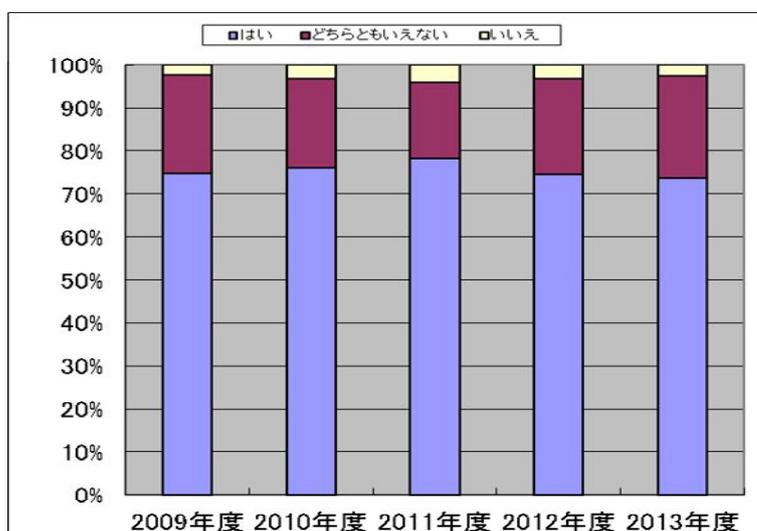
J (その他) [具体的に]

- ・ アイドルを好きになったこと
- ・ 筋トレができた
- ・ 留年したことが、思いがけずプラスになった。
- ・ 海外経験をすることが一番大きい
- ・ 中学校や高校のように、さまざまなしぼりがなかったこと。風期、クラスなど
- ・ 学外の人とも授業等を通して知りあえたこと
- ・ 社会に出らずにすむこと
- ・ 勉強とアルバイトの両立で、良い経験ができた。

[6]入学した学科についてお尋ねします。

[6-1]現在の学科に入学してよかったと思えますか。

入学した学科について良かったと思った学生の割合が今回も3/4もいるという現況は、必ずしも希望の大学ではなかったかもしれないことや、入った学科も希望の学科ではなかった物もいることを考えれば、学生たちが現在の学科の教育内容などにも十分満足していることを示していると判断される、今後もこの傾向を維持できるよう教員の努力が期待される。



[6-2][6-1]でC(いいえ)と答えた方：その理由は何ですか。

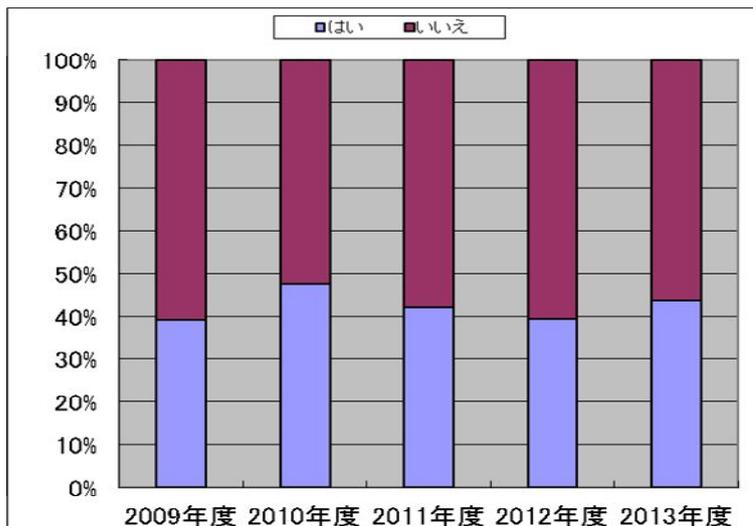
受験だけを基準として学科選びをしたり、その学科のことをよく知らないまま入学してしまったことなどが、いいえと答えることの理由の根本にあるようである。したがって受験の時点での判断は重要であることを、高校などで知らせてもらうことも大事である。他方、入試やコース配属方法などで弾力的運用をしてこれに対応する方法もあろうが、その方法については慎重に選択しないと、むしろ逆作用が生じる可能性があるので注意が必要である。

- ・ 他人の薦めで学科を決めた為、学ぶ姿勢に影響が出た為
- ・ 入試の結果で第2志望の今の学科に入ったが、本当に興味がわからない学科だったから
- ・ 職種が、将来の視野が狭い
- ・ 自分に能力がないということがよく分かった。試験で点数を取れない人間はダメだという風潮が嫌になった。自分の人間性を否定されたような感じがした。
- ・ 他の学科に比べて、進学のしやすさ、また就職のしやすさが難しめであるから
- ・ 4年間でやりたいことが変わったから
- ・ 入学してから社会学や経済学に興味ができたから
- ・ 女性生徒が圧倒的に少なく、モチベーションが下がる

[7]入学時の目標の達成についてお尋ねします。

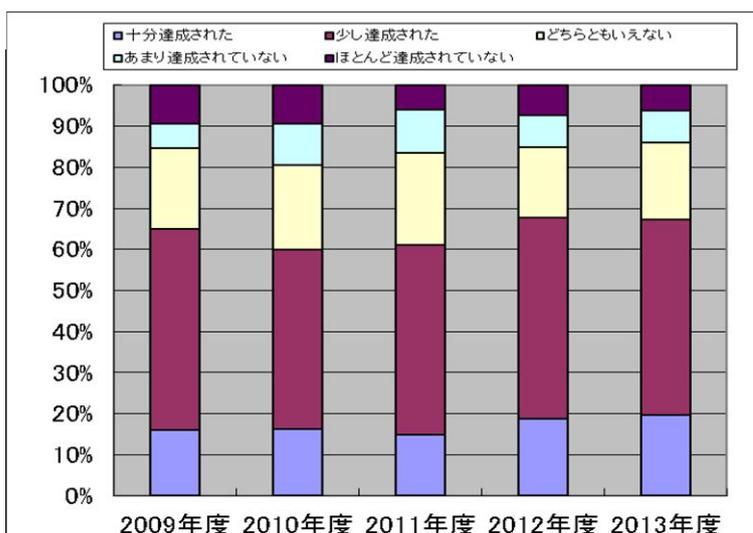
[7-1]あなたは入学の時に大学で達成したい目標がありましたか。

目標設定をどうとらえるかは個人の考え方や目的意識レベルにも依るので、この数字をどう捉えるかは容易ではないが、過去5年間では例年約40%の学生が入学時に達成したい目標を持っているに過ぎない。諸外国に比して、日本人は概して強い目的を持たない／表明しない傾向にあるとも聞くので、安易な判断は出来ないが、目的や目標を設定することの必要性がもう少し強調された教育が幼少期から必要なのかもしれない。



[7-2][7-1]でA (はい) と答えた方、それは現在どの程度達成されていますか。

過去5年間ともそれなりに達成された(十分達成された+少し達成された)と感じている学生の割合が2/3程度いることは、どの程度の目標を設定しているかにもよるが、就職などを含め高い到達目標を設定したものがいるであろうことを思えば、かなり良い結果であり、本学の教育が彼らの努力を实らせるに足る有用なものであったと判断される。



[8]在学中の学生生活の満足度に対して100点満点で点を付けるとすれば何点と思いますか。

ここ数年、数値にほとんど変化はなく、彼らの満足度は70点近くが維持されている。満足度はむしろ希望が高いことで低く出がちと思われるが、70点という点数はけっこうな高水準とも理解される。教員は学生とともに引き続きこの点数を維持・向上できるように努めることが望まれる。

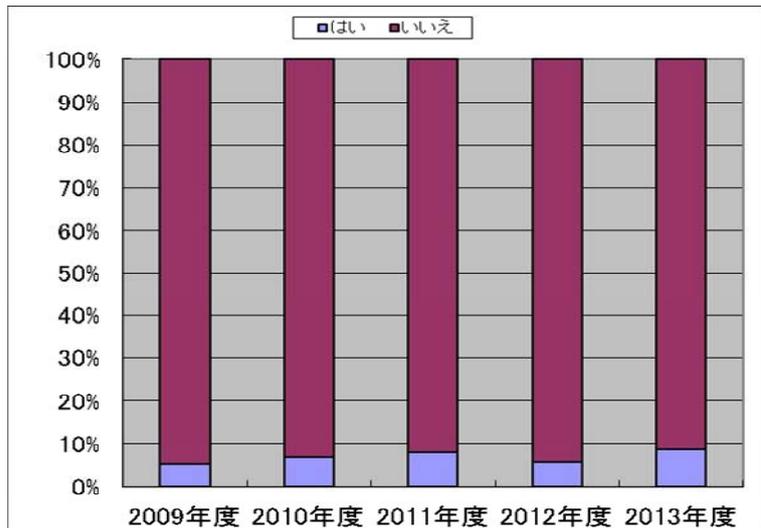


[9]卒業により取得予定の資格についてお答え下さい。

(本学の教育目標に適合しない資格(自動車免許等)は除外します。)

[9-1]あなたは教員免許取得を目標としていましたか。

教員免許の取得を目的としている学生の割合はずっと10%を下回るレベルで推移している。本学の卒業生は、当初からエンジニアを目指している場合が殆どであり、教員免許を取得し、教員になることを目的に入学する者の数はもともとそれほど多くないことは自然なことと思われる。しかし教員取得希望を持っている者がこの程度はいるということも認識はしておかなくてはならない。



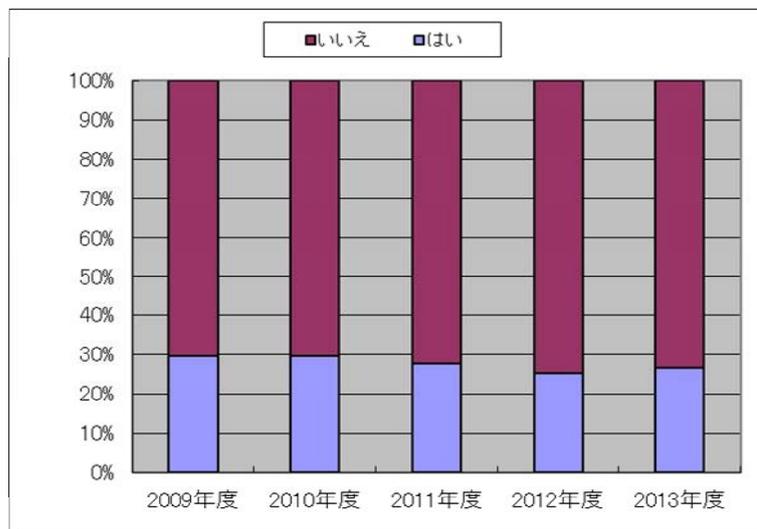
[9-2]教員免許（数学）が可能でしたら、あなたは取得を希望しましたか。

当初から数学教員になりたくて彼らが本学に入学したとは思えないが、今回の調査でも、数学教員免許取得が可能ならば希望したと答える者は30%弱程度いた。可能であったとしても、皆、取得したとは思えないが、このような回答があったことを把握した上で、数学教員免許取得が可能とするカリキュラムを導入するののかについては検討の余地はある。



[9-3]あなたは卒業後資格（教員免許を除く）を取得する予定ですか。

彼らの就職先の業務との関連で取得を連想してこのように考えているのであろうと想像する。多岐にわたるいずれのエンジニアの分野でも、資格を得ることが必須であったり、昇進に有利であったりすることは、恐らく彼らも意識しているところから、このような30%程度の結果が出たのではないかとと思われる。



[9-4] [9-3]でA（はい）と答えた方：どのような資格を取得する予定ですか。

自分が就職する会社の分野や業務内容をもとに、資格の取得について彼らなりに考えているようである。

- ・ TOEIC/TOEFL
- ・ 自分で働いていく中で必要だと感じた資格を取る予定です。
- ・ 就職先で必要になる物
- ・ 弁理士
- ・ 簿記、医療事務
- ・ 入社後、必要であれば
- ・ 情報処理
- ・ 危険物取扱など
- ・ とれそうな資格をかたっぱしに
- ・ 情報処理

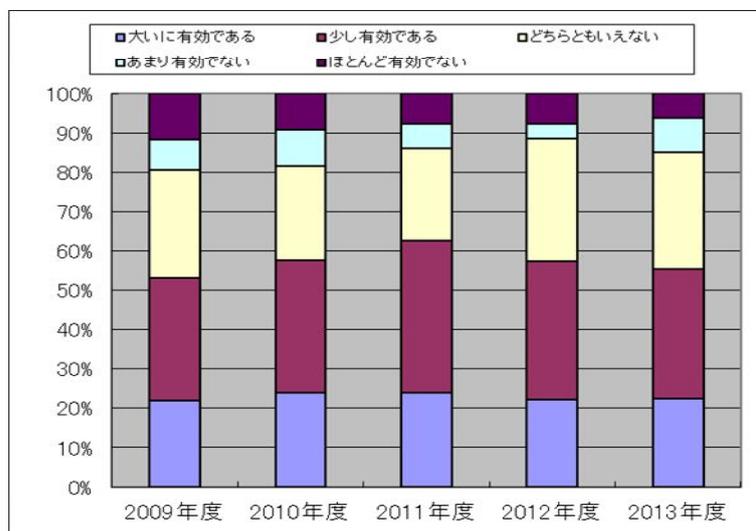
- ・ 宅地建物取引主任者、旅行業務取扱管理者
- ・ 情報処理に関する資格
- ・ 危険物取り扱い者試験
- ・ 一陸技
- ・ 第一級陸上特殊無線技士
- ・ 情報処理に関する資格
- ・ 電気主任技術者
- ・ 未定
- ・ 電気主任技術者
- ・ 未定
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電気主任技術者、電気工事士、技術士、電気工事施工管理技士
- ・ 技能技術士
- ・ 電気主任技術者試験
- ・ 基本情報技術者基礎
- ・ 陸上無線免許
- ・ 電検 1.2.3 種
- ・ 電検
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電験
- ・ 電検
- ・ 電験3種
- ・ 第一陸上無線技術士
- ・ 取得単位によって試験が免除される資格
- ・ 所定の科目を習得すれば申請により取得できる資格
- ・ 1 陸(無線)
- ・ 電験三種
- ・ 電気主任技術者、危険物、ボイラー技士、電気工事士
- ・ ボイラー2級、電験 3 種
- ・ 電験三種、ボイラー
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電験 3 種、2 種
- ・ 電験 3 種
- ・ 基本情報技術者
- ・ 電験Ⅲ種など
- ・ 気象予報士、色彩検定
- ・ 技術士、工事担任者

- ・ ソムリエ
- ・ 役に立つもの
- ・ 基本情報技術者、応用情報技術者
- ・ 電験
- ・ 基本・応用情報処理技術者
- ・ PC関連の検定資格
- ・ 甲種危険物取扱者
- ・ 派遣業務部長
- ・ 建築士 2 級等、企業に入社後必要をなる資格を取得する予定です。
- ・ 就職する会社で必要な資格を取ります
- ・ JABEE
- ・ 危険物取扱者
- ・ 英検、漢検
- ・ 技術士
- ・ 技術士(建設部門)
- ・ 二級建築士、学芸員
- ・ 建築士
- ・ 建築士
- ・ 技術士
- ・ 会社で受験をすすめられている基礎設計士・補の資格です。
- ・ 未定
- ・ 二級建築士、一級建築士
- ・ 二級建築士
- ・ 建築士等
- ・ 一級建築士
- ・ 土木管理施工技士
- ・ 技術士
- ・ 技術士
- ・ 施工管理技士
- ・ 技術士
- ・ 技術士、土木施工管理士等
- ・ 宅地建物取引主任者、2級建築士
- ・ 土木分野に関するもの、土木施工管理技士など
- ・ 施工管理士
- ・ 技術士
- ・ 技術士
- ・ 電気技師等の設備業務に必要な資格
- ・ 一級建築士
- ・ 一級建築士
- ・ 二級建築士

- ・ 技術士
- ・ 未定
- ・ 技術士、危険物取扱者
- ・ 技術士
- ・ 技術士
- ・ 技術士
- ・ 核燃料取扱主任者
- ・ 技術士
- ・ 仕事にあった資格
- ・ 第一級陸上特殊無線技士

[9-5][9-3]でA（はい）と答えた方：大学の授業は資格取得に有効ですか。

直接的に資格取得を目的に大学の授業を行っているわけではない中で、大学の授業を『大いに有効である』『少しは有効である』と考える学生の割合は 60%内外で推移していることは、大学で学ぶ内容が資格取得にも有用的に関連していると認識されている妥当な結果であろう。資格取得をより意識した授業内容にするのかは議論が必要である。



[9-6][9-5]でD（あまり有効でない）またはE（ほとんど有効でない）と答えた方：その理由は何ですか。

学生の希望する取得資格に大きな幅があるため、たくさんの資格に直接役立つような教育をすることは現実的ではない。まずは大学が提供すべきは資格に向けた対応ではなく、より普遍的で重要な教育内容である。中には専門分野とは異なる資格の取得も希望として挙げる者もあり、教育内容と方向性が一致し、多くの強い希望の資格が求められた場合には対応を検討すれば良いであろう。

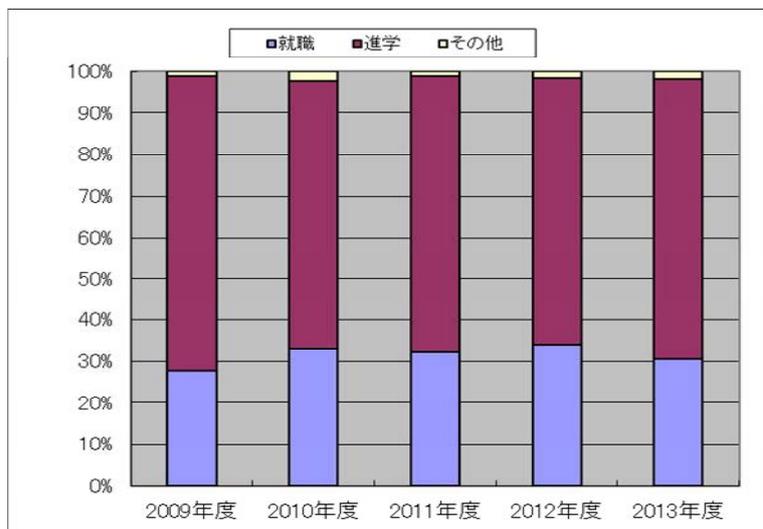
- ・ 3年以降に英語を学ぶ機会が無くなるため
- ・ 関係がないものだから
- ・ 全く専門と違う資格だから
- ・ 化学系の試験になるため。
- ・ 無線工学を学んでいないため。
- ・ 興味がないから
- ・ 自分の取得したい資格の授業がないから

- ・ 集中構議なのでやりたくなる
- ・ 範囲が広いので試験範囲をカバーできていない
- ・ 集中講義が多い
- ・ 資格との関連性が無い為
- ・ 資格を取得する機会がなかった為
- ・ 資格に直結している講義があるのかもよく分からない。
- ・ 有効となるような資格を把握していないから
- ・ 授業で扱わないことが多い(建築計画)
- ・ 資格取得に結びつく授業ではないから。
- ・ 今の研究室は取りたい資格とは少し違う分野であるから
- ・ 入った学科では授業で学ばない分野に入った。
- ・ 専門科目が少なすぎる
- ・ 実務が必要なため

[10] 卒業後の進路についてお尋ねします。

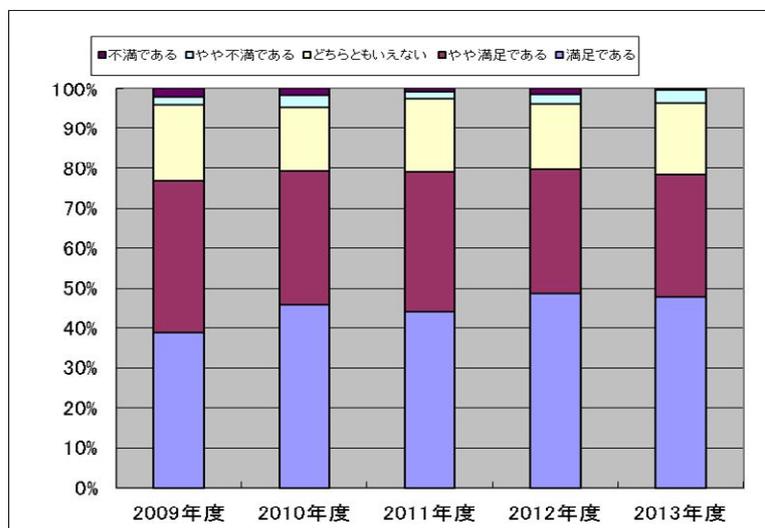
[10-1] あなたは卒業後就職しますか、進学しますか。

若干の変動は見られるものの、進学率は約 70%で推移している。



[10-2] あなたは卒業後の進路に満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とした回答が、80%近くあり、高い満足度を保っている。



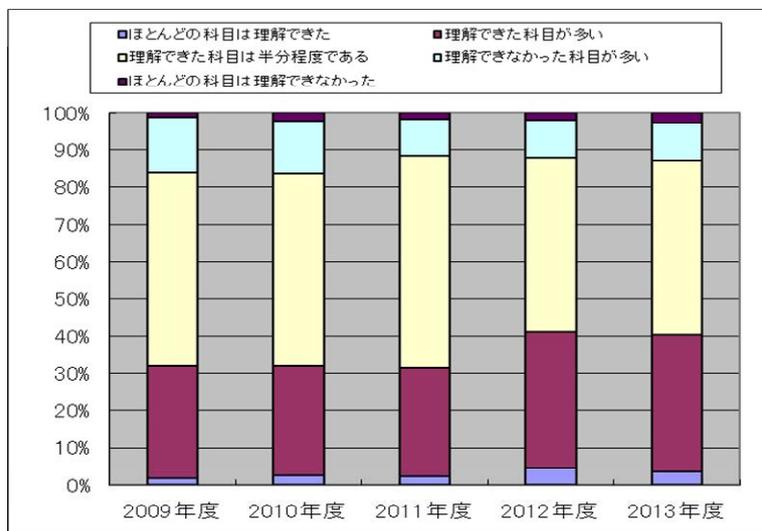
[10-3][10-2]でD（やや不満である）またはE（不満である）と答えた方：その理由は何ですか。

様々な思いが見られるが、自分の希望通りにいかなかったことを挙げるものが多い。

- ・ お金を払って土日休む暇なく勉強するよりお金をもらって週 5 日で働くほうがよっぽどいい
- ・ 第一志望ではないため。
- ・ 卒業研究を進めていく中で、どうしても研究を好きになることができなかったため、地元就職しておけば良かったと思ったから。
- ・ 勉強嫌いの自分がなぜ進学を希望したのか
- ・ 希望したところではないので
- ・ 考えが変わったため
- ・ 研究室
- ・ 自分の進学したい所ではなかったから。工学府に進学したかった
- ・ まわりのレベルが低いから
- ・ 本来なら就職するつもりだった。第一希望の大学院に合格できなかった。
- ・ 就職したかったため
- ・ 先輩との関係
- ・ 進学して修士号を取りたかった。
- ・ 目標としていた進路を達成できなかった
- ・ よく考えると他の選択肢もあったのかもしれない
- ・ 進路

[11] これまでに受講した科目の理解度はどの程度ですか。

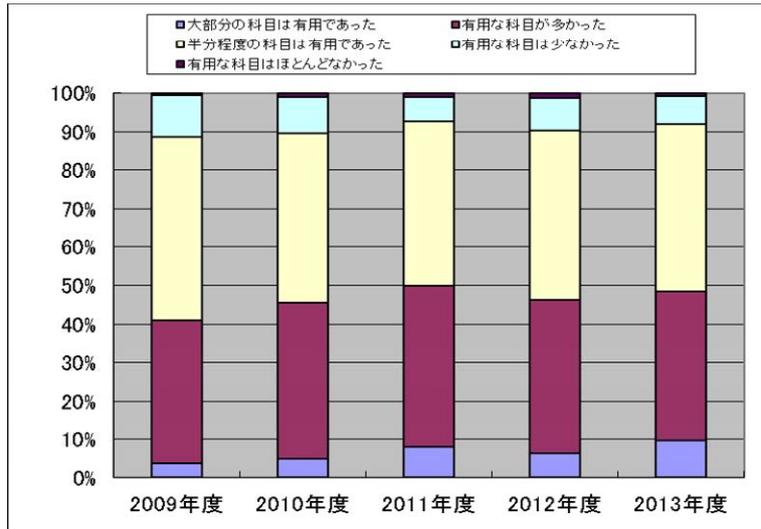
「ほとんどの科目は理解できた」または「理解できた科目が多い」とした回答が、2012 年度以降増加している。



[12]履修価値のあった科目の割合についてお尋ねします。

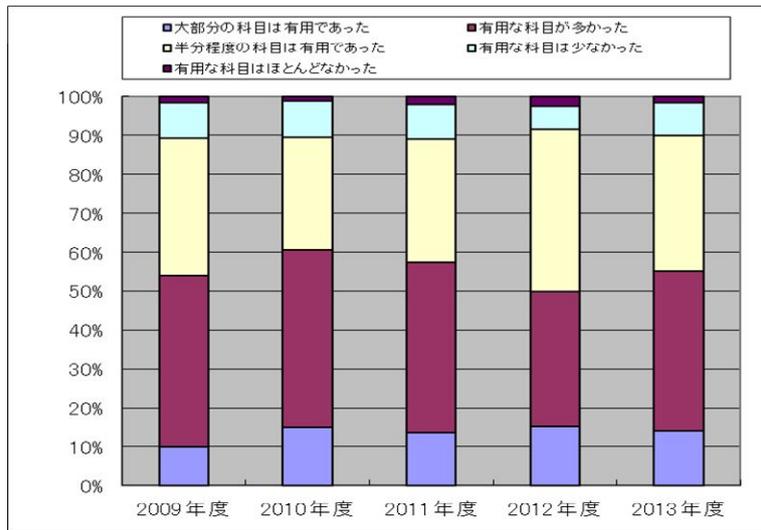
[12-1]受講した講義科目（演習科目を含む）の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

若干であるが、2012年度には「有用な科目はほとんどなかった」または「有用な科目は少なかった」とする回答が増え、「大部分の科目は有用であった」とする回答が減少したが、2013年度には改善した。今後の動向に注意する必要がある。



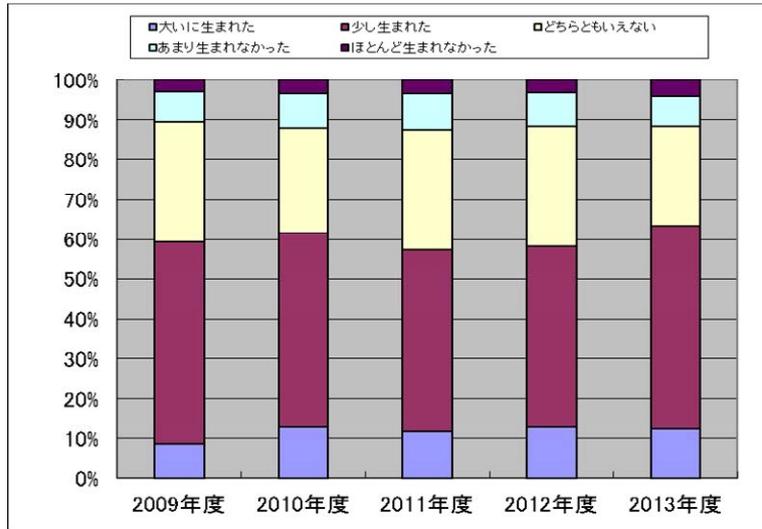
[12-2]受講した実験・実習科目の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

「有用な科目はほとんどなかった」または「有用な科目は少なかった」とする回答は、約10%で推移している。一方、「大部分の科目は有用であった」は15%程度を保っている。「有用な科目が多かった」とする回答は2012年度に減少したが、2013年度は増加した。今後の動向に注意する必要がある。



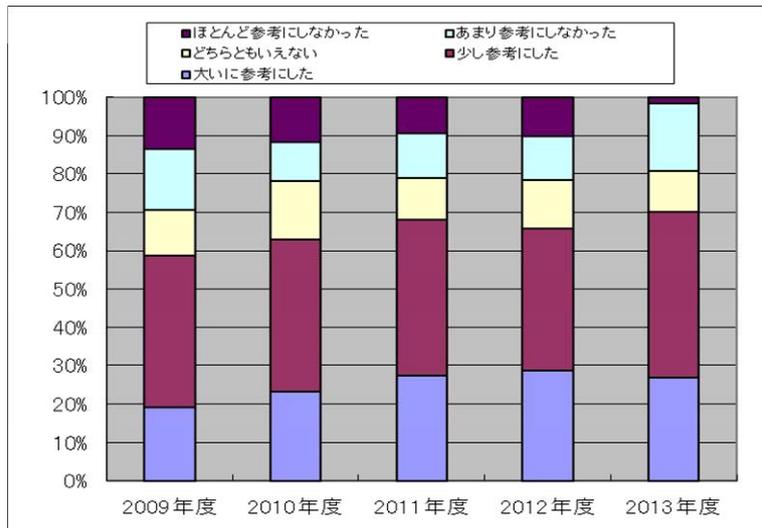
[13]大学における教育により、将来への自信や意欲が生まれましたか。

大きな変化は見られないものの、2013年度、「大いに生まれた」または「少し生まれた」とする回答の増加が認められる。



[14]講義科目を選択する際に、シラバスを参考にしましたか。

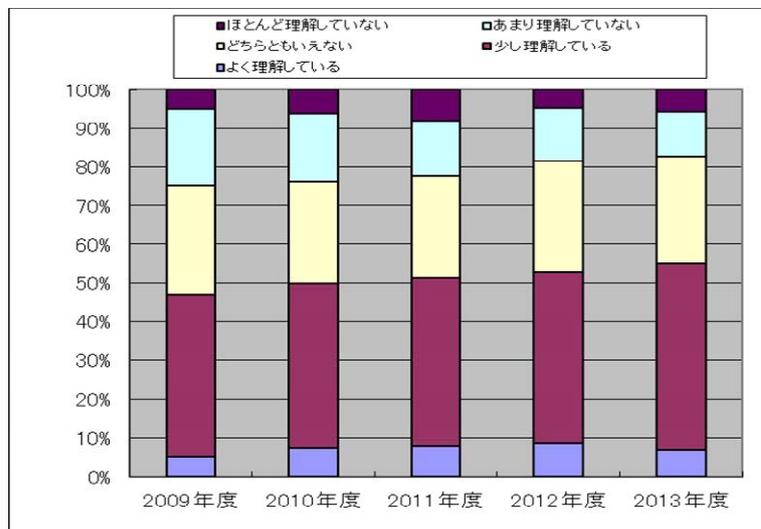
2013年度、「ほとんど参考にしなかった」「あまり参考にしなかった」とする回答数の和はあまり変わっていないが、前者が大きく減少したのが目立つ。「大いに参考にした」は多少減少したが、「少し参考にした」との和は増加しており、改善傾向にあると考えられる。



[15]カリキュラムについてお尋ねします。

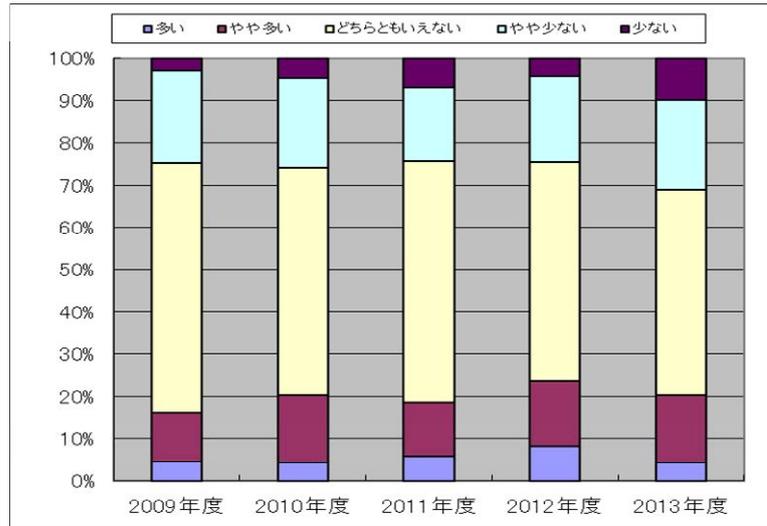
[15-1]カリキュラムの中で、科目間のつながりを理解していますか。

「ほとんど理解していない」または「あまり理解していない」とする回答は徐々に減少し、2012年度から20%を下回っている。一方で、「少し理解している」または「よく理解している」とする回答は増加傾向にあり、50%を超えている。



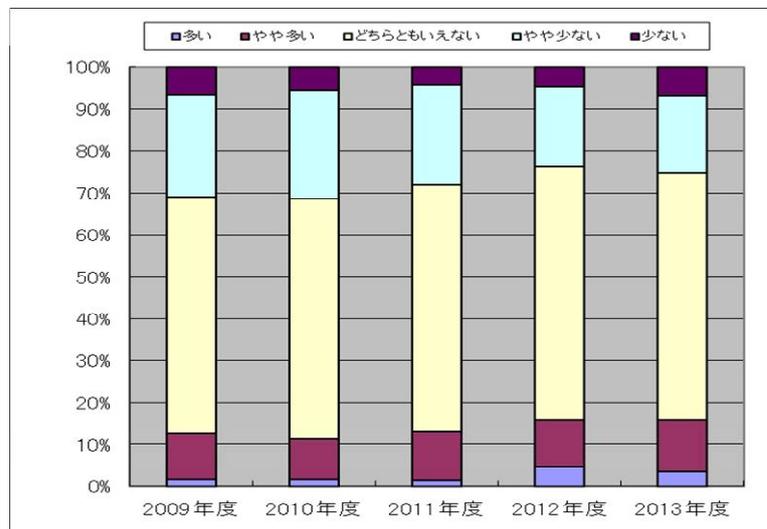
[15-2]カリキュラムの中で、実験・実習科目の比重は多いと感じますか、少ないと感じますか。

「少ない」または「やや少ない」とする回答は、25%程度で推移していたが、2013年度は30%を超えた。「やや多い」または「多い」とする回答は2012年度に増加したが、2013年度には減少した。



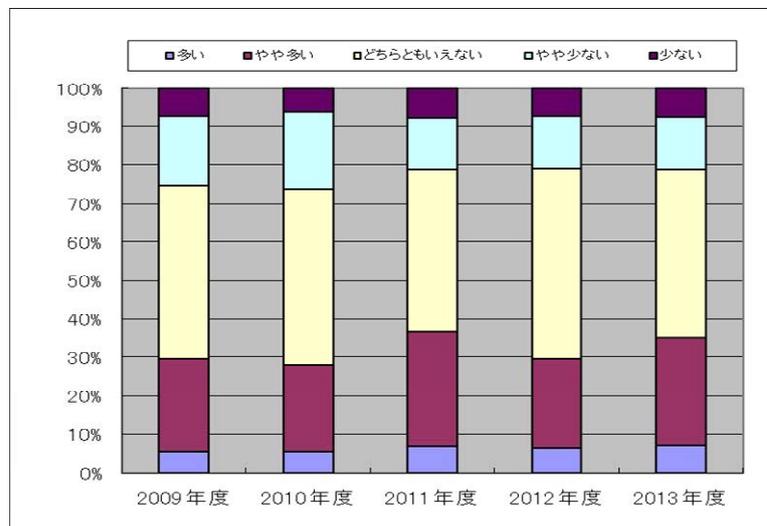
[15-3]カリキュラムの中で、演習時間の比重は多いと感じますか、少ないと感じますか。

2013年度は2012年度とほぼ同じ結果となった。2011年度以前に比して、「少ない」または「やや少ない」とする回答は減少し、「多い」または「やや多い」とする回答は増加している。「どちらともいえない」が、継続的に過半数を占めている。



[16]受講した科目全般について、教育への熱意があった担当教員の割合はどの程度ですか。

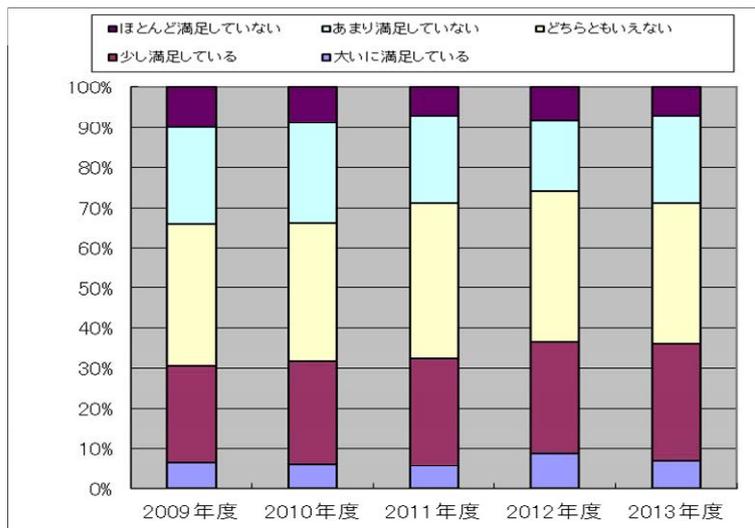
変動はあるものの、「多い」または「やや多い」とする回答が30%前後、「やや少ない」または「少ない」とする回答が20%程度で推移している。



[17]成績評価についてお尋ねします。

[17-1]成績評価（秀、優・良・可・不合格・未履修）に満足していますか。

2013年度の結果は、2012年度と大きな差はない。「大いに満足」または「少し満足」とする回答は約35%、「あまり満足していない」または「ほとんど満足していない」とする回答は30%弱である。



[17-2][17-1]でD（あまり満足していない）またはE（ほとんど満足していない）と答えた方：その理由は何ですか。

種々の理由が挙げられ、不満も記されている。自己反省的なことが多い。

- ・ 勉強不足
- ・ 勉強不足
- ・ 勉強不足
- ・ 思うように単位取得ができなかった
- ・ 4年後期まで授業を受けたこと
- ・ 成績が悪かったから
- ・ 成績が良くないから
- ・ 出席店の比重が高すぎるため正確な評価とは考えにくいから
- ・ 勉強不足
- ・ 勉強のための時間があまりとれなかった
- ・ 欠席などによる理由での減点が多く、生活態度次第でもっとよい成績が狙えたと思うから
- ・ 勉強不足であったから
- ・ 成績が悪かったから
- ・ 留年したため
- ・ 点数不足
- ・ 進学の際、推薦がもらえなかったため
- ・ もっと勉強出来たと思う為
- ・ 単位を落とした科目があるため
- ・ バイトに専念していたから
- ・ もう少し勉強していればよかった
- ・ 60点が多い
- ・ 高い評価が得られた科目が少ない
- ・ 成績が良くない
- ・ 授業に欠席しがちだったため(きちんと勉強すればよかった)

- ・ 一生けんめいでなかった。
- ・ 低い
- ・ 結果がわるかったから
- ・ もっと勉強しておけばよかったと思っている
- ・ 学籍番号によって同じ授業でも成績や難易度に差が生じた為
- ・ 成績の付け方や授業の難しさが学籍番号によるクラスの振り分けによって大きく左右されるため
- ・ 自主勉強時間が少なかった
- ・ 学ぶ機会が少なかった為
- ・ もっと出来たと思う
- ・ もっと勉強したら良かったと思っているから。
- ・ 勉強不足
- ・ 努力が足りなかったから
- ・ もう少し良い成績をとりたかった
- ・ 勉強に対するモチベーションの低下
- ・ もう少し深く勉強できたと思う
- ・ 推薦を取れなかったから
- ・ 居眠りなどで自分の中に取り込めなかった科目が少なくなかった
- ・ 良い成績を納めた訳ではないから
- ・ 平等に評価されていないから
- ・ 不可が多いから
- ・ 今思えば、単位取得しか考えていなかったの
- ・ もっとがんばれた
- ・ 一年次の成績が低く GPS が高くなかったため
- ・ 良くなかったから
- ・ ギリギリの点数で単位をとってしまったため
- ・ 入学時に 4 年後のビジョンが見えていなかったため、1、2 年次は、あまり成績にこだわりがなかった
- ・ GPAが低かったなあとと思う。
- ・ GPAが 3 以下
- ・ もっといい成績がとれたはず
- ・ やればもっとできたと思う
- ・ 本気で勉強に取り組んでいなかった。
- ・ 良い成績でない為。振り返った今、非常に後悔する内容であった為。
- ・ 単位はとれたが、内容を理解していないから
- ・ 可ばかりだから
- ・ 2 年生時にだらけてしまい、もう少し勉強しておけばよかったと感じるため
- ・ もっとやれたと思う。
- ・ 授業に出席せずに過去問かプリントの丸暗記で点数さえ取れば勝ちというやり方に嫌気がさした。真面目にやる人がバカをみるシステム
- ・ 成績不優秀だったから。
- ・ 自分の勉強不足

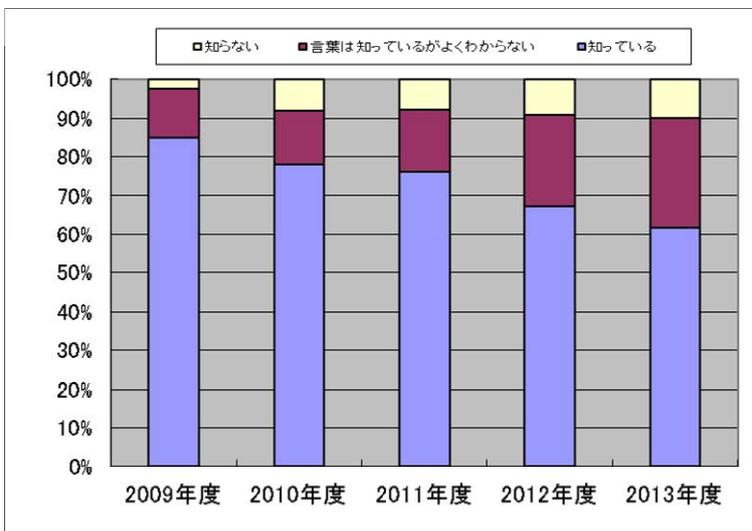
- ・ もっと上を目指せたはずだから
- ・ 不可などを取ってしまったこともあるから
- ・ 理解していなくても暗記で試験を乗り越えた経験があるため
- ・ 成績があまり良くないから
- ・ 思ったように成績が伸びなかった
- ・ 悪かったため
- ・ 悪かった為
- ・ もっと勉強すればよかった
- ・ 自己学習が大切であると気付いていたのにまったく勉強しなかったから
- ・ 根本的な部分を理解できていなかったから
- ・ 勉強しなかったから
- ・ 勉強量が足りなかった
- ・ 自身の取り組み不足
- ・ 継続的な勉強ができなかった
- ・ 部活動に打ち込んでいたため
- ・ 点数が悪かった
- ・ 理不尽な点数の付け方(グループ科目で提出物も全て同一であったのに男女で差がつけられ、女子学生の高得点)があったこと
- ・ そんなに良くなかったため
- ・ 授業がつまらない
- ・ もっと勉強すればよかった
- ・ 努力次第でもっと向上したと思うから
- ・ 思った以上にGPAが上がらなかった。
- ・ 学業に対してなまけてしまう所があり、精進できなかったのです。
- ・ もっと努力できはず。自分に甘かった。
- ・ GPAが低い
- ・ 自分の勉強不足が目立つため
- ・ 勉強不足だったから
- ・ 勉強があまかった
- ・ 成績が想像以上に低いから、達成感がえられなかったから。
- ・ GPAに納得がいかない。
- ・ 中途半端な点数になった教科が多かった
- ・ 勉強しなかった
- ・ 結果でなく過程を評価されるため
- ・ シラバスにのせている評価の方法以外で勝手に成績をつける先生がいたので
- ・ 勉強不足
- ・ 可が1つか2つあったため。
- ・ あまり良い成績が取れなかった。
- ・ もう少し真面目に勉強すればよかった。
- ・ 留年

- ・ もう少し頑張ればよかった
- ・ 無駄に落とした科目があるから

[18] オフィスアワー（質問・相談時間）についてお尋ねします。

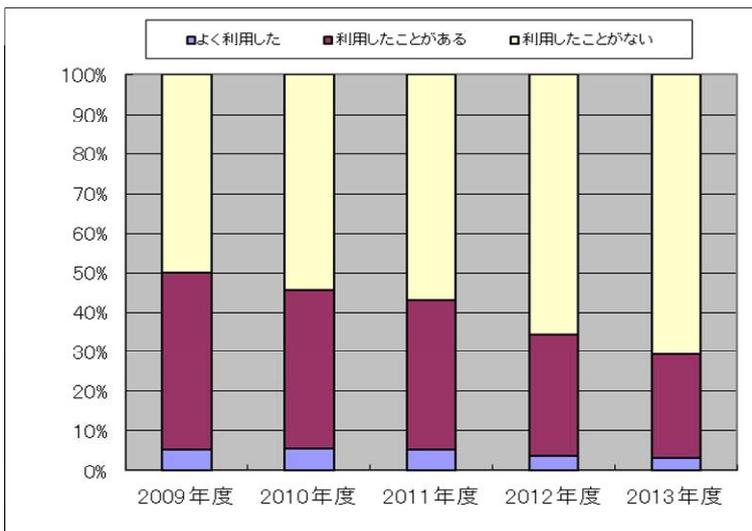
[18-1] オフィスアワーという制度を知っていますか。

「知っている」が多数を占めるが、その率は減少傾向にあり、「知らない」とする回答も10%程度ある。改善の余地がある。



[18-2] オフィスアワーを利用して、教員に質問した経験がありますか。

「よく利用した」または「利用したことがある」とする回答が徐々に減少し、「利用したことがない」が増加している。改善の余地がある。



[19]ティーチングアシスタント（TA）についてお尋ねします。

[19-1]ティーチングアシスタント（TA）という制度を知っていますか。

TA制度を「知っている」と回答した者が多数を占めており、認知度は十分高い。TA制度は定着していると考えられる。



[19-2]ティーチングアシスタント（TA）に指導してもらった経験がありますか。（複数回答可）

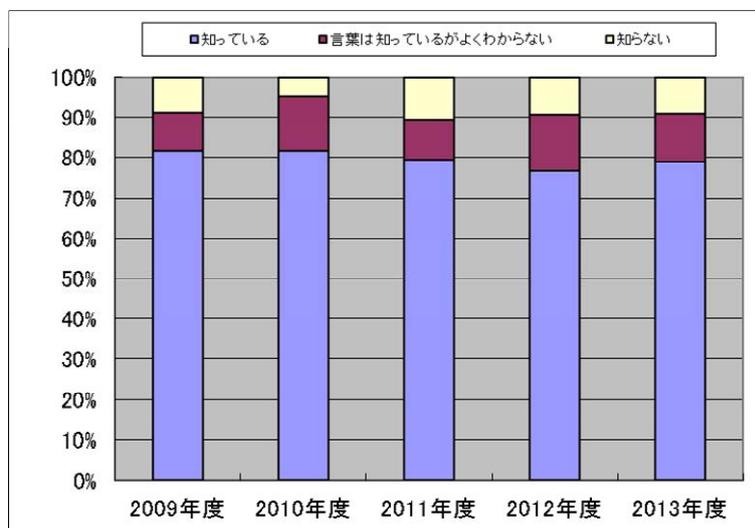
「演習」「実験・実習」「講義時間外」のいずれかで指導を受けたとする回答が90%を超えており、TA制度は定着している。



[20]指導教員制度についてお尋ねします。

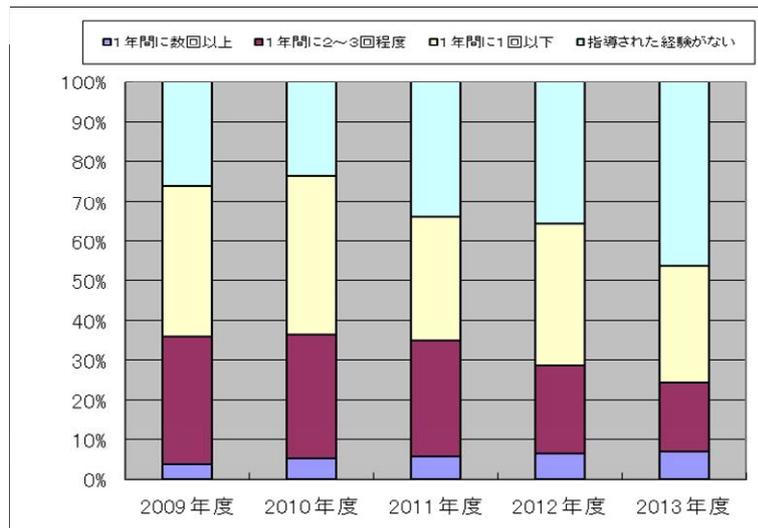
[20-1]指導教員制度を知っていますか。

「知っている」とする回答は、80%前後で推移している。一方で「知らない」、「言葉は知っているがよくわからない」の回答が20%程度ある。改善の余地がある。



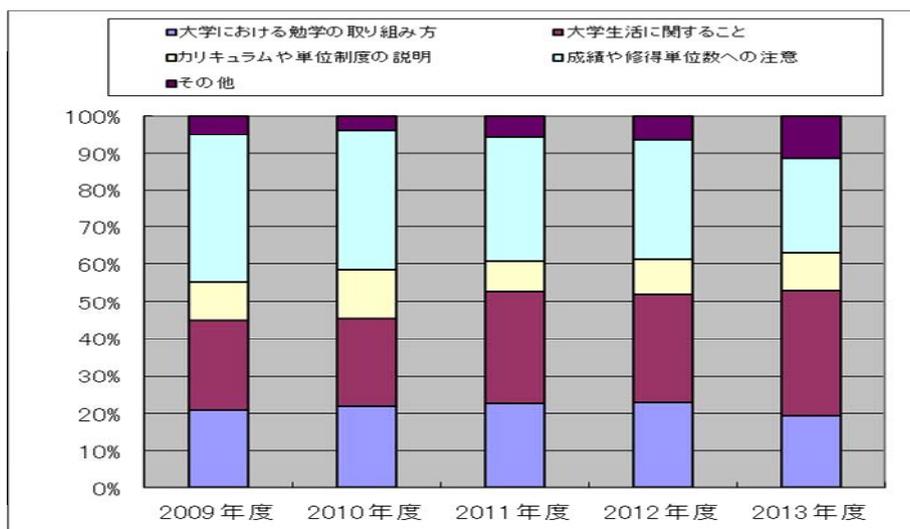
[20-2] 1年生から3年生の間に、指導教員から指導やガイダンスを受けた経験がありますか。(受けた経験のある方は、1年間の平均的な回数を答えて下さい。)

「指導された経験がない」との回答が、2011年度以降1/3を超え、2013年度はさらに増えた。改善の余地がある。



[20-3] [20-2]でA (1年間に数回以上)、B (1年間に2～3回程度)、C (1年間に1回以下) のいずれかを答えた方: 1年生から3年生の間に、指導教員から指導を受けた内容を答えて下さい。(複数回答可)

多岐に渡っているが、就活等の進路関係の内容が多い。



E (その他) [具体的に]

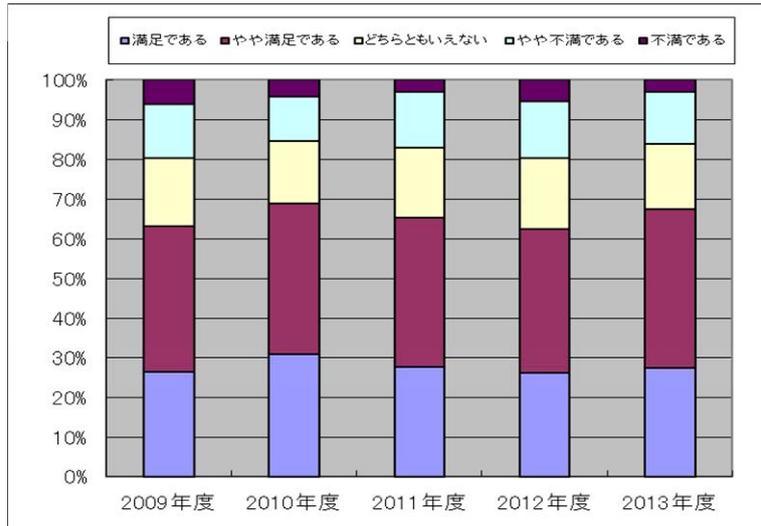
- ・ 就職活動
- ・ 覚えていません
- ・ 出席日数の少なさへの注意など
- ・ 就職活動について
- ・ 将来について
- ・ 覚えていない
- ・ 短期留学の申請のため
- ・ 就職活動について。
- ・ 奨学金について

- ・ 進学について
- ・ 就職について
- ・ 進路について
- ・ プレゼント
- ・ 覚えていない
- ・ 授業に無断欠席したから
- ・ 就職活動について
- ・ 卒業後の進路について
- ・ 卒業後のこと
- ・ 世間話(企業の関心など)
- ・ バイトをしていないにも関わらず成績が悪いことに対してバカにされる。
- ・ 就活や進学等の進路に関して
- ・ 就職活動について
- ・ 就職活動
- ・ 就活について
- ・ 私生活について
- ・ 卒業後の進路希望について
- ・ 就職活動について
- ・ 将来の進路について
- ・ 進路について
- ・ 将来のこと
- ・ 授業科目や進路の相談
- ・ 編入時の単位認単のこと
- ・ 面談を複数人で行い、大学生活全般にわたって問題はないかどうかと聞かれた程度。
- ・ 学校をやめた方が良いと言われた
- ・ 進路相談
- ・ 友人関係
- ・ 大学院進学について
- ・ 進路
- ・ 体調管理、インフルエンザへの注意喚起
- ・ 三年次などでも外国人先生の授業を増やしてほしかった。

[21]施設や設備等についてお尋ねします。

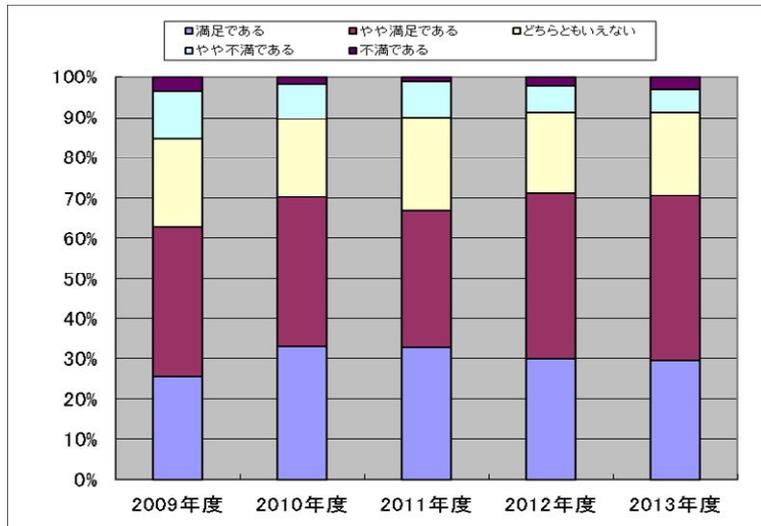
[21-1]教室の広さ、席数、明るさ等について、満足していますか。

「不満である」または「やや不満である」とする回答は10～20%、「満足である」または「やや満足である」とする回答は25～30%で変動はあるが、大きな変化は見られない。



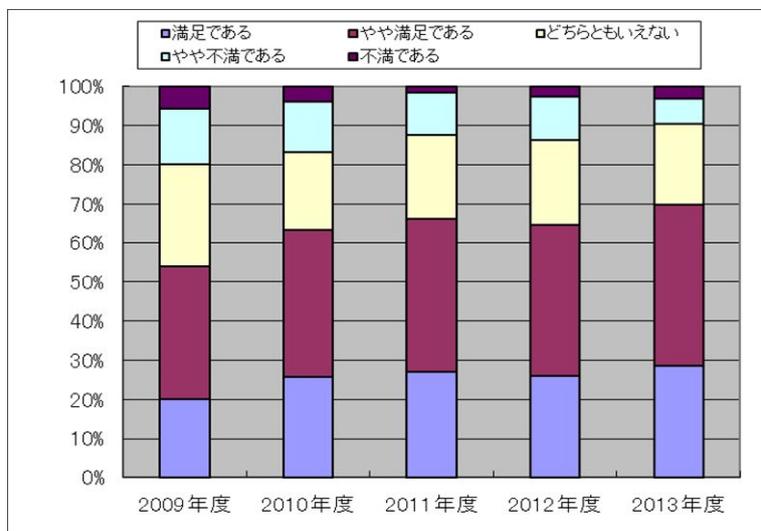
[21-2]必要な設備(マイク、OHP、プロジェクタ等)に満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とする回答は、2010年度以降70%程度で推移している。「やや不満である」または「不満である」とする回答は、2010年度以降、10%程度に留まっている。



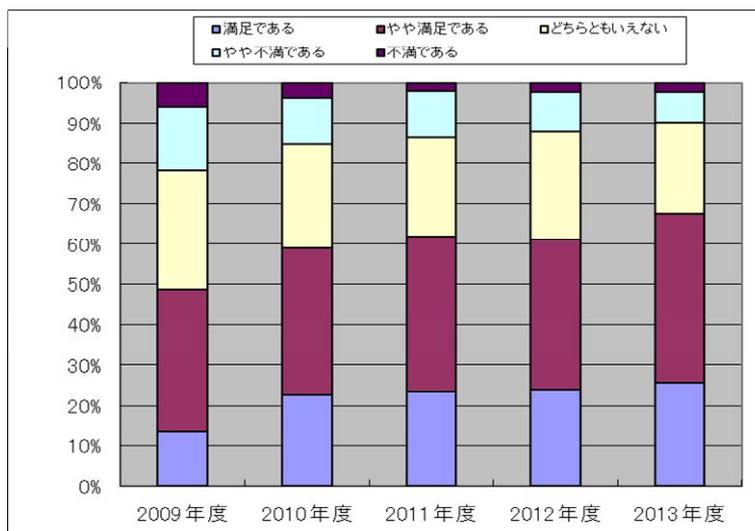
[21-3]1年生から3年生の間に利用した実験室・実習室の広さ、明るさ等について、満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とする回答は順調に増加し、2013年度は70%に達している。一方、「やや不満である」または「不満である」とする回答は10%に減少している。



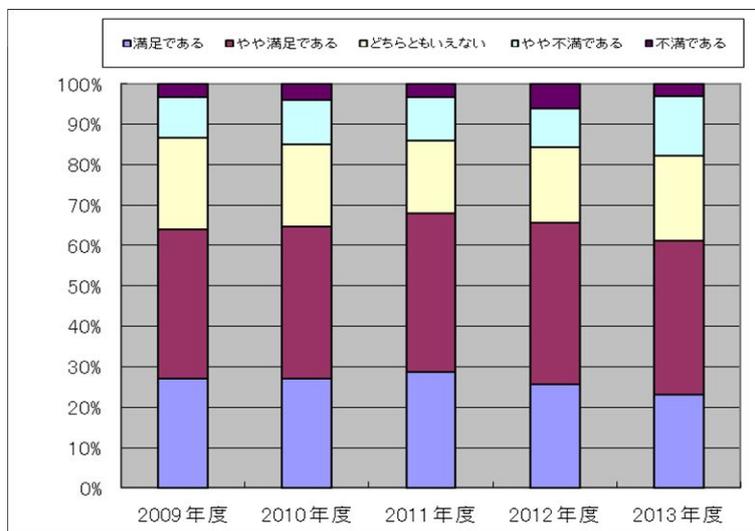
[21-4] 1年生から3年生の間に利用した実験・実習に必要な設備・装置について、満足していますか。

「満足である」「やや満足である」とする回答は順調に増加し、2010年度以降は60%前後で推移し、2013年度には70%近くに増えた。一方、「やや不満である」「不満である」は減少傾向にあり、2013年度には10%ほどになった。



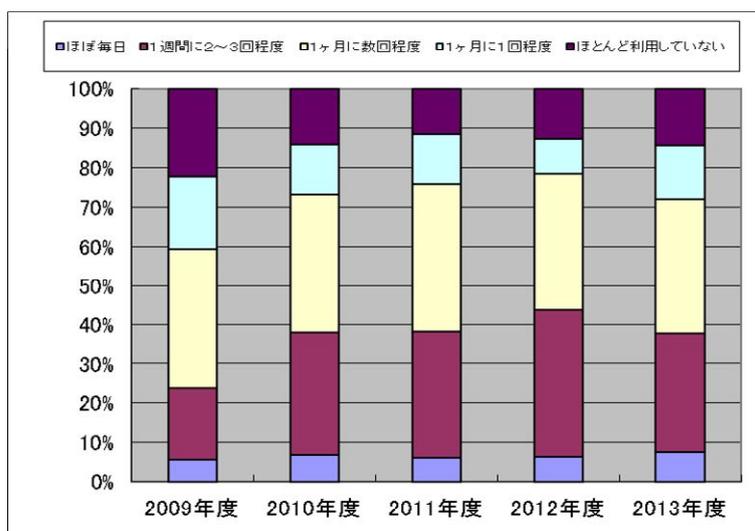
[22-1] 情報機器（コンピュータ端末等）の整備状況について満足していますか。

昨年と比べて「やや不満である」が増加し「満足である」が減少している。個人用情報端末の所有が増えており、活用の増加に伴って不満が出てきていると思われる。具体的な不満内容について、調査・検討する必要がある。



[22-2] 1年生から3年生の間に、講義以外でネットワークや情報サービス（ソフトウェア、教材を含む）を、どの程度利用しましたか。

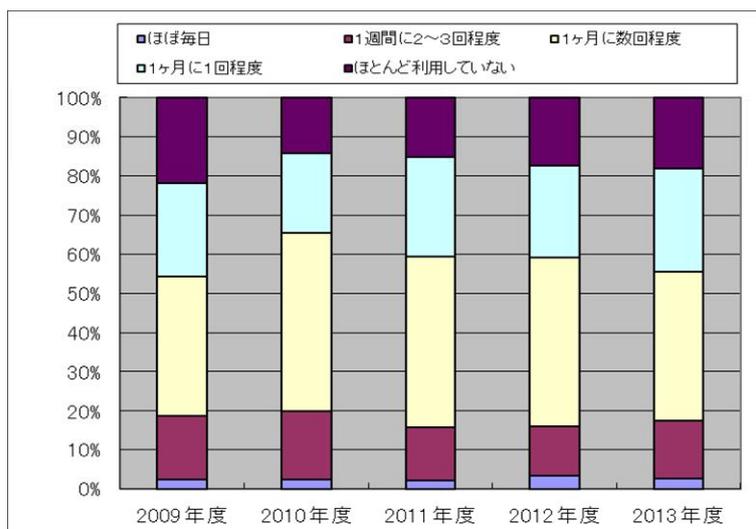
「ほとんど利用していない」と「1か月に1回程度」が増加している。また、「1週間に2-3回程度」も減少している。利用者の減少が窺われる。



[23]図書館についてお尋ねします。

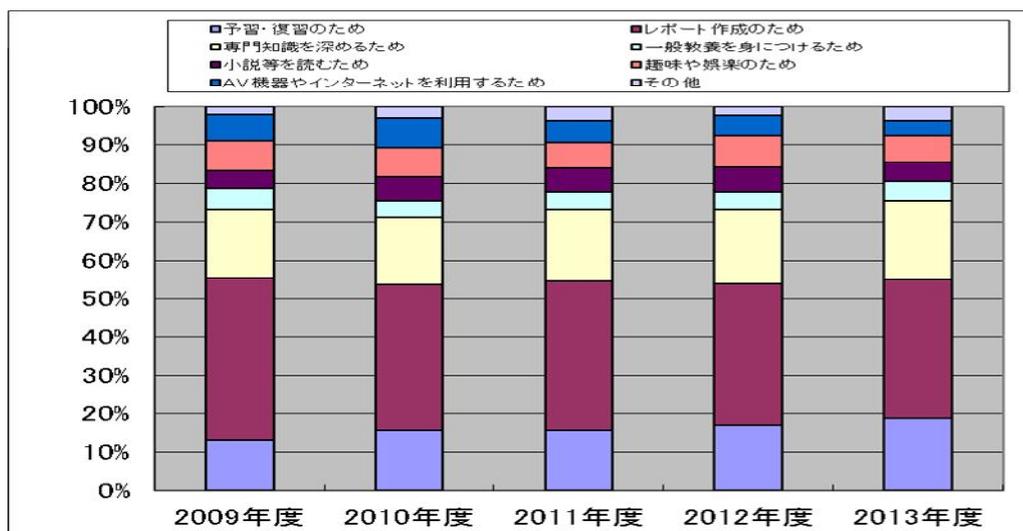
[23-1]図書館を利用している頻度はどの程度ですか。

2010年度以降、「ほとんど利用していない」の割合が増加しつつあり、今後推移を注視する必要がある。また、電子的な図書・論文が容易に手に入る現代において、大学の図書館の役割や規模、組織についての再検討も今後必要。



[23-2]図書館を利用する主な理由を答えて下さい。(複数回答可)

ほぼ横這いであるが「予習・復習のため」の利用率が若干増えている。「レポート作成のため」や「専門知識を深めるため」などの利用を含めて学業・専門関連が80%弱を占めている。



H (その他) [具体的に]

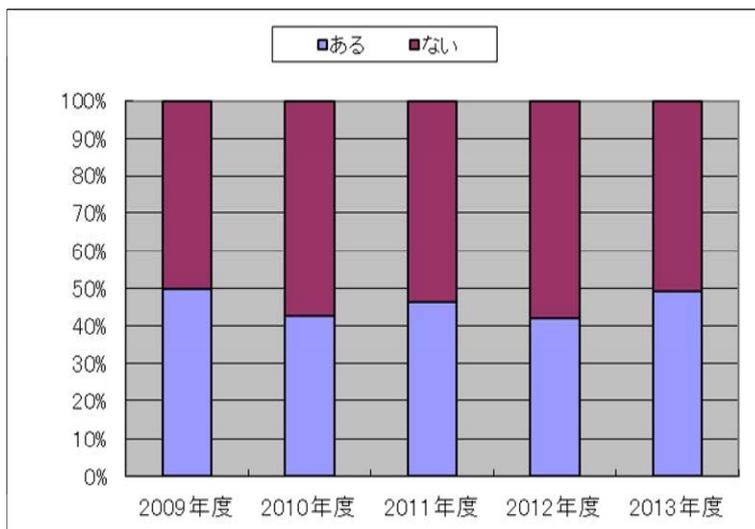
- ・ TOEIC 学習の参考本を利用するため
- ・ 卒業研究のため
- ・ テスト勉強、ゼミ
- ・ テスト勉強
- ・ TOEIC
- ・ 試験勉強のため
- ・ テスト勉強のため
- ・ 試験前の集中勉強
- ・ 試験勉強の為

- ・ テスト前に集中して勉強するための場として利用した
- ・ 自習の為
- ・ テスト勉強
- ・ 試験勉強のため
- ・ テスト勉強
- ・ 論文探し
- ・ 英語学習
- ・ 卒業研究の資料集め
- ・ テスト勉強
- ・ 試験勉強
- ・ 本を借りるため
- ・ テスト勉強、院試勉強のため
- ・ 試験勉強

[24]工場見学やインターンシップ（工場実習）についてお尋ねします。

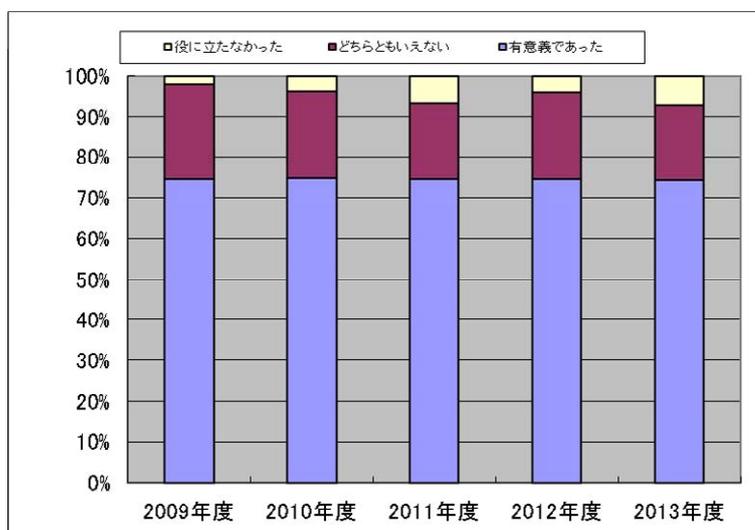
[24-1]工場見学やインターンシップに参加した経験がありますか。

昨年よりインターンシップを経験している割合が増加し約 50%となった。



[24-2][24-1]でA（ある）と答えた方。工場見学やインターンシップに参加した経験が、自分自身の成長のために有意義であり、履修した価値がありましたか。

70%以上のインターンシップ経験者が有意義と答えている。一方、「役に立たなかった」との回答は増加している。就職に直結しなかった可能性もある。キャリアセンターを活用し、経験する機会を増やすことが重要。



2. 2 2013年度修了生アンケート（工学府）

※アンケート実施年月日 平成26年2月21日

※アンケート回収率

| 課程 | 配付枚数 | 回収枚数 (回答率) |
|--------|------|--------------|
| 博士前期課程 | 311枚 | 273枚 (87.7%) |
| 博士後期課程 | 13枚 | 6枚 (46.1%) |

[1]あなたの課程、専攻についてお答え下さい。

[1-1]あなたが修了される課程は何ですか。

A (博士前期課程) 273名

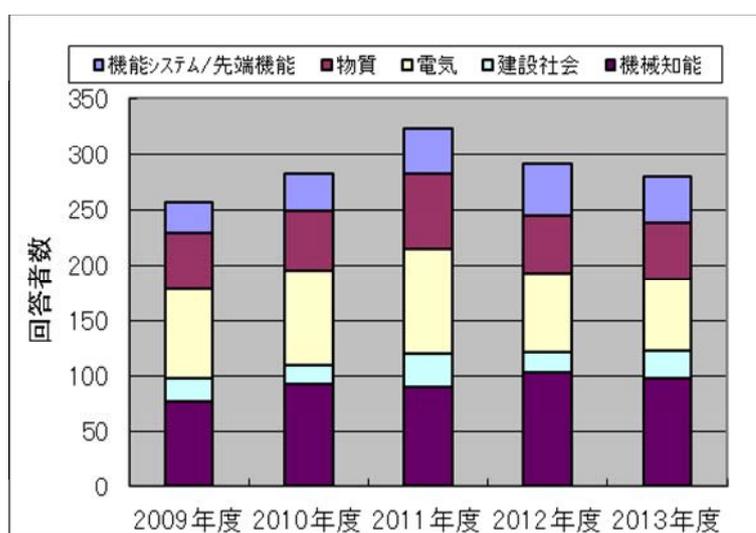
B (博士後期課程) 6名

90%近くあった博士前期課程の回答者数が減少した理由を調査する必要がある。博士後期課程は配布数が少ないのであるから、アンケートの趣旨を理解してもらい、回答率を上げるための努力は必要である。



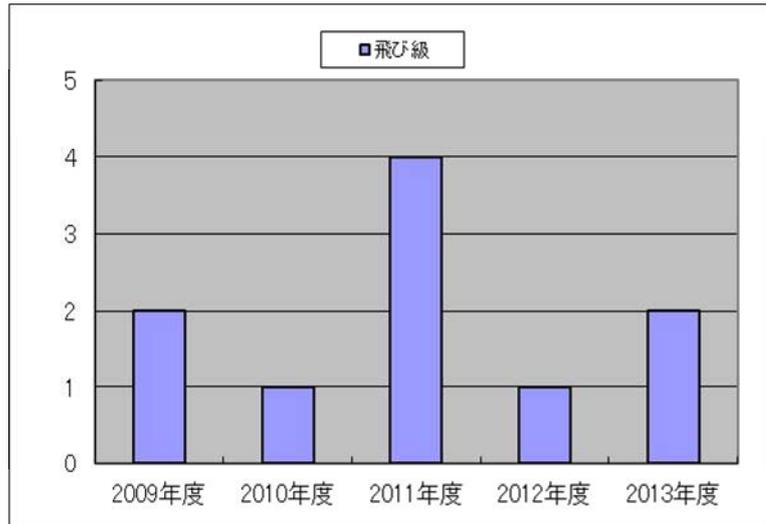
[1-2]あなたが修了される専攻は何ですか。

機械知能 : 98名
 建設社会 : 24名
 電気電子工学 : 66名
 物質 : 50名
 先端機能システム : 42名



[1-3]飛び級入学の方は [] に○を入れてください。 [2名]

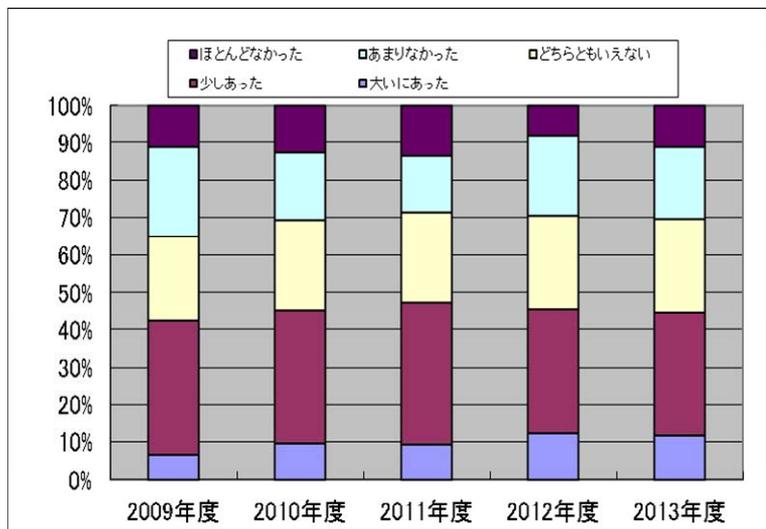
飛び級の入学者は2名であった。飛び級は多ければよいというものではないが、どのような理由で対象者が飛び級を行わなかったかなど調査し、制度を見直すことも検討が必要。



[2]工学府・工学研究科における大学院教育があなたの成長（自己形成）に及ぼした効果についてお尋ねします。

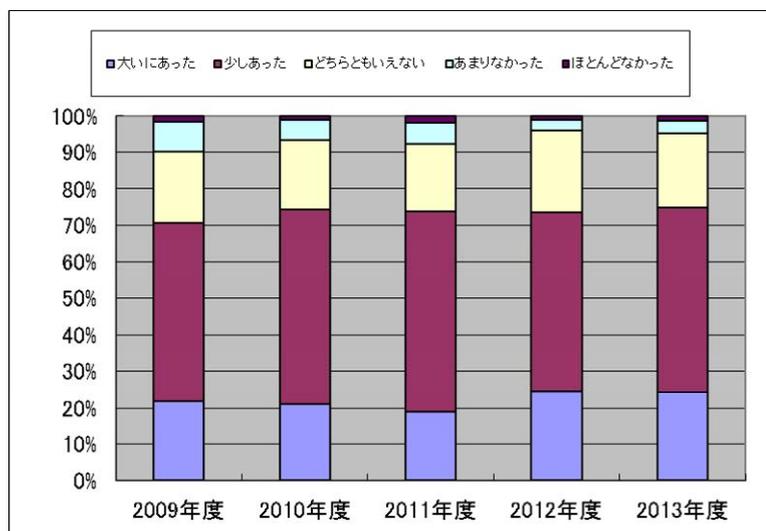
[2-1]外国語科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（受講生のみ）

昨年と比べると大いに効果があったと回答した学生の比率が減少し、ほとんどなかったと回答した学生の比率が増加している。今後も、社会人になった時に外国語でのコミュニケーション能力が重要であることを認識させて行く努力が必要である。



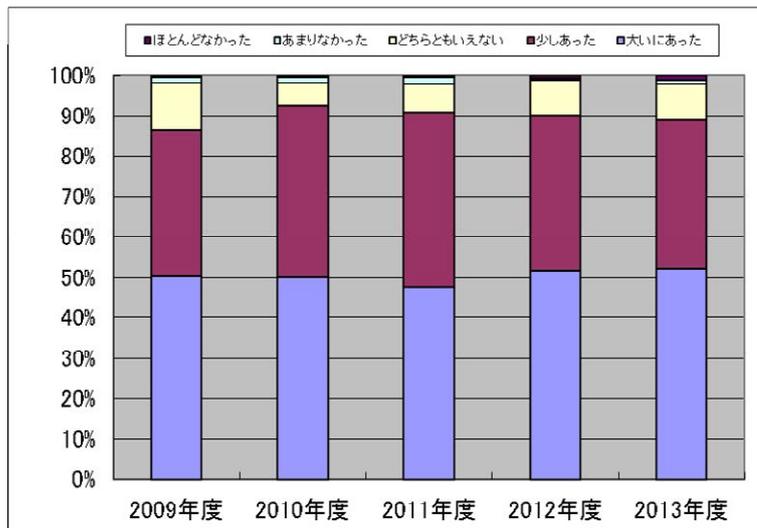
[2-2]共通科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

昨年とほぼ同じ傾向である。共通科目の教育効果については、「少しはある」以上が70%の水準にあり、一定の効果を果たしていると思われる。



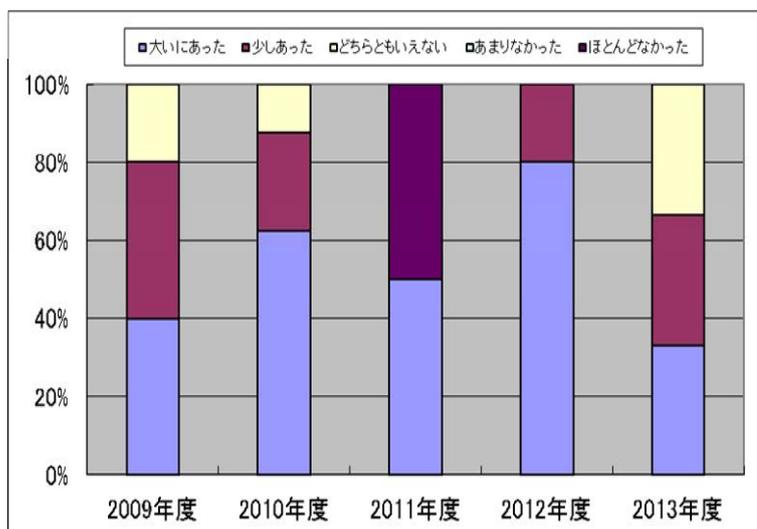
[2-3] 専門科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

「大いにあった」と「少しあった」で90%近くということから専門科目の自己形成に対する高い影響力がうかがえる。



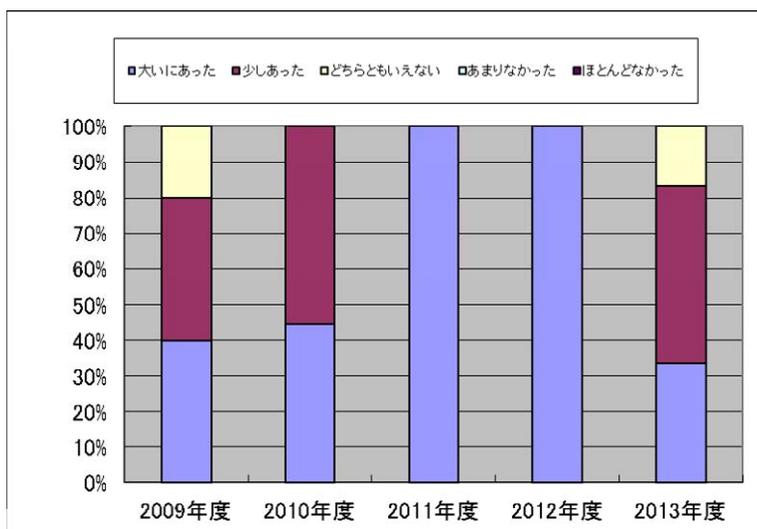
[2-4] 学外研修・特別演習はあなたの自己形成に効果がありましたか。(博士後期課程の方のみ)

回答数6名であるが、「大いにあった」の割合が減少しており対策が必要であろう。



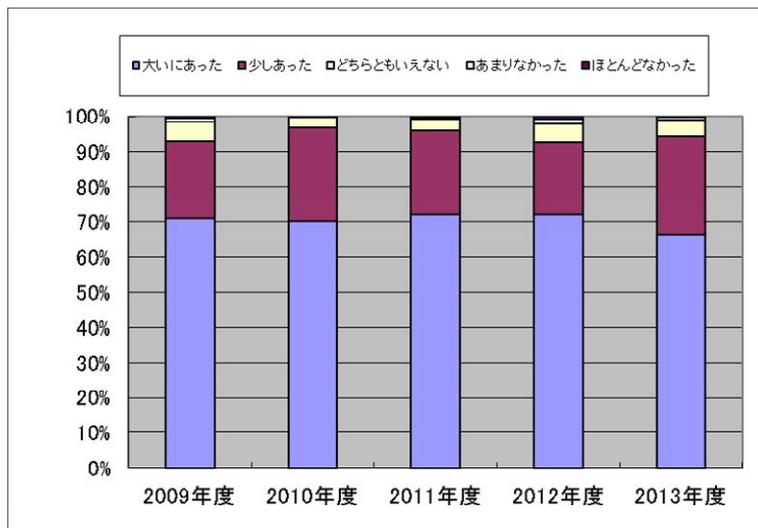
[2-5] プロジェクト研究はあなたの自己形成に効果がありましたか。(博士後期課程の方のみ)

回答数6名であるが、前回全員が選択した「大いにあった」の割合が減少しており対策が必要であろう。



[2-6] 学位（修士・博士）論文のための取組みはあなたの自己形成に効果がありましたか。

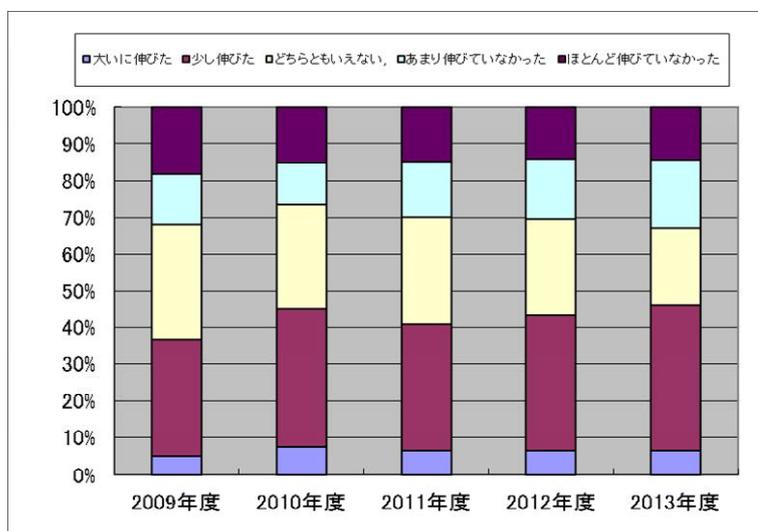
「どちらともいえない」「あまりなかった」「ほとんどなかった」が昨年より減少しており改善に向かっている。



[3] 英語力についてお尋ねします。

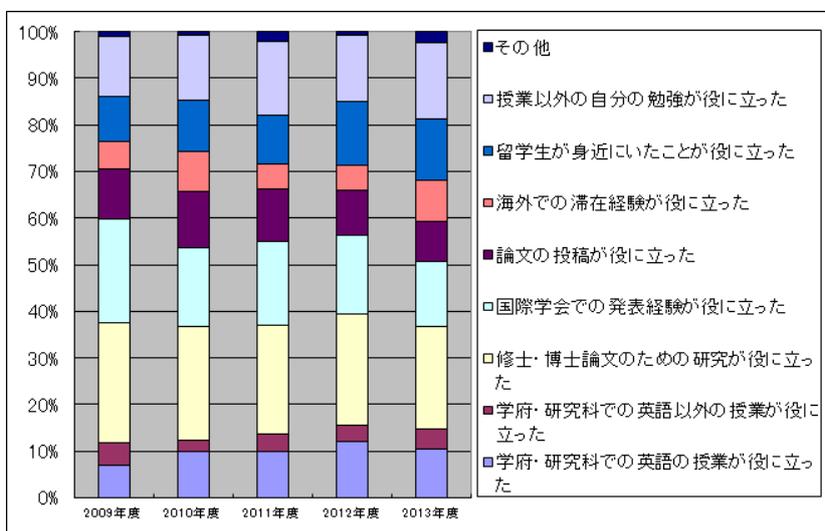
[3-1] 研究科の在学期間であなたの英語力は伸びましたか。

「少し伸びた」と「あまり伸びていなかった」がどちらも増えており、両極化の傾向が見られる。英語力に関しては自己努力による部分も大きいですが、「ほとんど伸びていなかった」が減るよう、講義中にも努力を促す必要がある。



[3-2][3-1]でA（おおいに伸びた）またはB（少し伸びた）と回答された方：その理由は何ですか。（複数回答可）

「海外での滞在経験が役に立った」「授業以外の自分の勉強が役に立った」が増加している。ライティングやリーディングだけでなく、英語を話す機会が増えることは好ましいことである。一方、「論文の投稿が役に立った」は近年減少が続いているのが気になるところである。



I (その他) [具体的に]

- ・ 研究遂行における論文調査
- ・ ゼミでの発表
- ・ 海外の論文を読んだこと
- ・ 塾のアルバイトで英語の授業を行っていたこと

[3-3][3-1]でD(あまり伸びていない)またはE(ほとんど伸びていない)と答えた方:その理由は何ですか。

社会に出てからの英語の必要性の認識不足、英語学習に対する努力の不足を自分自身で感じている。これからの社会での英語の必要性を強く認識させるとともに、「英語力」を必要とする機会を増やす方策が望まれる。

- ・ ほとんど英語に触れなかった
- ・ 勉強していないから
- ・ 使わないから
- ・ 講義がないため、勉強しなかった
- ・ ほぼ英語に関わらなかった
- ・ 英語に触れなかったから
- ・ 自習不足
- ・ 使ってなかったから
- ・ 英語の勉強をしていなかったから
- ・ 特に英語学習をしなかったから
- ・ 使う事がなかったため
- ・ 英語学習に取り組んでいなかったため。
- ・ 英語を必要としなかったから
- ・ 英語に触れる機会が少ないため
- ・ 英語にふれる機会がなかったから
- ・ 講義数が少ない
- ・ 受けていない
- ・ 英語を使う機会が少なかったため
- ・ 英語を使うことがなかった
- ・ 英語にあまりふれていないから
- ・ 英語を勉強する時間自体が減ってしまったため
- ・ 興味がないため
- ・ 勉強する機会が少なかった
- ・ 英語学習に時間をかけなかった為。
- ・ 英語を用いる機会が少なかった
- ・ 論文を読む以外に使うことがあまりなかったから
- ・ 英語を能動的に使う機会がなかった
- ・ 高校生のときの方が日常的に学習していたため
- ・ 高校の方が勉強していた
- ・ 日常で英語を使用する機会がほとんどないため

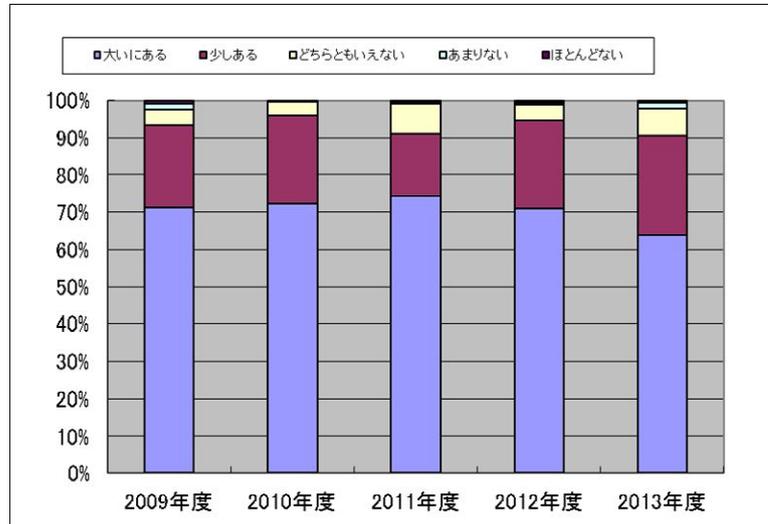
- ・ 継続して勉強できなかった
- ・ 授業や就活などで忙しく勉強しなかったから
- ・ 勉強不足
- ・ しなかったから
- ・ 英語を使う機会がほとんど無かったから
- ・ 英語学習の時間が不足していたため
- ・ 学ぶとまた使う機会がほとんどなかったから。
- ・ 自主的に英語に取り組まなかったため
- ・ 英論以外、英語にあまりふれなかった
- ・ 英語ができようになった実感がない
- ・ 積極的に使おうとしなかった
- ・ 英語を使ったり使われたりする機会がほとんどなかった
- ・ 勉強の時間がない
- ・ 研究が忙しく、英語の勉強をする時間をとれなかった
- ・ 英語に触れる機会がない
- ・ 勉強してない
- ・ 英語を使う機会がないから
- ・ 日常で英語を使わなかったから
- ・ 英語の授業について行けなかった。
- ・ 英語の講義が有意義でなかった
- ・ 授業が良くなかった。授業以外での自分の奴力が足りなかった。
- ・ あまり英語の勉強をしなかったから
- ・ あまり英語を使用していないから
- ・ 学ぶ機会が少ない
- ・ 英語をあまり使用しなかった
- ・ 英語を勉強する機会が少なかった
- ・ 英語にふれる機会が少なかった
- ・ 留学生だから
- ・ 語学学習に積極的でなかったため
- ・ 意欲的に勉強しなかったため
- ・ 論文等で英語にふれる機会は増えたが、勉強などの基礎を高める事はできなかったから。
- ・ 専門用語について論文から学べたと思うが、英語力として考えると進展はあまりなかったと思います。
- ・ 学部の時に英語に触れる機会が少なかったため
- ・ 研究で忙しかった
- ・ 英語の学習時間をあまり確保しなかったから
- ・ 授業等で英語に触れる機会が少なかった
- ・ 英語以前にその論文を理解できなかった
- ・ 英語論文の読解力があまり変わらなかったから
- ・ 文法の勉強がないため
- ・ 英語論文は読んでいたが、英語自体の勉強ができていない
- ・ 英語文献をあまり読めなかった

- ・ 英語の授業が簡単すぎたように感じた
- ・ ほとんど勉強していなかった
- ・ 英語からはなれていった
- ・ 英語での会話が少ないため

[4] 学位（修士・博士）論文のための取組みについてお尋ねします。

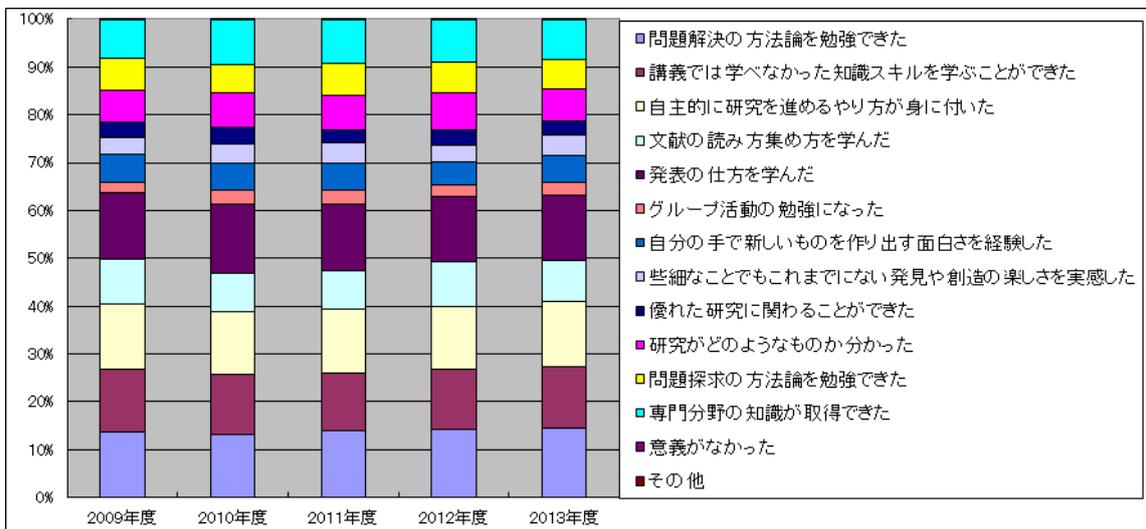
[4-1] 学位論文の意義はあると思えますか。

学位論文に意義を見出せない学生が再び増加しており、対策が望まれる。



[4-2] [4-1]でA（大いにある）またはB（少しある）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

ここ5年間比率に大きな変化はなく、課題解決の方法論、講義では学べない知識・スキルの取得、文献の読み方・集め方、発表の仕方が上位を占めており傾向は変化していない。



N（その他） [具体的に]

- ・ 文章の書き方がわかった
- ・ 共同研究だったので人脈が広がった

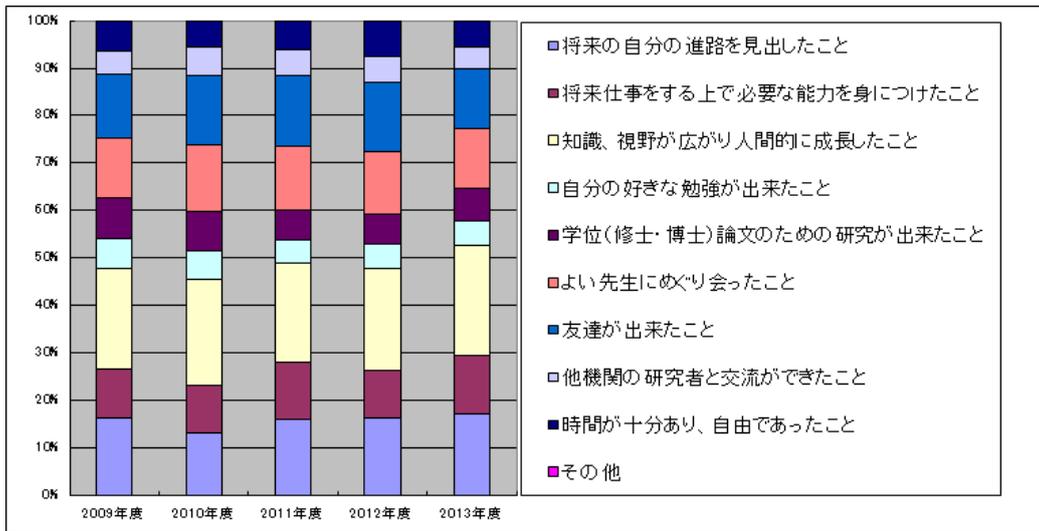
[4-3] [4-1]でD（あまりない）またはE（ほとんどない）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

- ・ 意味がない

- ・ 誰も読んでないから
- ・ 自分の意欲を向けることができない
- ・ 「作業」や「手伝い」で終わることが多いと感じるため

[5] 学府・研究科生活を振り返って、どのようなことが良かったと思いますか。（複数回答可）

「知識・視野が広がり人間的に成長した」「将来の自分の進路を見出した」「友達が出来た」「よい先生にめぐり会えた」などが割合的に多く、「将来仕事をする上で必要な能力を身につけた」も昨年より増加した。研究生活が人生の一つの大きなかなめになっていることが分かる。



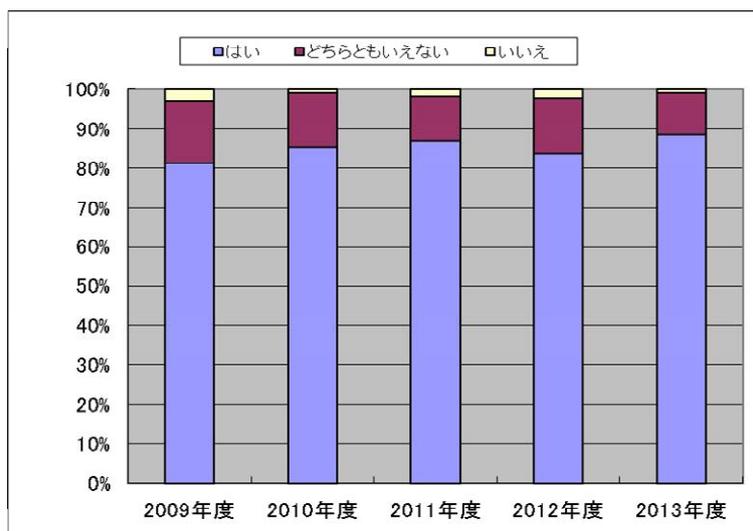
J (その他) [具体的に]

(回答者なし)

[6] 入学した専攻についてお尋ねします。

「はい」が90%近くの高い値を維持しており、院生の意識の高さがうかがえる。

[6-1] 現在の専攻に入学してよかったと思いますか。



[6-2][6-1]でC（いいえ）と答えた方：その理由は何ですか。

- ・ 研究室のやり方が自分に合わなかった。
- ・ 英語が伸びる授業でなかったため。
- ・ 電気工学よりも、宇宙に特化した科目を学びたかった。

[7]進学時の目標についてお尋ねします。

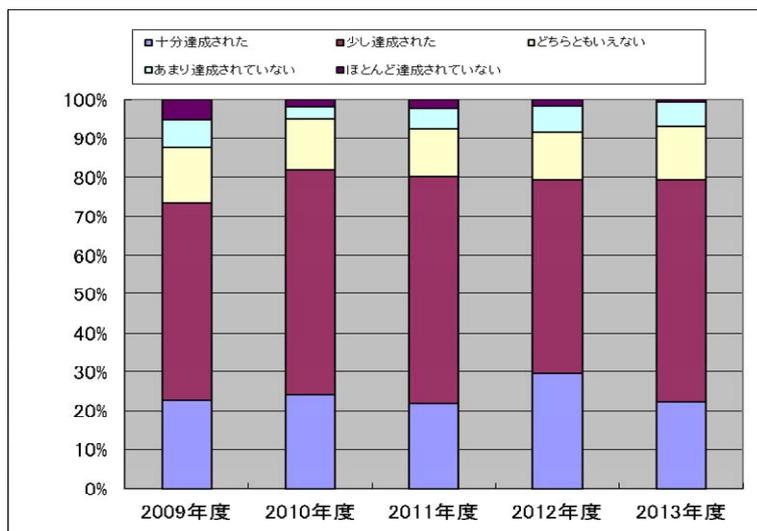
[7-1]あなたは進学の際に研究科で達成したい目標がありましたか。

目標を持って進学した院生の割合は増加しつつあり、70%近くになった。



[7-2] [7-1]でA（はい）と回答された方。現在どの程度達成されていますか。

達成感を有している院生の割合は80%程度と、達成されたと感じている学生の割合が多い。しかし、「十分達成された」が減ったことは注意していく必要がある。



[8]学府・研究科在学中の学生生活の満足度に対して100点満点で点を付けるとすれば何点と思いますか。

数年間大きな変動はなく、70%強となっている。さらに向上に向けた問題解明・解決方法等の調査(質問項目の追加)などの努力が必要であろう。

学生生活で不満を感じたことを具体的に挙げてもらうなどの質問項目の追加の検討。

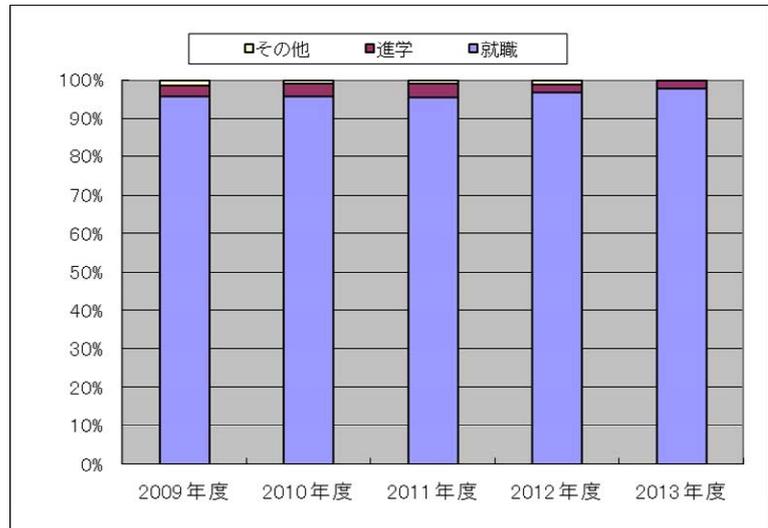


[9]修了後の進路についてお尋ねします。

[9-1]あなたは修了後就職しますか、進学しますか。

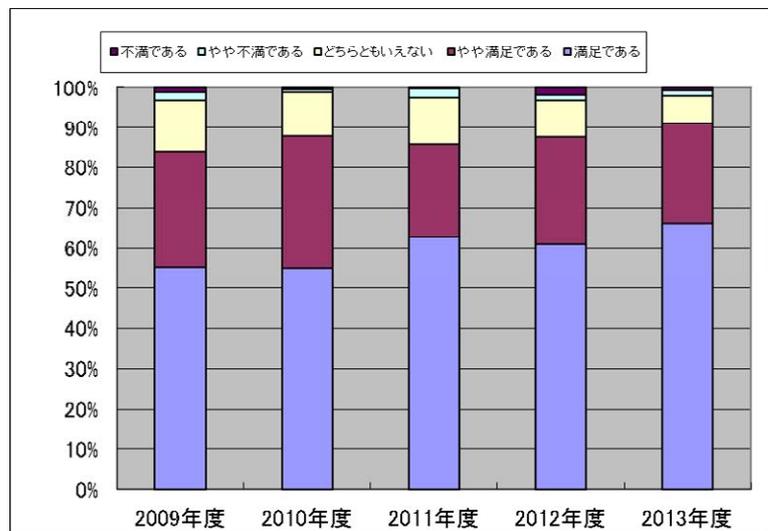
数年間、就職する院生が95%以上で残りの学生が進学する傾向はここ数年変わらない。今後高度な研究者を社会に輩出するためにも博士後期課程への進学率向上に向けた努力が必要であろう。

また、社会の受け入れ体制の状況調査も平行して必要かもしれません。(企業・アカデミックポジションにおける博士後期課程修了学生の受け入れ体制の調査)



[9-2]あなたは修了後の進路に満足していますか。

修了後の進路に満足を感じている院生の割合は、少し回復した。社会情勢も影響していると考えられる。満足度向上のためには、本人の研究科在学中での研究能力や基礎学力が向上するようにどれだけ努力したかが最も重要である。また、進路指導等についての大学側の企業調査・学生と企業のジョブマッチングについての指導する専門部署の開設なども必要であろう。



[9-3][9-2]でD（やや不満である）またはE（不満である）と答えた方：その理由は何ですか。

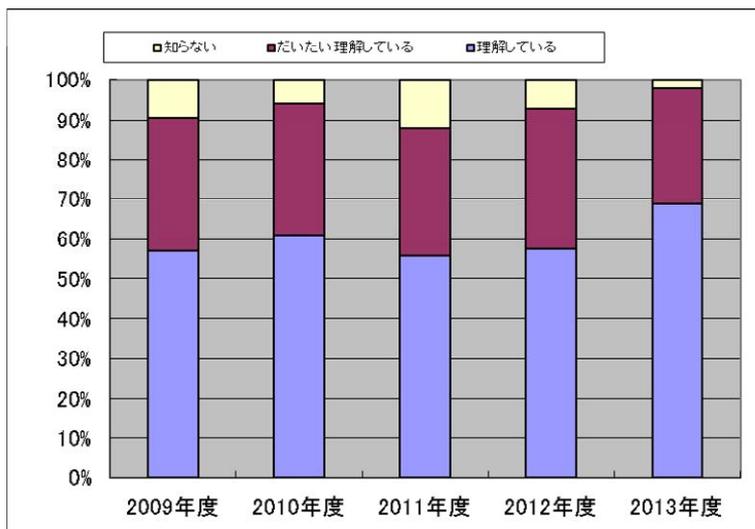
不満足感に加えて、不安感もあると思われる（結局は、本人の研究科在学中における努力不足に起因することも考えられる）。

- ・ 希望する分野の企業へ行くことができなかった。
- ・ 他にやりたいことがあった
- ・ 第一志望の企業ではないため
- ・ 仕事内容に今は興味をもてていないこと。給料がやや低い

[10]研究活動についてお尋ねします。

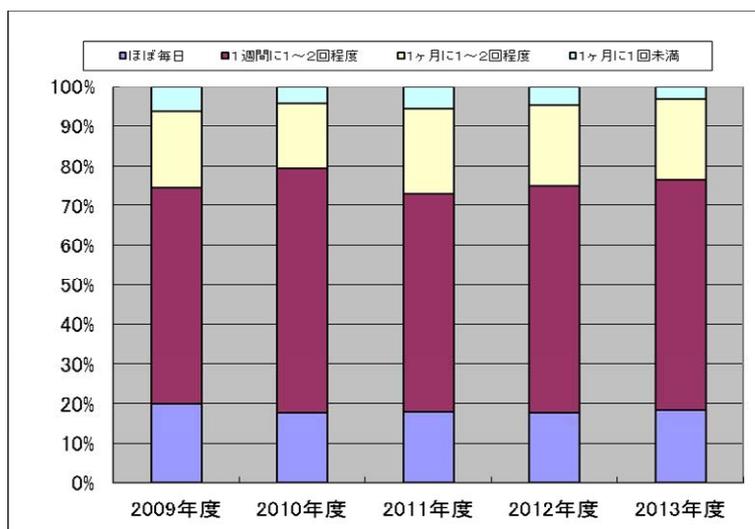
[10-1]進学時の研究室の配属決定方法を理解していますか。

研究室配属決定方法を知らない院生は10%前後で変わらない。配属に関するミーティング時に、配属規定の細かな説明・周知を行ってはいるが、さらなる周知徹底が必要であろう。学科及び教員側は、説明方法を工夫し、努力をしているものの、説明開催時に参加しない学生、理解できなくても質問しない学生側の資質の問題も垣間見られる。



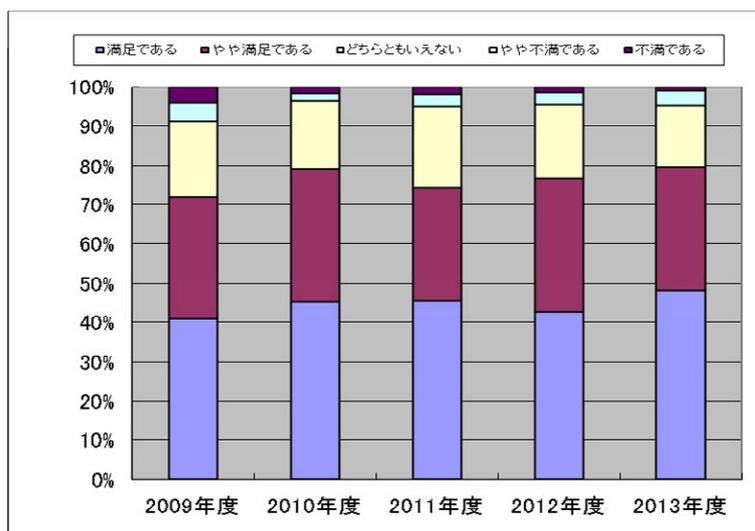
[10-2]研究指導はどの程度の頻度で受けましたか。

研究指導の頻度については、その割合は数年間変わっていない。「1週間に1～2回程度」が最も多く、「1ヶ月に1～2回程度」と「ほぼ毎日」が同程度であった。教員が院生の研究指導にもっと多くの時間を割けるような対策を講じる必要がある。そのためには、大学の各種委員会の負担軽減や効率化が1つの課題と思われる。



[10-3] あなたの研究に対する指導方法について、どのように思っていますか。

「満足である」と「やや満足である」と回答した割合が70%を超えている。更なる院生の研究指導方法の改善の努力・工夫を続ける必要がある。一方で、学生側の研究に対するモチベーションの低下が、要因の1つであることも考えられ、より詳細な分析の必要性が考えられる。



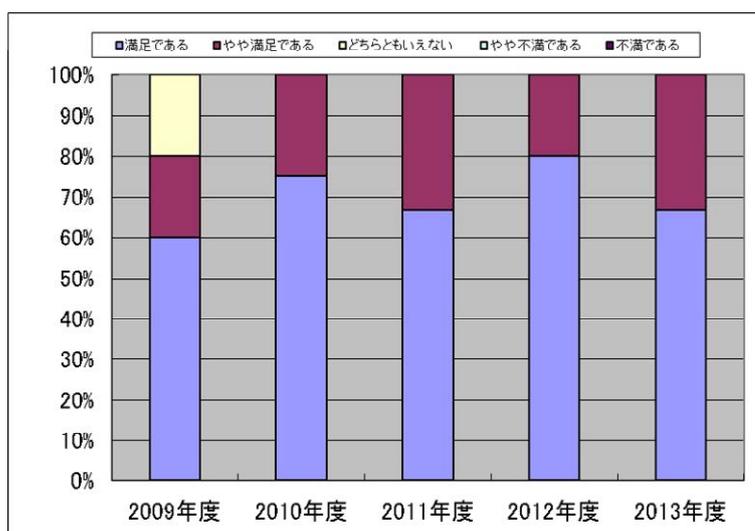
[10-4] [10-3]でD（やや不満である）またはE（不満）と答えた方：その理由は何ですか。

指導時間が少なかった点に不満を感じている様子が伺える。その結果、学生の理解不足に繋がっていると考えられる。学内の各委員会・ワーキング会議等の簡素化・効率化などの検討を含め教員が院生の研究指導にもっと多くの時間を割けるような対策を早急に講じる必要がある。

- ・ 理不尽なスケジュールで作業を強制される。質問をすると助教から露骨に嫌な反応をされる。
- ・ 先生が忙しく、十分なディスカッションができなかったから
- ・ 話にならない
- ・ 指導の回数が多いので自主的に研究しづらい
- ・ あまり研究について話す時間が確保できなかったから
- ・ 必要な時程いないことが多かった
- ・ 何をすればいいのかわからない
- ・ 国内学会シンポジウムにてポスター発表を行った
- ・ 実りが無い
- ・ アカハラではないかと思いました

[10-5] あなたの研究に対する指導体制（指導教官グループ）について、どのように思っていますか。（博士後期課程の方のみ）

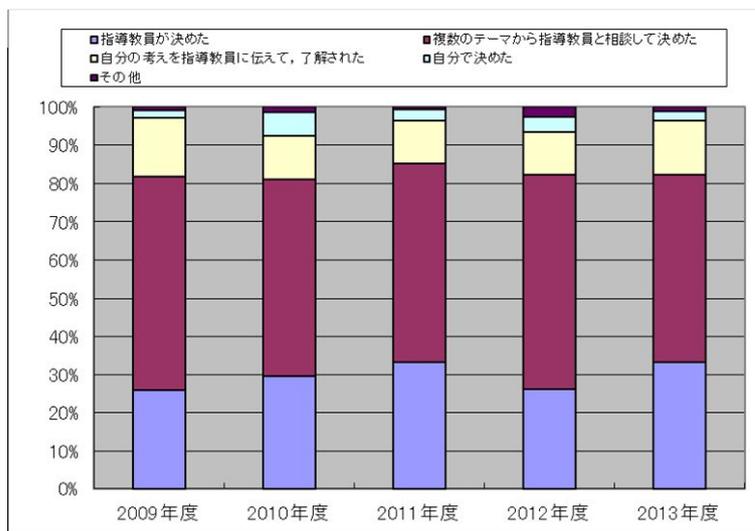
特に否定的な解答は無く、大きな問題はないと思われる。



[10-6][10-5]でD（やや不満）またはE（不満）と答えた方：その理由は何ですか。
（回答者なし）

[10-7]研究テーマはどのように決定されましたか。

指導教員との話し合い、あるいは複数の候補から研究テーマを決める割合が増えている。社会の動向や要請に応える研究テーマも、工学系大学の研究としては、意味があると思われる。学生のポテンシャルが高ければ、学生本人から提案するよう指導するのも、1つのやり方かもしれない。

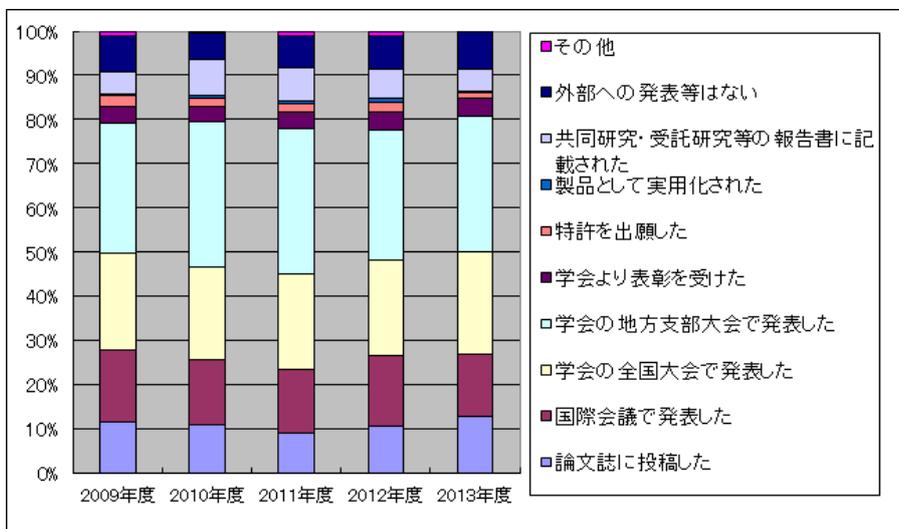


E（その他） [具体的に]

- ・ 複数の研究テーマを同期で分担した
- ・ 複数のテーマから同期と相談して決めた。
- ・ 複数のテーマから志望順を決め、第3希望に決定

[10-8]あなたが在学中に研究したテーマの成果は下記のうちどれに該当しますか。（複数回答可）

論文誌への投稿、国際会議や学会の全国大会での発表については、ある程度の水準を維持している。高いレベルの研究を積極的に推進する意味でも、国際会議等での発表等へ繋がるような積極的な研究指導が望まれる。まったく発表しないケースも見られるので、さらに改善が必要と思われる。

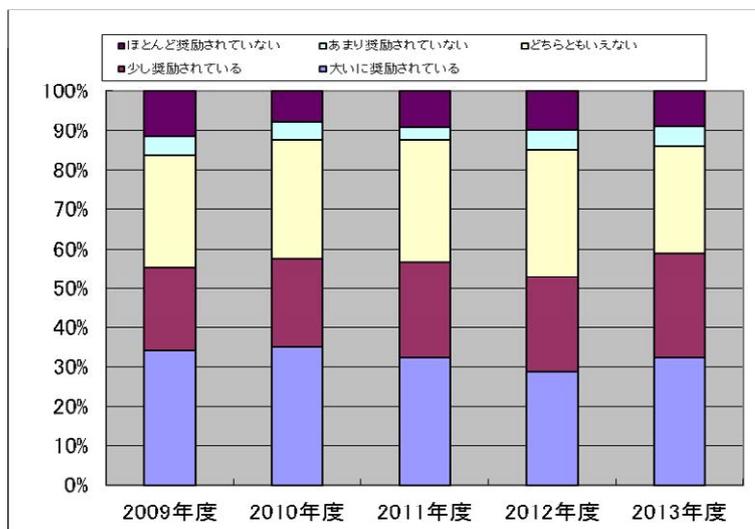


J (その他) [具体的に]

(回答者なし)

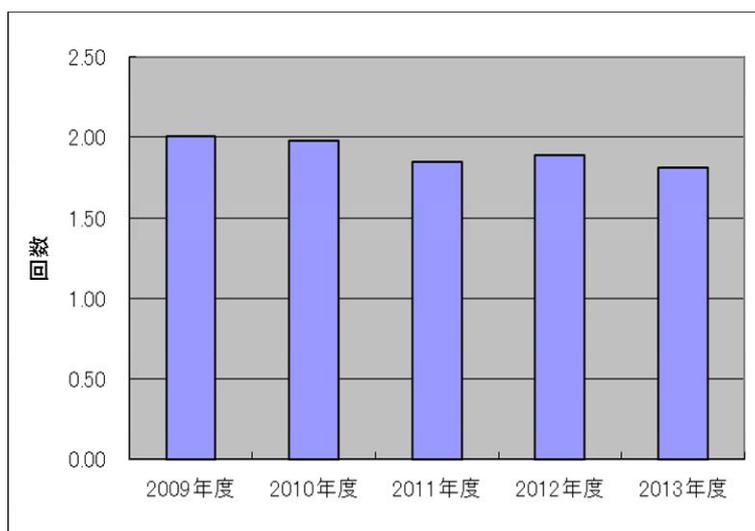
[10-9]学外での研究活動(学会発表や他機関での研究活動等)を奨励されていますか。

「おおいに推奨されている」あるいは「少し推奨されている」と感じている学生の割合が50%強ある。しかし、他の研究者と意見交換する能力を身につけ、新たな研究領域の見識を広めるためにも、学生を学会で研究活動をさせるのは至極当たり前のことで有り、多くの教員の指導姿勢への意識の改革が必要である。



[10-10]あなたは在学中に国内学会(大会等)で何回発表しましたか。

院生の発表回数が2008年度以降ほぼ横ばいである。在学年数からみて、最低2回程度は妥当であろう。更なる、機会を与えるよう教員側の積極的な研究指導が重要と考えられる。



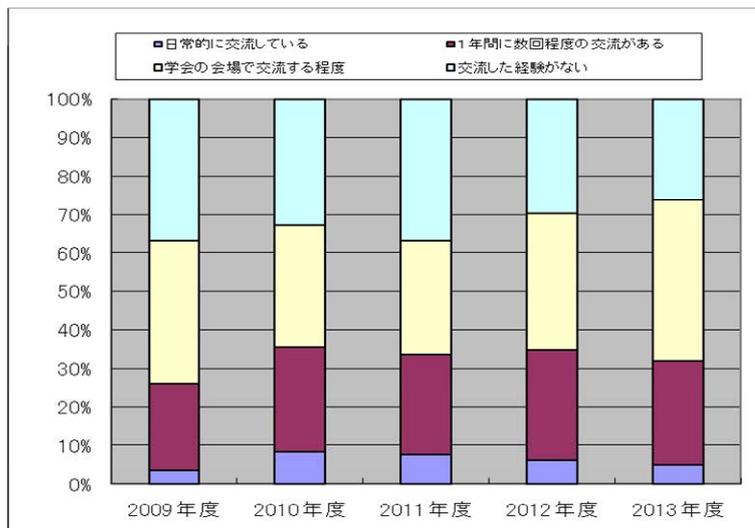
[10-11]あなたは在学中に国際会議で何回発表しましたか。

2012年度は増加に転じている。大学教育環境のグローバル化が叫ばれる中、国際会議での発表などの経験は極めて需要で有り、今後、さらに増加するよう努力が必要であると思われる。



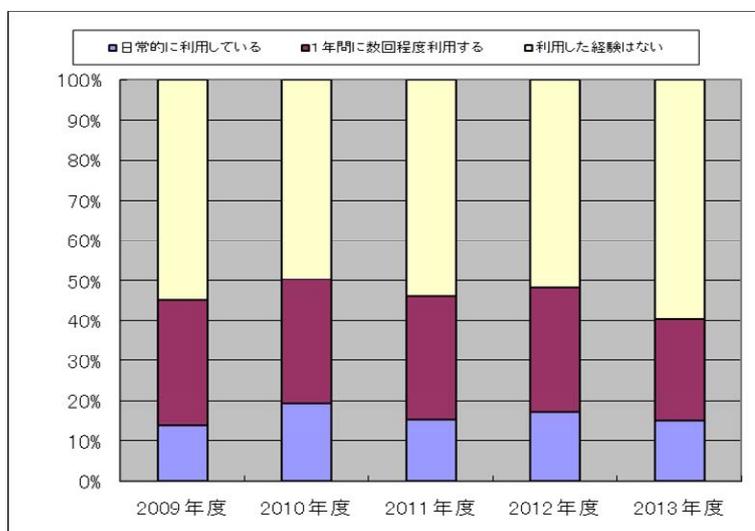
[10-12]学外の研究者(国内および国外)と研究交流した経験がありますか。

交流した経験のない学生の比率減少傾向に転じている。国際光量の経験が増加傾向になりつつあるが、グローバル化が積極的に推進される環境下では不十分と思われる。指導教員がさらなる国際的な交流の活発化を図るよう努力する必要がある。



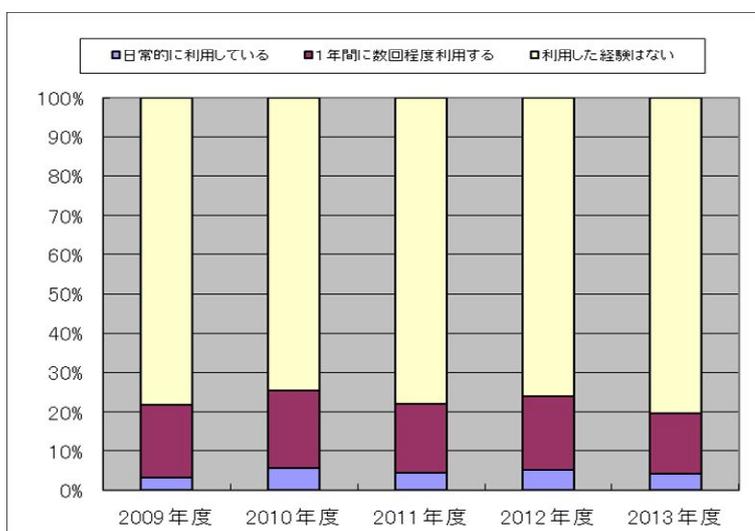
[10-13]学内の共同利用施設(情報科学センター、機器分析センター等)を研究のために利用した経験がありますか。

経験者の割合は、50%近くであり、日常的に利用している学生数は20%弱の傾向を示し、高度な研究推進のためには、この傾向の更なる向上が重要であると思われる。もちろん共同利用施設に、先端の測定機器等が潤沢に導入されていることが必須条件となる。しかし、国の施策の問題もあり、先端機器の老朽化等の問題を抱えており、先端研究の高いレベルでの維持のためにも大学指導部の協力も必要と考えられる。



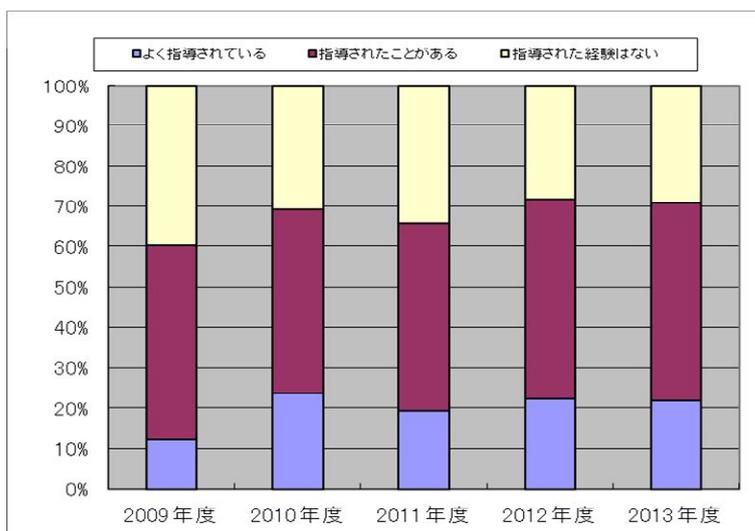
[10-14]学外の共同利用施設等を研究のために利用した経験がありますか。

経験者の割合は、20%程度であり、学内にない測定機器に関しては、積極的な学外利用が必要と思われる。ただ、学内にない測定機器が学内に導入するような努力が望まれる。今後もこの水準と思われる。



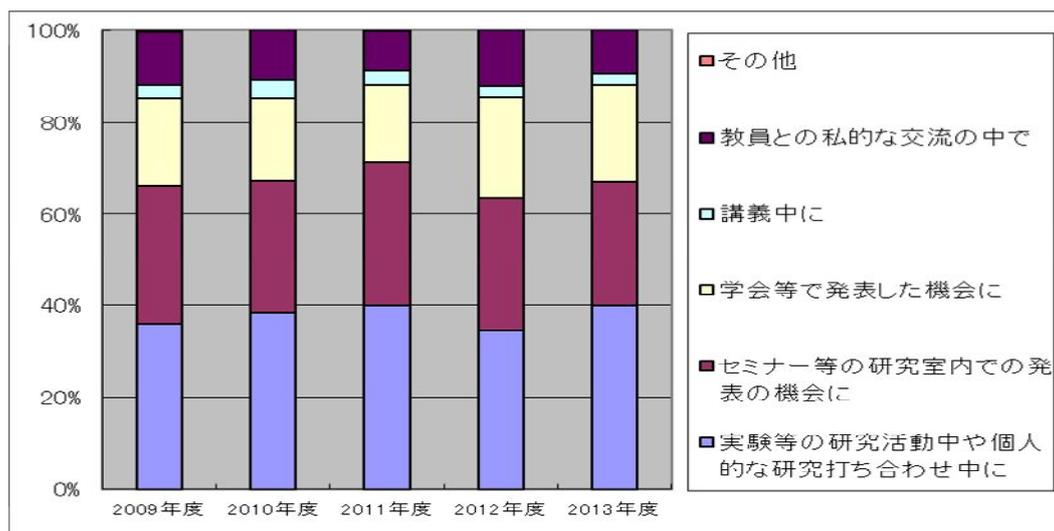
[10-15] 学位論文の研究を通して、研究遂行に対して競争意欲が向上するような指導を受けたことがありますか。

指導されている院生の割合は70%以上であり、継続的な指導改善の取り組みの効果がみられる。教員側も世界最先端レベルの研究の高い競争力の維持・高度な研究さやの育成のためにも、学生の指導方法について更なる工夫が必要と思われる。



[10-16] [10-15]でA (よく指導されている) またはB (指導されたことがある) と答えた方: それほどのよき機会に指導されましたか。(複数回答可)

教員との個人的な研究打ち合わせやセミナー、学会発表等で指導を受けている学生の割合は90%に達し、この傾向が続いている。



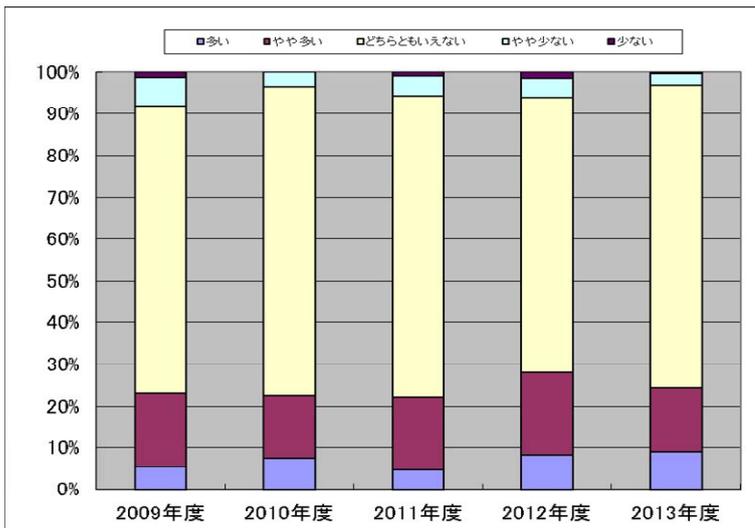
F (その他) [具体的に]

(回答者なし)

[11]工学府・工学研究科における講義・演習等についてお尋ねします。

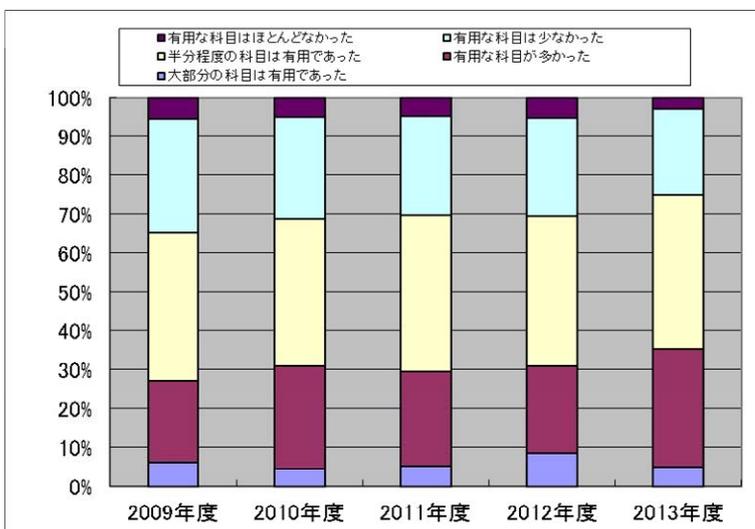
[11-1]工学府・工学研究科における講義・演習等の必要要件単位数は多いでしょうか、少ないでしょうか。

「やや多い」、「多い」と回答した院生は微増の傾向が見られる。「やや少ない」、「少ない」と回答した院生も5%程度存在する。現在の学生の能力からすると理解度を深めるためには、必要要件単位数は現状維持か微増される必要があると考えている。



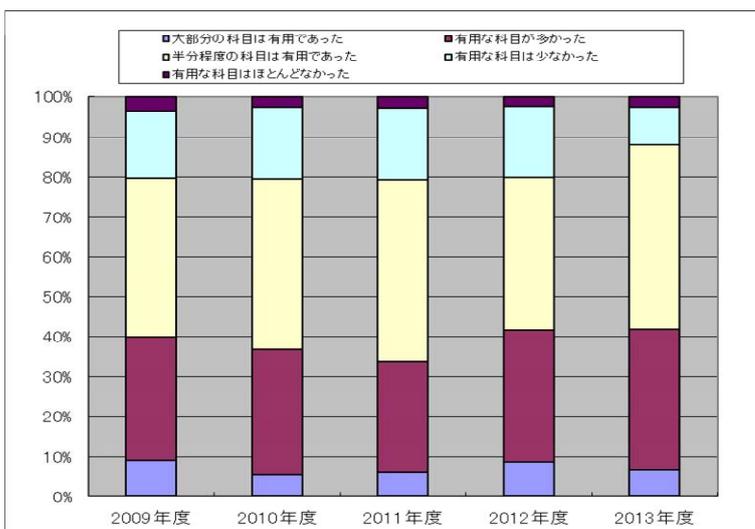
[11-2]工学府・工学研究科で受講した講義科目（演習科目を含む）の中で、自分自身の研究に役立つ科目の割合はどの程度ですか。

70%の学生は「有用な科目」と回答しているが、「有用な科目が少ない」と回答した院生は微減している。有用な科目が増加するように、継続的な講義（演習）内容の改善が必要である。また、学生の科目に対する具体的な意識調査や他大学での動向の調査も必要であろう。



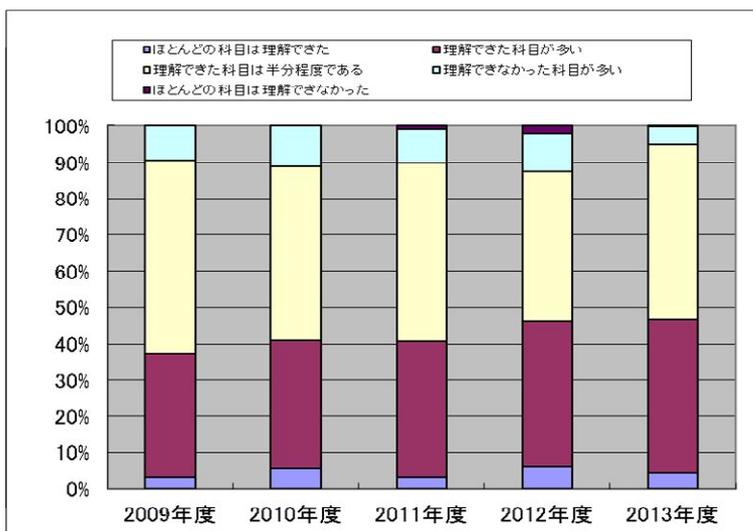
[11-3]工学府・工学研究科で受講した講義科目（演習科目を含む）の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

「半分程度の科目は有用であった」までを含めた修了生は、80%程度となっている。引き続き講義（演習）内容の継続と検討改革が必要と思われる。今後、検討改革のためには、より具体的な有用性の意識調査（具体的な科目）等が必要であろう。



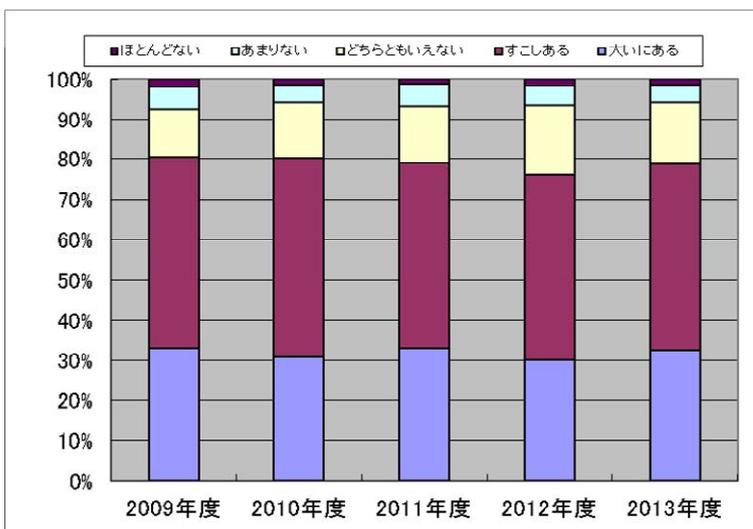
[11-4] 工学府・工学研究科で受講した講義科目の理解度はどの程度ですか。

「ほとんどの科目が理解できた」「理解出来た科目が多い」以上の修了生の割合が50%近くになるほど増加してきている。一方、「理解できなかった科目が多い」「ほとんどの科目が理解出来なかった」の割合は13%程度へ微増傾向にあるため、引き続き講義内容や教授方法の検討・改善が必要と思われる。教員側の授業方法についての検討の他に、可能であれば、学生側の授業に対してどれだけ積極的に取り組んでいるかなどの（自己学習や、予習復習の実態）調査も必要と思われる。



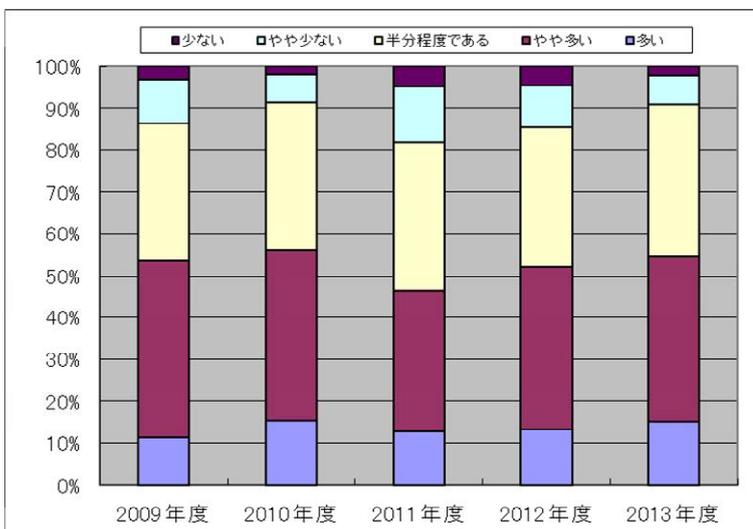
[11-5] 学部で履修した科目と研究科で履修した科目の間に、つながりがあったと思いますか。

「学部で履修した科目との関連がある」と回答した修了生の割合が80%程度であり、学部で履修した科目との関連性は高いと判断できる。ただ、「あまりない」「ほとんどない」と回答した学生も20%程度いるため、科目の内容等について更に検討することが望まれる。



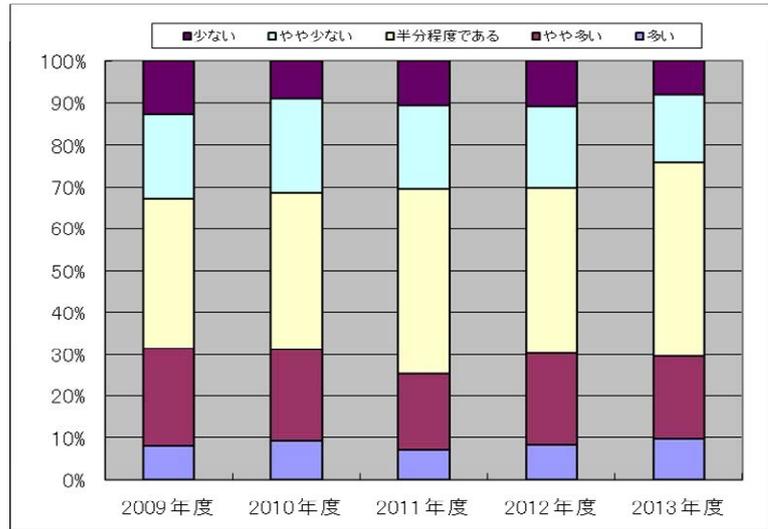
[11-6] 工学府・工学研究科で履修した科目全般について、教育への熱意があった担当教員の割合はどの程度ですか。

「半分以上の教員に熱意があった」と回答した修了生の割合は、80%以上を過去5年に亘って維持しているものの、2011年度に10%近く下がっており、今後の結果を注視すべきである。



[11-7]工学府・工学研究科で履修した科目で、就職後、仕事をする上で役に立つと思う科目はどれくらいありましたか。

「半分以上の科目は仕事に役に立つ」と回答した修了生は、ここ数年 70%近くを維持しており、「実学」の観点からの教育効果は維持されていると思われる。



[12] TA、RA等の制度についてお尋ねします。

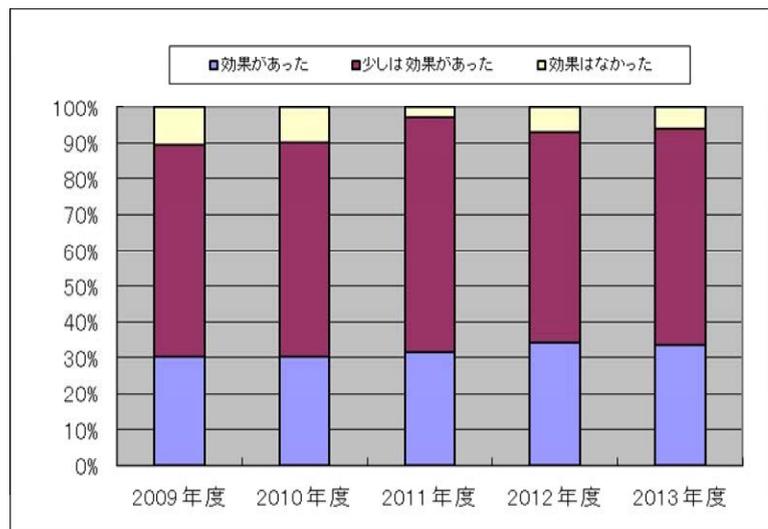
[12-1] TAを担当したことがありますか。

TA経験者は2009年度以降80%以上を維持している。



[12-2] [12-1]でA（効果があった）と答えた方：TA活動を通して、学部学生に対して教育的効果があったと思いますか。

「効果があった」と「少しは効果があった」を合わせるとほぼ90%以上あり、TAが学部教育に貢献していると自己評価している。



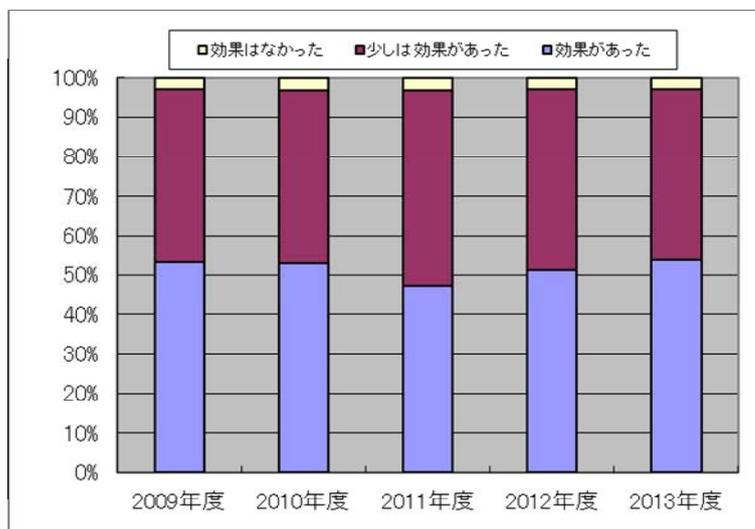
[12-3][12-2]でC（効果はなかった）と答えた方：その理由は何ですか。

自分が積極的に教育しなかったり、ほとんど先生が教育していた等で、1部その意味を理解せずに関わっていることに不満があることが見てとれる。

- ・ 特別指導をしていないから
- ・ TAも研究を把握できていない
- ・ 意味がないから
- ・ 実感がない
- ・ 自分が積極的に教育しなかったから
- ・ 丸付けや出欠確認がメインだったから。
- ・ 大きな業務をこなしていない
- ・ 他分野までは理解できない
- ・ 留学生だから
- ・ 学部学生に対して指導などを行う役職でなかったため
- ・ ほとんど先生が教育していたので、自分の影響はない。

[12-4][12-1]でA（ある）と答えた方：TA活動は、自分自身にとって教育的効果があったと思いますか。

2012年度同様、95%以上が、教育効果があったと答えており、TA活動が充分機能していると思われる。



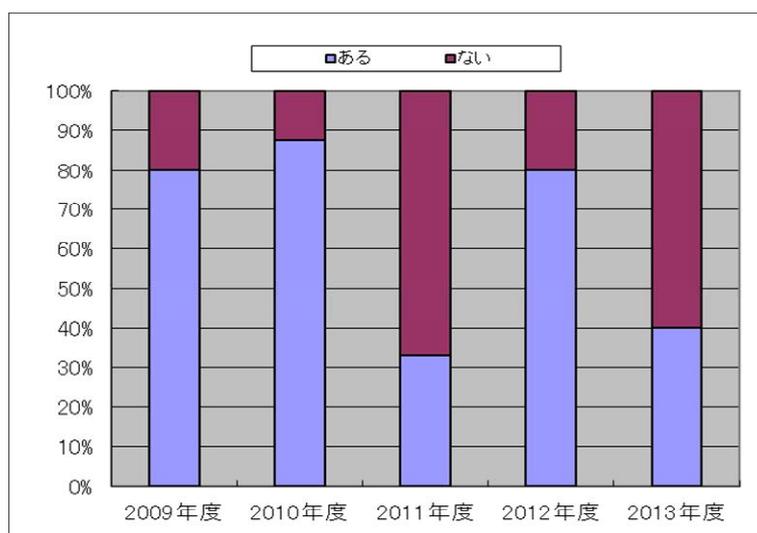
[12-5][12-4]でC（効果はなかった）と答えた方：その理由は何ですか。

TA活動は自分自身にとって教育的効果がなかったとする回答は2011年度には5%であり、この制度が十分教育的な効果を上げていると判断できる。具体的な回答は以下の通りであるが、少数意見である。

- ・ 新たに発見するものが無かった為
- ・ 自分にTAでの向上心がなかったから
- ・ 時間をとられ、研究に支障が出たから。
- ・ 学部学生に指導する機会があまりなかったから

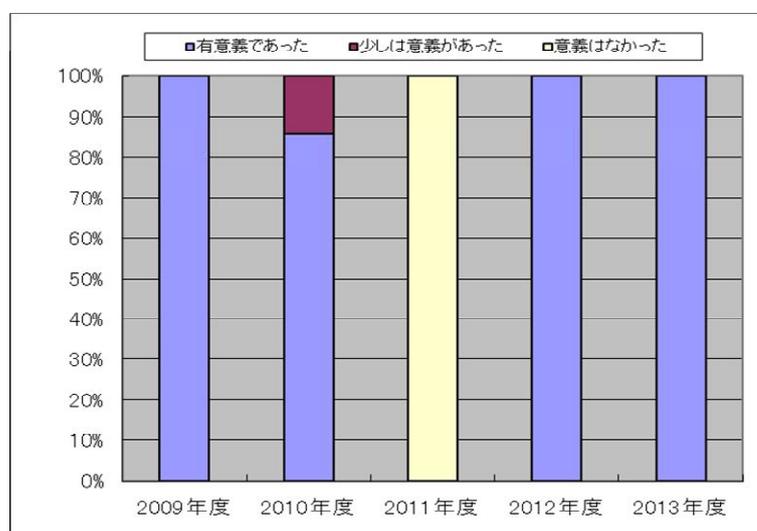
[12-6] RAを担当したことがありますか。(博士後期課程の修了生のみ)

回答者が5名しかおらず、意味のある分析を行なうのが難しい。



[12-7] [12-6]でA (ある) と答えた方。RA活動は、自分自身にとって意義があったと思いますか。

回答者が2名しかおらず、意味のある分析を行なうのが難しい。

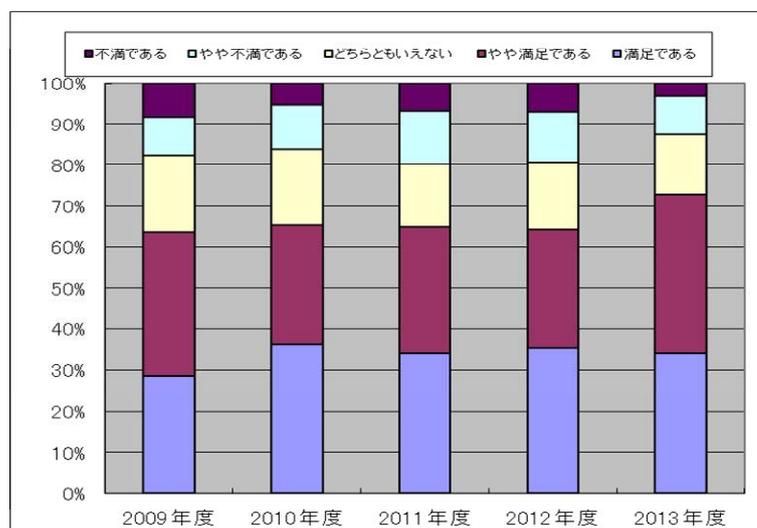


[12-8] [12-7]でC (意義はなかった) と答えた方：その理由は何ですか。(博士後期課程の修了生) (回答者なし)

[13] 施設・設備等についてお尋ねします。

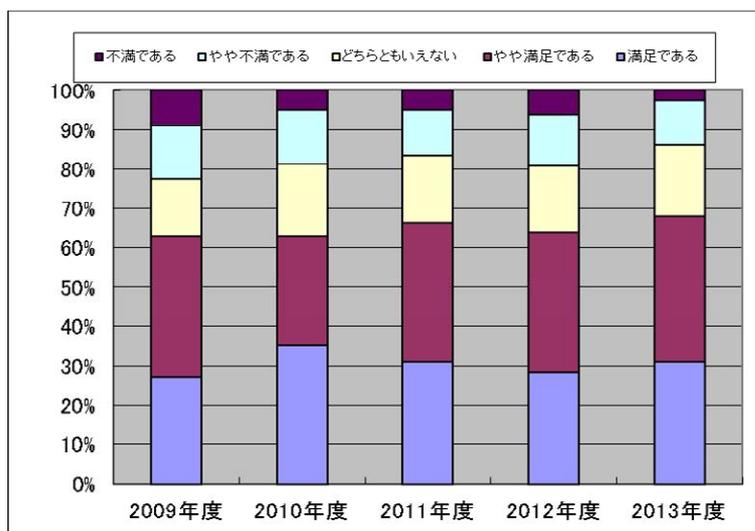
[13-1] 研究に使った実験室・実習室のスペースや環境等について満足していますか。

「満足、やや満足」と解答した学生が2009～2012年度と同様に3分の2以上を占め、漸増している傾向がみられる。改築等の効果が継続していると思われる。



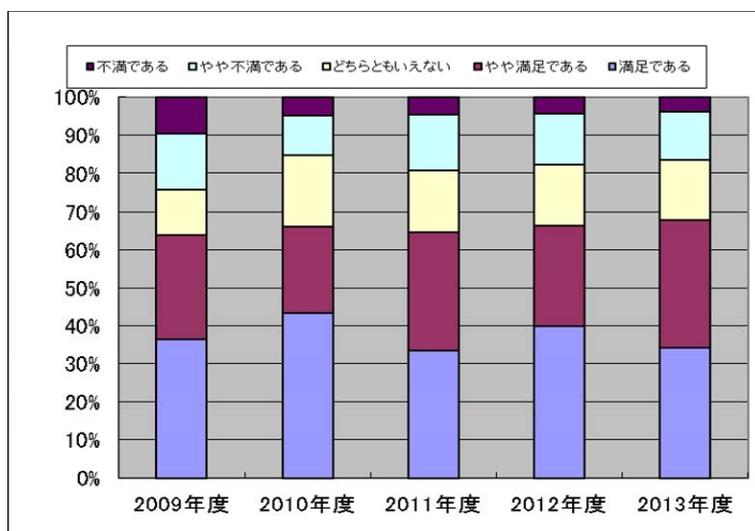
[13-2] 研究に必要な設備・装置について満足していますか。

「満足、やや満足」と解答した学生が2009年度から徐々に上昇し、3分の2程度を占めている。引き続き、効果的な研究環境の整備を進めていくべきである。



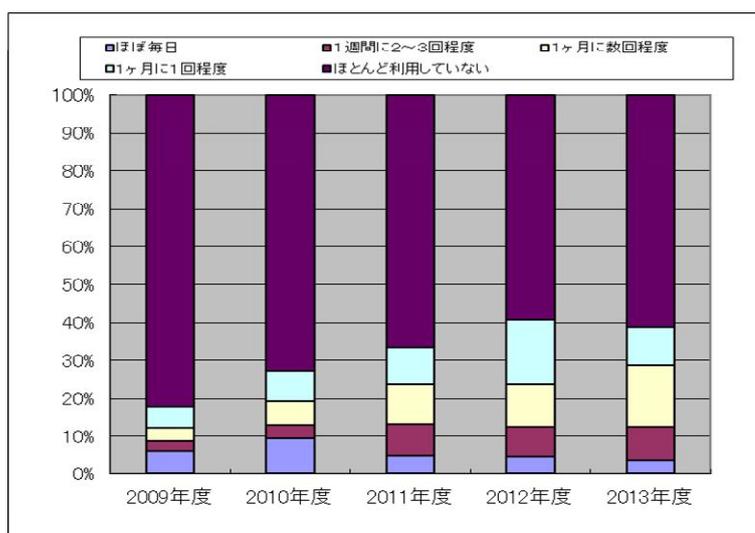
[13-3] 研究に必要な情報機器 (コンピュータ端末等を含む) の整備状況について満足していますか。

「満足、やや満足」と回答した学生の割合は3分の2程度で定着している。引き続き整備していく必要がある。



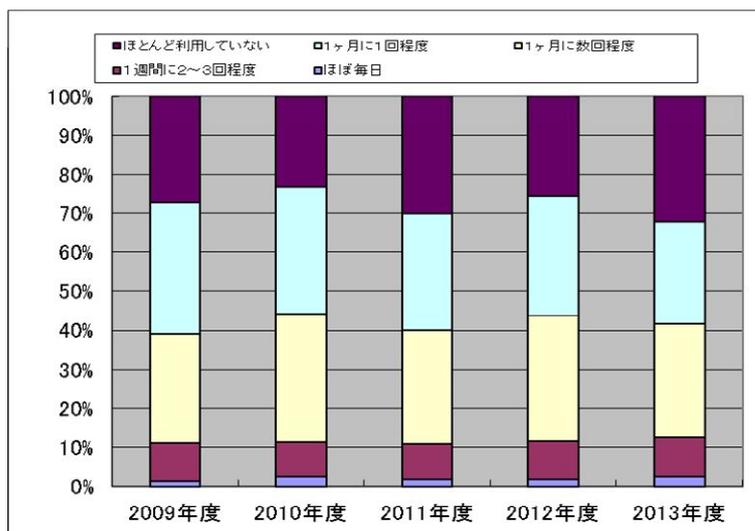
[13-4] 情報科学センターが提供しているサービスをどの程度利用していますか。(インターネットや電子メールを除く。)

2012-2013年度は、利用率が最も高い結果となっているものの、相変わらず約60%の学生が情報科学センターのサービスを利用していない。大学院生の場合、研究室の情報環境を利用していると思われるが、サービス利用の形態について検討をする必要がある。



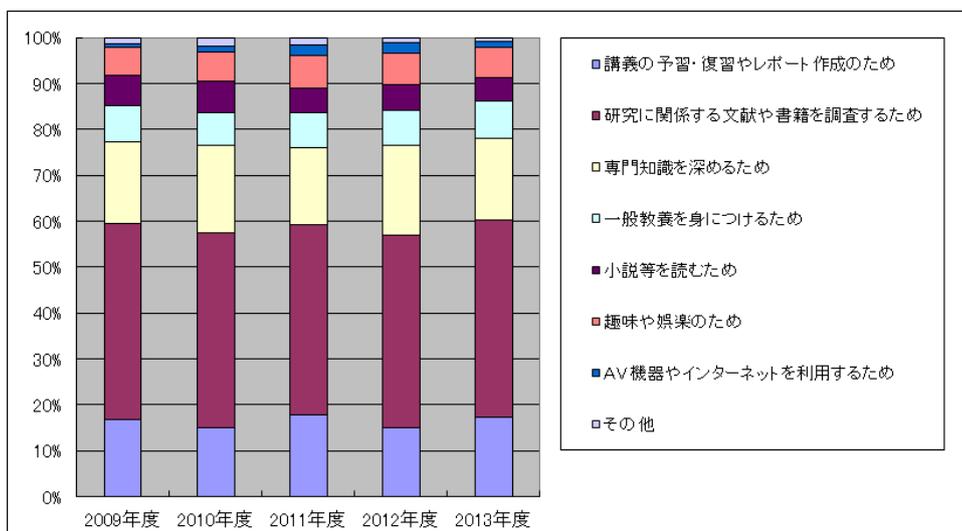
[13-5] 図書館を利用している頻度はどの程度ですか。

例年と同様に図書館の利用頻度は低く、60%の学生が1ヶ月に1回か、殆ど利用なしである。大学院生の研究に役立つ図書館の役割について真剣に検討すべきである。



[13-6] 図書館を利用する主な理由をお答えください。(複数回答可)

学生が講義、研究、専門知識および一般教養に関して図書館を利用している割合は、それぞれおおよそ17%、43%、18%、8%程度で全体的な傾向は大きく変化していない。



H (その他) [具体的に]

- ・ 新聞を読むため
- ・ 語学の勉強
- ・ 自主的な勉強のため
- ・ 新聞を読むため
- ・ 新聞を読むため

2. 3 教育達成度評価アンケート：雇用主 (2011年3月以前卒業生)

本節(2.3)と次節(2.4)では、まだ、九州工業大学工学部及び大学院工学府(旧工学研究科)における教育効果が残っていると思われる入社後3年程度を経過した本学卒業生・修了生を対象に、他大学と比較した教育レベルのアンケート調査を実施し、その結果をまとめています。なお、この時、彼らが在職する各会社・各機関(彼らの雇用主)に対しては、本アンケート調査は他大学の卒業生及び修了生に対する本学学生が受けた教育レベルの評価を行うためのものであり、対象者本人の評価を行うものではないことを断わっています。

※アンケート実施年月日 平成26年7月15日

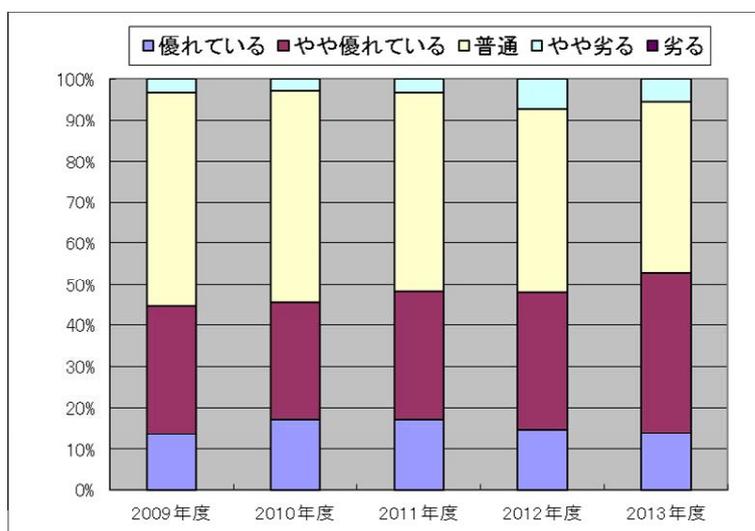
※アンケート回収率

| 配付枚数 | 回収枚数 |
|------|------|
| 83社 | 36名 |

1. 教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

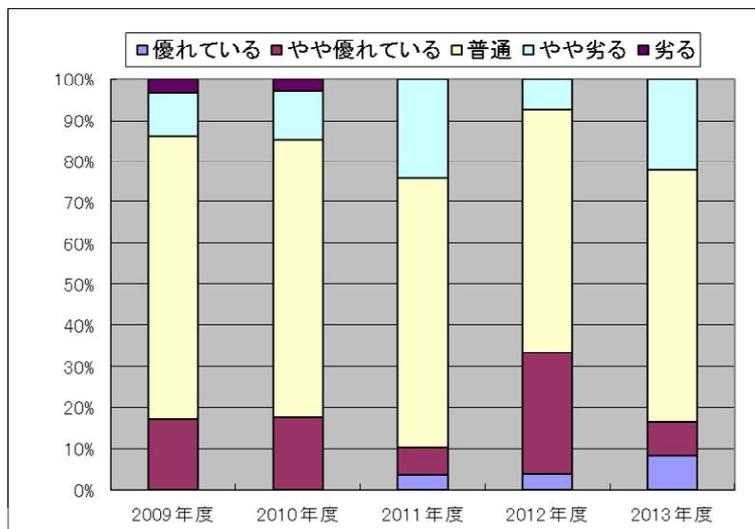
(1) 卒業生が受けた教養(人文・社会等の一般教養)教育のレベル

「優れている、やや優れている」がほぼ同じく50%程度になっている。「やや劣る」は近年徐々に増加の傾向にある。



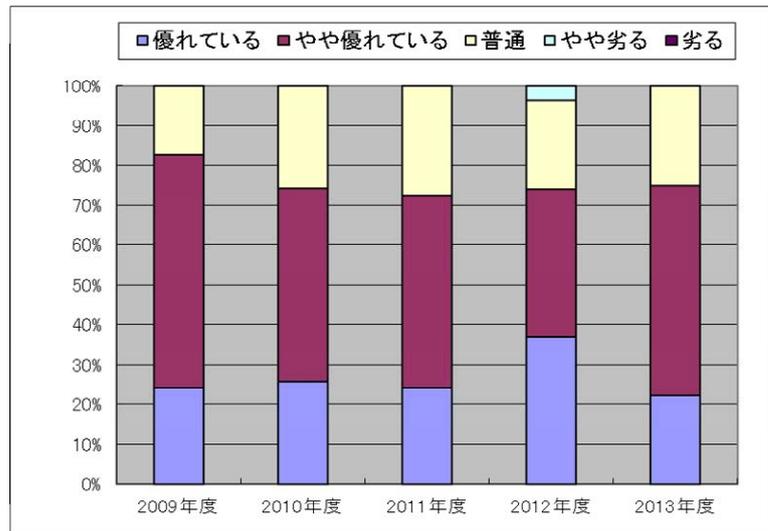
(2) 卒業生が受けた語学(特に英語)教育のレベル

「優れている、やや優れている」が2012年度30%に増加し、「やや劣る」が8%に減少しているものの、2013年度は「優れている、やや優れている」20%以下に減少し、「やや劣る」が20%以上に増加している、卒業生の語学力に対してなお危機感をもつべきである。グローバル人材教育が求められる時代にあつて、放置できない状況になりつつある。



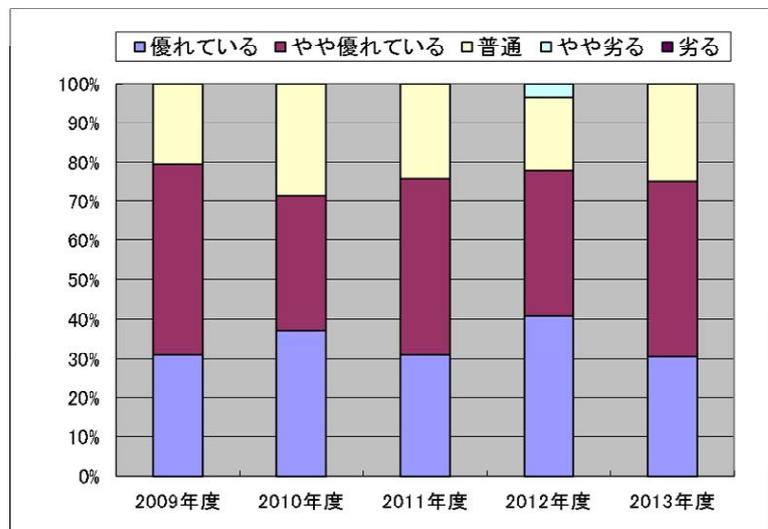
(3) 卒業生が受けた理数系（数学・物理・化学）教育のレベル

「優れている、やや優れている」と回答した企業が 2009 年度から減少傾向にある。また、70%以上を維持している。



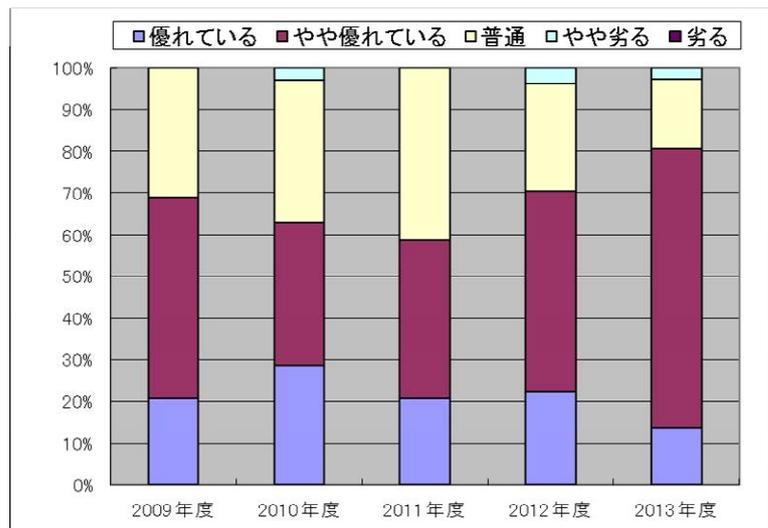
(4) 卒業生が受けた専門教育のレベル

卒業生の専門教育レベルについては、「優れている、やや優れている」が年度ごとに一定しないが、60%は割らない。2013 年度は 75%になった。今後も引き続き注視する必要がある。



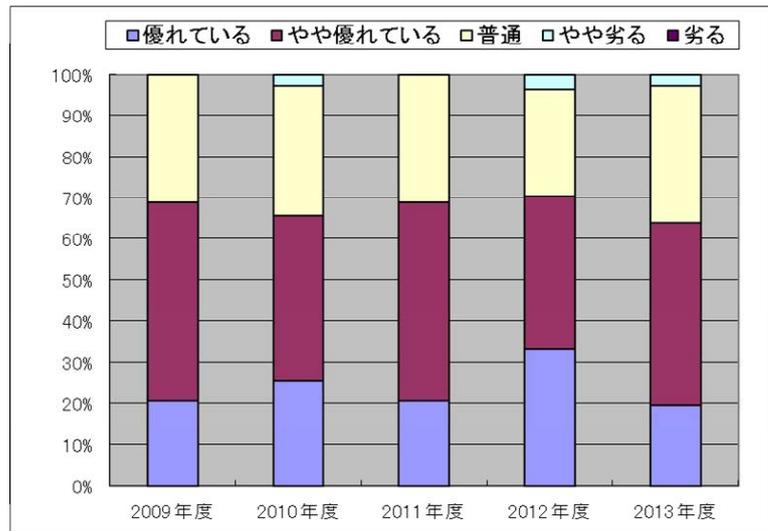
(5) 卒業生が受けた課題探求能力教育のレベル

「優れている、やや優れている」が 2009 年度から減少し続け、2011 年度は 59%と低さであったが、近年若干の回復傾向がみられるが、なお注視すべきである。



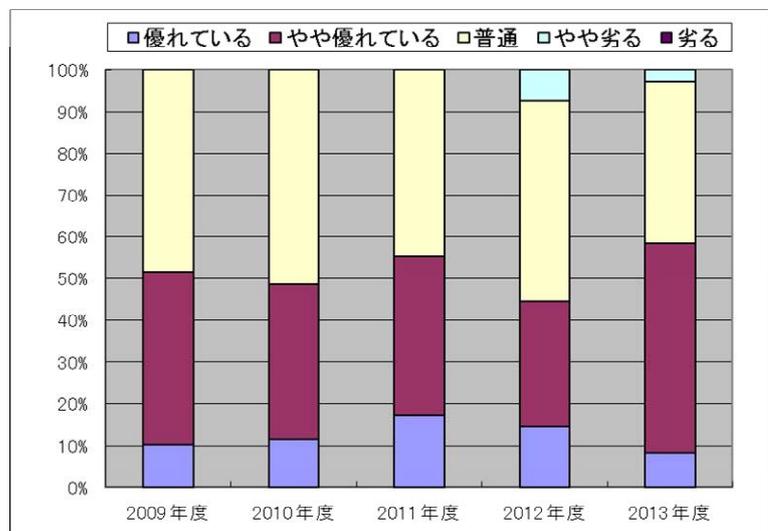
(6) 卒業生が受けた課題解決能力教育のレベル

「優れている、やや優れている」は70%程度になっている。しかし年度ごとの変動もあり、引き続き注視しておく必要がある。



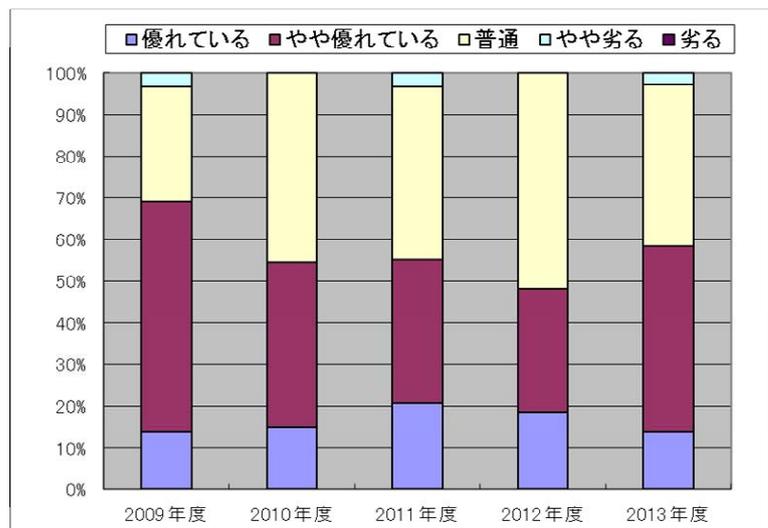
(7) 卒業生が受けた独創性教育のレベル

「優れている、やや優れている」は約50%を推移している。しかし、2012年度は減少していることから、引き続き注視しておく必要がある。



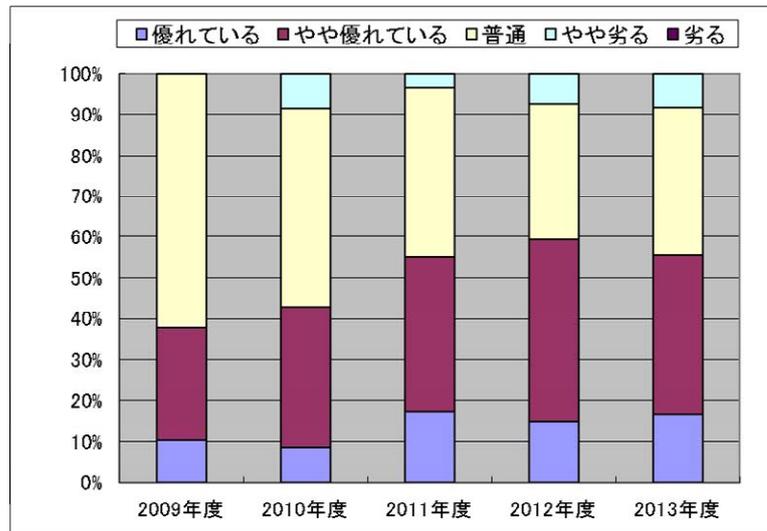
(8) 卒業生が受けた構想力教育のレベル

「優れている、やや優れている」は50%程度を推移してきた。年度ごとの変化が大きいこと及び2009年度から減少傾向にあり、今後も推移を見守る必要がある。



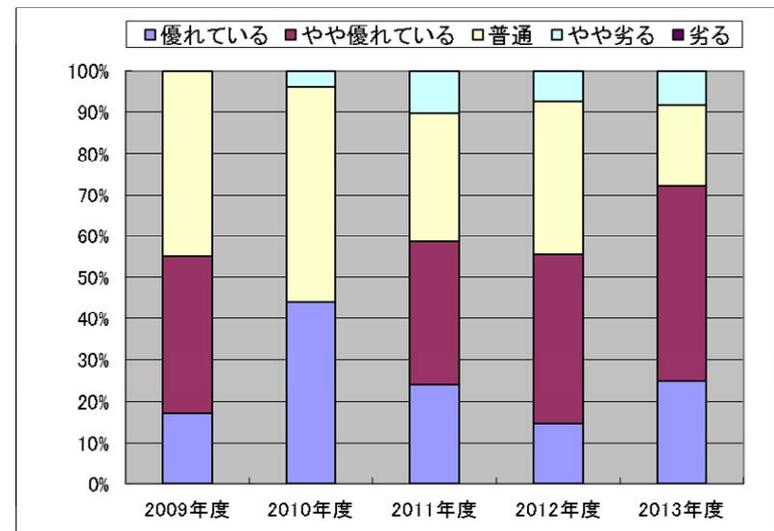
(9) 卒業生が受けた表現力教育のレベル

2011年度以降、「優れている」「やや優れている」を合わせて割合は50%を越えているが、2013年度は前年度よりその割合は微減傾向にあり、今後注視していきたい。



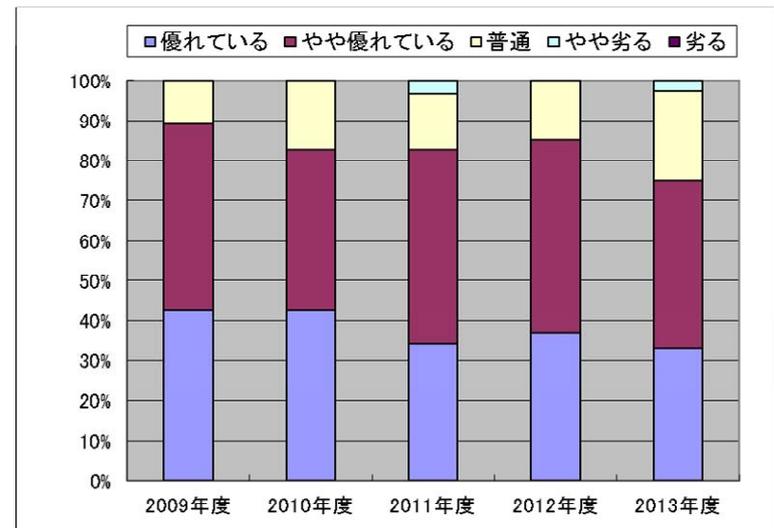
(10) 卒業生が受けたコミュニケーション能力教育のレベル

「普通」以上の評価は2011年度以降概ね90%以上を維持してきており、2013年度は特に「やや優れている」以上の評価が70%を越えた。企業からの評価が良い方向に変化していることを期待させる。



(11) 卒業生が受けた仕事に取り組む熱意に対する教育のレベル

この数年、「普通」以上の評価は90%後半を推移しているが、2013年度は「やや優れている」以上の評価が約10%減少していることが懸念される。全体として依然評価は高いと言えるが、今後の動向を注視したい。



2. 貴社・貴機関が九州工業大学 工学部 卒業生に望む事項（卒業生の資質等）がございましたらご記入ください。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「コミュニケーション能力」、「リーダーシップ能力」を望まれているのが目立つ。「英語力」、「基礎学力」、「専門知識」、「課題解決能力」、「発信・伝達能力」、「一般教養・常識」等も望まれている。

- ・ 課題の解決に対する探究心と課題を自分の課題としてとらえる意思、自分の切り口で何をすべきかを考える熱意を持った人材
- ・ 学校での勉強に真摯に取り組むことを基本として、課外活動やアルバイト等を通じてコミュニケーション能力も身につけて頂きたい
- ・ 基礎的な学力を有している学生かつ、仕事に対し自ら挑戦する学生を求めています。
- ・ 教科書による座学的教養も必要ですが、ロジカルな思考・課題解決力・応用力を持った人材を希望します。
- ・ グローバルに活躍したいという強い意識。素直に意見が聞ける人。失敗を隠さず、失敗から学ぶことで成長できる人。責任感が強く誠実である人
- ・ コミュニケーション能力、基礎学力
- ・ 今後は熱意を持って業務に取り組んでほしい。必要な資格を一日でも早くし得してほしい。
- ・ 仕事への適応能力、チーム内で仕事を遂行する能力、論理的思考に基づく問題解決能力、リーダーシップを発揮する能力
- ・ 仕事を最後までやり抜く“完遂力”
- ・ 職種によって求められるスキルや知識は異なるため、特定のスキルを必要としません。
- ・ 生徒さんの能力は非常に高いと感じます。自分に自信を持って行動して頂くのと、人の話をキチンと聞くという事と周囲に迷惑をかけない事を大事にしてもらえれば良いと思います
- ・ 積極性、向上心、問題（課題）解決力
- ・ 専門性
- ・ 専門性（強み）をしっかりと持っていただきたい
- ・ 大学で学んだ知識を生かせ、希望する職種の会社で仕事ができる学生の割合はごくわずかであることを肝に銘じて、何事にも熱意を持って取り組んでいただきたい
- ・ 常に自身の能力向上に努める。広い視野をもち、最新の技術や社会行動等を収集することができる。人脈（特に社外とのパイプ）を大切にする
- ・ 前向きで優秀な学生が多いのですが、基礎物理の知識が理解から暗鬼に移ってきていると感じています。高校までの問題だと思いますが対応が必要と考えています。
- ・ 物づくりに対する熱意のある学生となっていただきたい。
- ・ リーダーシップ
- ・ 礼儀正しく、明るい資質を望みます。英語の使用頻度が高くなってきていますので、TOEIC700点レベルまでの引き上げを希望します
- ・ ロジカルシンキングとプレゼン力
- ・ 私たちが望むもの。決められていることを忠実に守る能力。こういう考えだと言える能力。なぜ、そうなるのかと気付き探れる能力

3. 九州工業大学 工学部の教育に対して、ご意見・ご要望（企業が必要とする人材の専門分野、専門知識等）がございましたらご記入ください。

業務に応じた多岐に亘る専門知識についての教育の期待が強く、また、コミュニケーション能力、活力ある強い人材の育成等の期待がある。

- ・ 英語力(話す>読み書き)
- ・ 語学力(特に英語の会話力、表現力)
- ・ 今後とも優秀な人材を送って頂きたいと思っております。
- ・ シュミレーション、情報、システムに係わる教育が強みと認識しております
省エネ、スマートグリッド等に関する専門知識。英文専門書の和訳や日常英会話などの語学力(通訳なしで海外
- ・ 出張に出向き、先方と交渉できるレベル)
上記能力を備えた人材の育成には、電気回路やソフトウェアの設計・制作といった、実際のモノ作りを経験する
- ・ ことが重要ではないかと思えます。
- ・ 設計、CAD、CAM 等
- ・ 専門分野に捉われず、応用力を生かして頂ける人材を求めます
鉄道土木等の分野を取り入れていただければと思います。また、コミュニケーション能力についても教育をお願い
- ・ いたします。
当社は女性の設計者やエンジニアなど理系の女性の採用に力を入れています。今後はもっと女性の方を接する
- ・ 機会が増えればと思っております。
- ・ 土木、建築の知識を身に着けた人材を求めます
- ・ 能力と姿勢のバランスが良い学生が多く、配属先部署の評判も高いです。今後ともよろしく願いいたします。
1人1人が目標を持って行動されている学生が多く見受けられます。これからも自主性を重んじた指導をお願い
- ・ できればと思えます。
- ・ プログラミング
- ・ 語学(英語)力の一層の向上を望みます

4. 全体としての傾向

2013年度においては、「やや優れている」以上の評価は、「課題探求能力」が80%と高く、70%代に「理数系」、「専門」、「コミュニケーション能力」、「仕事に取り組む熱意」の4項目が続き、60%代に「課題解決能力」が続き、さらに50%代には「教養」、「独創性」、「構想力」「表現力」が続いている。40%代は、前年度の3項目から0項目に改善されている。しかし、「語学」は依然「やや優れている」以上の評価は少なく、20%未満となっている。また、「劣る」の評価は全項目からなくなり、「やや劣る」の評価もほとんどの項目であつてもごく僅かである。

全般において卒業生は企業から概ね高い評価を得ていると判断できる。特に、「課題探求能力」、「独創性」、「構成力」「コミュニケーション能力」における評価が向上していることが目立つ。

しかし、「語学」の評価は他の項目に比べてなかり低く、これに関して今行われている、また行われようとしている教育を再点検して、必要なものには対応策を講じていかななくてはならない。

2. 4 教育達成度評価アンケート：雇用主 (2011年3月以前修了生)

※アンケート実施年月日 平成26年7月15日

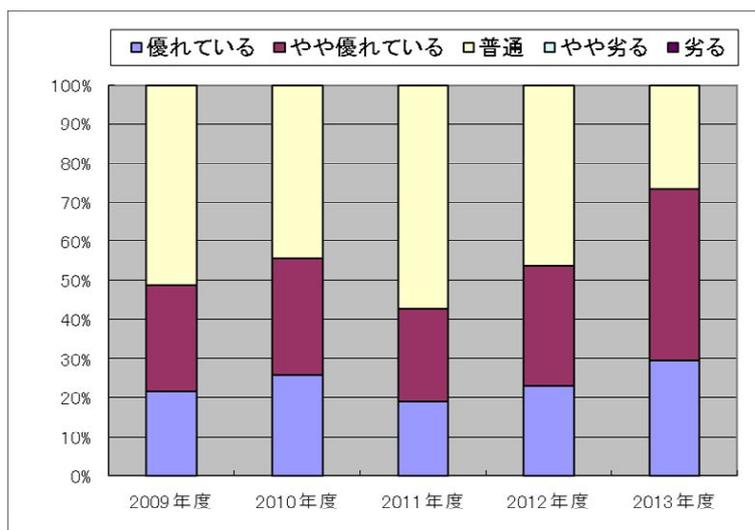
※アンケート回収率

| | |
|------|------|
| 配付枚数 | 回収枚数 |
| 108社 | 34 |

1. 教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

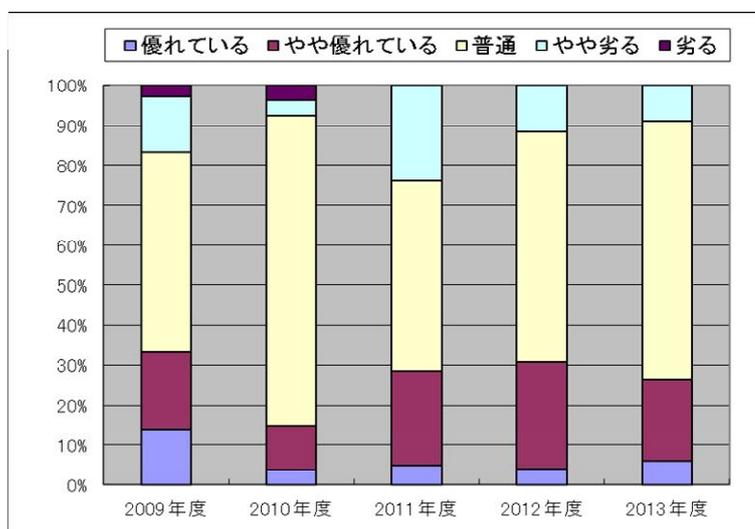
(1) 修了生が受けた教養(人文・社会等の一般教養)教育のレベル

「普通」以上の評価は100%であり、「やや優れている」以上の評価は前年度までの40~55%と言う評価から70%以上にまで向上している。



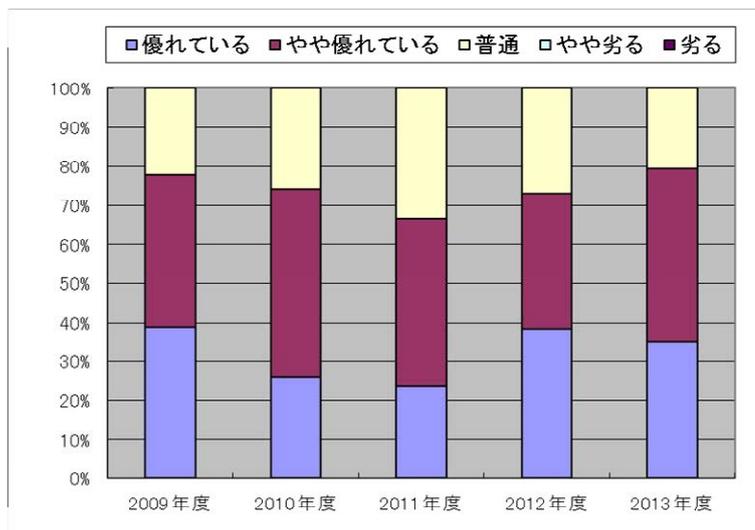
(2) 修了生が受けた語学(特に英語)教育のレベル

「やや優れている」以上の評価が概ね15~30%と低迷を続けている。2011年度から「劣る」の評価はないものの、企業からの評価は低いと判断される。行われている教育を再点検し、効果的な改善策を考えなくてはならない。



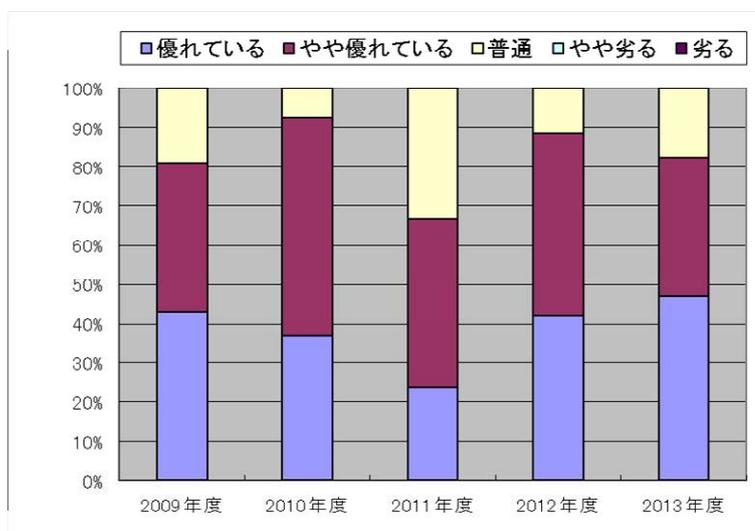
(3) 修了生が受けた理数系（数学・物理・化学）教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は、2011年以降順調に向上し、2009年度のレベルを上回っている。全体的に企業から高い評価を受けていると判断できる。



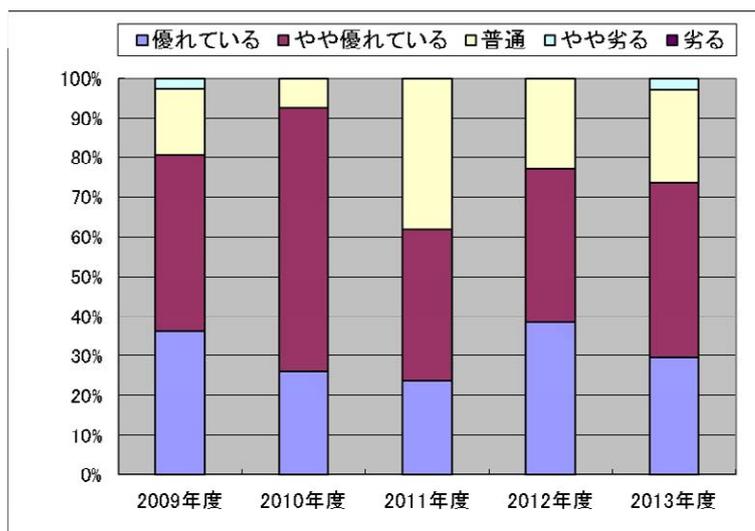
(4) 修了生が受けた専門教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は、2011年度は70%を切ったが、2012年度は例年のように80%を超え、2013年度も80%代を維持している。依然として、企業からの評価は高い。



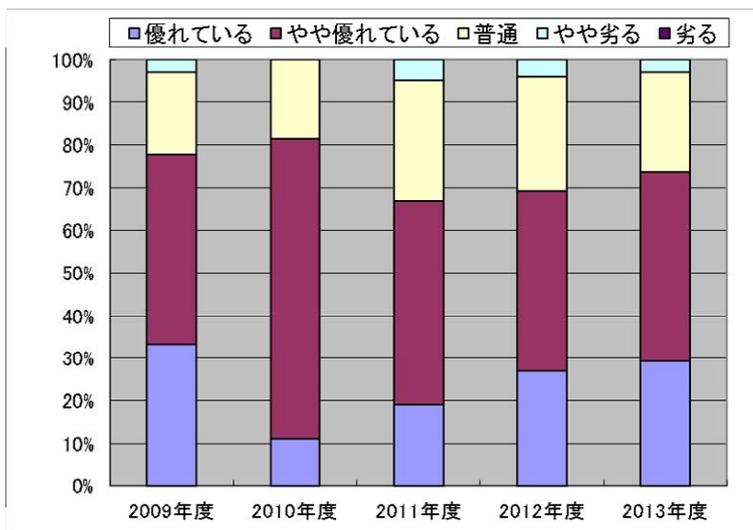
(5) 修了生が受けた課題探求能力教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は、2011年度は60%近くまで減少したが、2012年度は76%まで戻し、2013年度も70%代を維持している。企業からの評価は高いが、もう少し上積みが見込める余地がある。



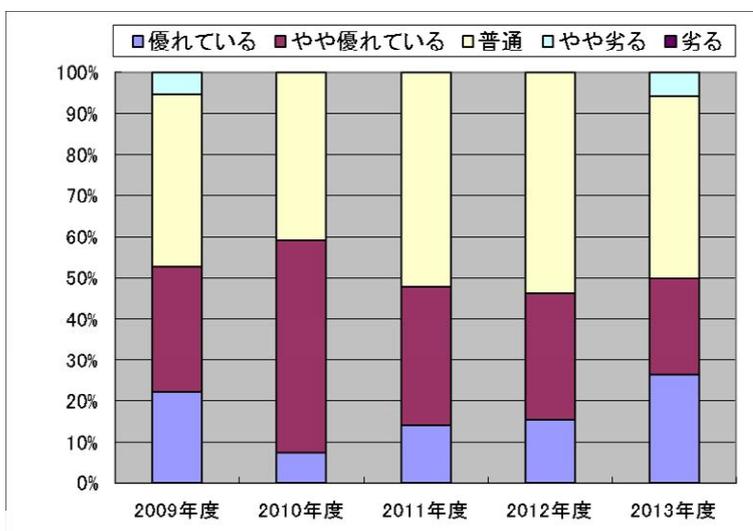
(6) 修了生が受けた課題解決能力教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は概ね60~80%で推移しており、2013年度は70%を上回った。企業からまずまずの評価を受けていると判断できる。



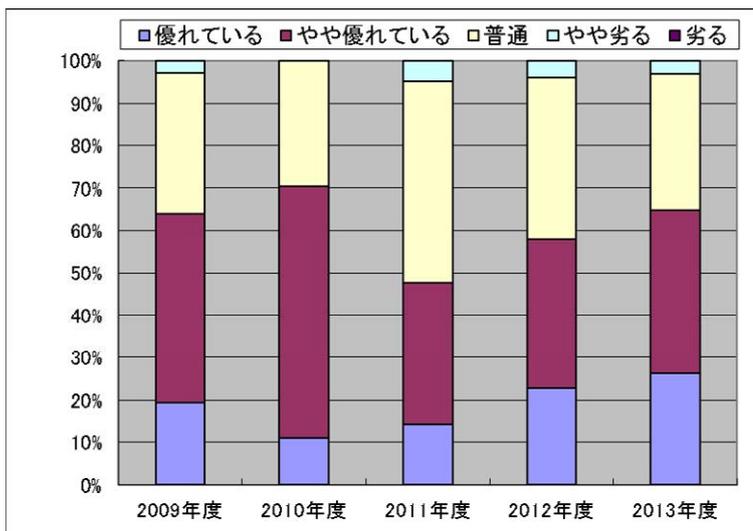
(7) 修了生が受けた独創性教育のレベル

2010年度からの3年間「やや劣る」以下の評価はなかったが、2013年度はわずかであるが存在している。しかし、「やや優れている」以上の評価は50%に到達し、「優れている」の評価が2010年度以降、順調に上昇していることは好材料である。全般的に、注視を要する教育項目である。



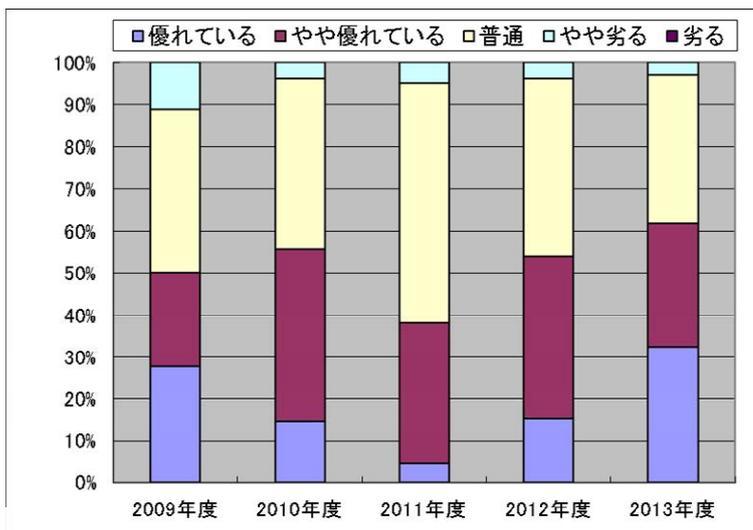
(8) 修了生が受けた構想力教育のレベル

「やや優れている」以上の評価が2011年度以降、着実に向上して、2013年度は60%を上回った。今後の推移を引き続き見守る必要がある。



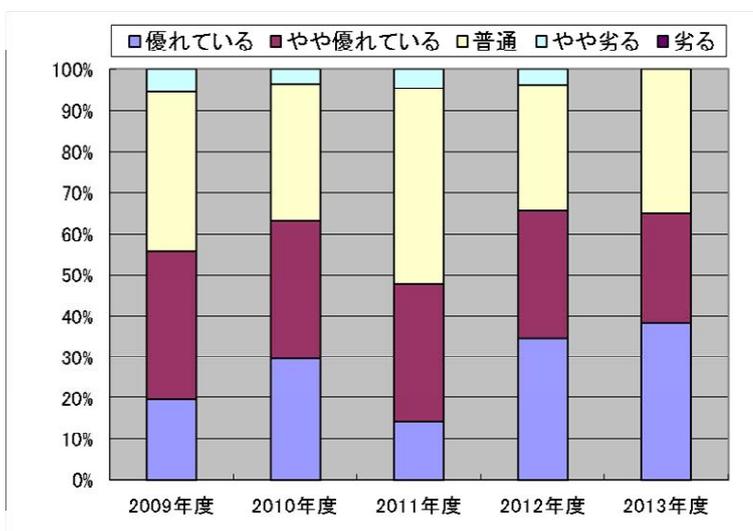
(9) 修了生が受けた表現力教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は前年度まで概ね35～55%の範囲で推移していたが、2013年度は60%を越えた。今後の推移が楽しみな教育項目である。



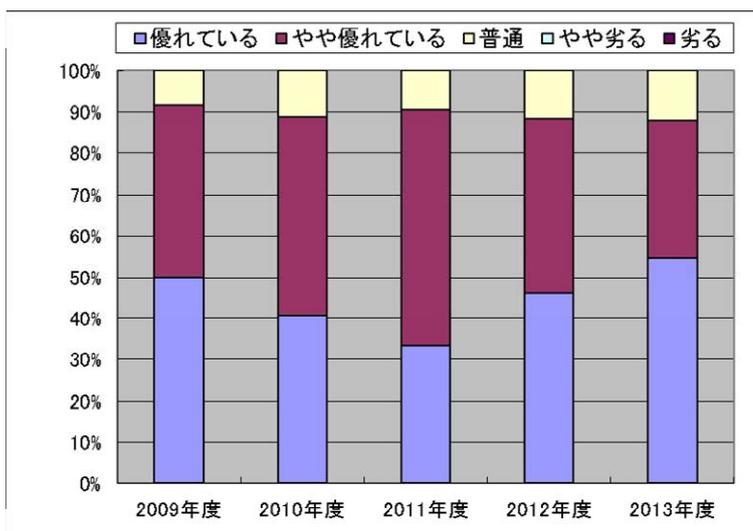
(10) 修了生が受けたコミュニケーション能力教育のレベル

「やや優れている」以上の評価が2011年度は50%を切ったが、2013年度は2012年度同様に60%代を維持した。まずまずの評価を得てはいるが引き続き注視が必要である。



(11) 修了生が受けた仕事に取り組む熱意に対する教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は概ね90%の高い数値を維持している。2011年度以降の「優れている」の評価の順調な向上は頼もしい。修了生は企業から高い評価を受けていると判断できる。



2. 貴社・貴機関が、九州工業大学 大学院工学研究科 修了生に望む事項（修了生の資質等）がございましたらご記入ください。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「コミュニケーション能力」、「自発性」、「実行力」、「問題解決能力」、「英語力」等を期待されていることがわかる。

- ・ あくまで私見ではありますが、気概を有する学生を求めます。資質的なものとしては普通の表現力を求めます。上手に話すことまでは求めません。最近の大学の卒業生でも主語・述語が不明確な報告が多いようです。責任回避の表れなのかわかりませんが、要は他人ごとの報告です。
- ・ 与えられた課題に対して解決能力が優れている人材が企業人として望まれるが、さらには自ら課題を見つけ出せるような優秀な人材を欲しております
- ・ 新しいことにチャレンジしていく意欲と新しいアイデアを生み出す豊かな発想力を身につけて欲しいと思います。
- ・ 机上の理論や知識はもちろん必要であるが、想像性、独創性豊かになるよう望みます
- ・ コミュニケーション能力、向上心、協調性。専門分野以外も知識や技術を吸収しようとする積極性。精神的、肉体的にタフであること。独創性
- ・ コミュニケーション能力、積極性
- ・ 仕事のアウトプットについて、見本や過去の例を要望する傾向が近年の若手社員に見られます。既成概念にとらわれず自分なりに考えて結論を出し、論理的に説明(表現)する能力を磨いてほしいです
- ・ 仕事への適応能力、チーム内で仕事を遂行する能力、論理的思考に基づく問題解決能力、リーダーシップを発揮する能力
- ・ 職種によって求められるスキルや知識は異なるため、特定のスキルを必要としません。
- ・ 専門科目のさらなる学力向上、英語力の強化
- ・ 高いコミュニケーション力とヴァイタリティを持っていると強く感じています
- ・ 他大学と比較して、全体的にレベルの高さを感じます
- ・ 当社に入社される修了生は、コミュニケーション能力、仕事に対する取組姿勢など、非常に優れた方が多い印象です。望むことは、世代の壁を越え、社内外問わずリーダーシップを発揮できるところを、今後もさらに期待しています。
- ・ 何事もチャレンジする気持ち、また何事も一人ではできない為、周囲との協調性を持つとともに自分の考えをしっかり持つこと
- ・ 弊社も海外進出を進めており、今後もアジア地区を中心としてさらなる展開が考えられます。従って、英語でのコミュニケーション能力が要求されますので、英語力の強化(会話、ビジネス英語、国際会議でのプレゼンなど)を望みます。
- ・ 物事を正面からとらえて、真面目に取り組む姿勢が校風として在ると思います。この長所を伸ばしていただけたら良いと思います
- ・ やる気と熱意
- ・ 良い技術者を目指すことはもちろんのこと、良い社会人になろうとする姿勢(コンプライアンス、倫理、コミュニケーション)
- ・ リーダーシップの発揮

3. 九州工業大学 大学院工学研究科の教育に対して、ご意見・ご要望（企業が必要とする人材の専門分野、専門知識等）がございましたらご記入下さい。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「専門分野の基礎力」、「関連分野を含む総合的技術と能力」、「課題探求能力」、「コミュニケーション能力」、「広い視野をもつ」、「外国語能力」等の育成を期待されていることがわかる。

- ・ ひき続き、材料、電気、機械の学生の推薦をお願いします。各専門分野における専門知識に加え、英文の論文を読む力が必要と考えます。また、電気においては電気主任技術者(第1種)の資格を得るための単位取得を希望します。さらに、新技術や将来動向にたいしてアンテナを高くし、自分で判断できる力を養う工夫をして頂きたいと思います。
- ・ 得意分野の深堀は勿論ですが知識の幅を広く持ち続けることに労を惜しまないような教育を続けていただきたいと思います
- ・ できましたら建築分野(特に設備系環境系)の幅広い知識も習得してもらえば大変有難いと思います
- ・ 大学への学内説明会が実施されるようであれば当社も加えてほしい。
- ・ 専門分野については、優れた能力を有していると感じます
- ・ 専門分野について基礎となる部分をしっかりと教育していただきたい。(入社後の業務に対する応用力につなげるため)
- ・ 専門分野としては機械系技術者を求めています、特には拘っていません。本卒業生は電気が専門ですが、機械の仕事にも従事させています。専門知識は有った方が良いですが、大学の知識は社会では通用しないのが小生の考え方です。技術的な基礎知識をしっかりと習得していることを望みます。大学は高度な技術的論理・思考方法を学ぶ場と思っております。中途半端な専門知識より確実な基礎知識が大切かと思えます。その考えから小生は専門学校卒業生より大学の卒業生を高く評価しています。
- ・ 専門分野(工学)能力を付けることが大前提ですが、語学力、経済、経営についても基礎的能力が付くような教育を推進していただきたい
- ・ 専門知識(機械工学/電気工学等)を持つ方は多くいると思いますが、それを生かす人間工学(使いやすさ、分かり易さ)や機能を統合するSEに秀た人材を育成して欲しいと思います
- ・ 語学教育(特に英会話)または、海外経験を通じた海外志向の高い人材の育成を希望します
- ・ 貴大学からの修了生は優秀な人材に付き、現在貴大学で学ばれている方には是非当機構へ就職していただき、鉄道技術の向上進歩させていただきたいと思っております
- ・ 技術経営(MOT)分野の設置。グローバルで活躍できる英語力。近年、偏差値が下がっているように感じます。
- ・ 機械系の基礎的な知識の習得がしっかりとできている人物を求めています
- ・ 「魅力ある人材」という観点で2点挙げさせていただきます。「課題への取り組み姿勢」必要な情報を与えられるまで待つのではなく興味を持って自分から集めこだわりを持って課題に打ち込める人。「コミュニケーション能力」同僚との意思疎通、上司への報告、連絡、相談、関係者との素早い情報共有ができる人

4. 全体としての傾向

2012年度においては、「やや優れている」以上の評価は、「専門」と「仕事に取り組む熱意」が80%代と高く、70%代に「教養」、「理数系」、「課題探求能力」、「課題解決能力」の4項目が続く。60%代には「構想力」、「表現力」、「コミュニケーション能力」の3項目、50%代には「独創性」の1項目であり、「語学」の30%を下回っている。全般的には70%以上の評価項目の数が4項目から6項目に増加しており、良い方向に推移している。「劣る」の評価は全項目になく、「やや劣る」の評価も少ない。全般において修了生は企業から高い評価を受けていると判断できる。しかし、「語学」と「独創性」の

評価は相対的には低い。「語学」は以前から指摘されている緊急の課題である。「独創性」については2010年度以降「優れている」の評価が順調に増えているが、今後も注視すべき項目である。

2. 5 教育達成度評価アンケート：卒業生 (2011年3月以前卒業生)

本節(2.5)と次節(2.6)では、まだ、九州工業大学工学部及び大学院工学府(旧工学研究科)における教育効果が残っていると思われる入社後3年程度を経過した本学卒業生・修了生を対象に、彼らが大学時代に受けた教育レベルと満足度に対するアンケート調査を実施し、その結果をまとめています。

※アンケート実施年月日 平成26年7月15日

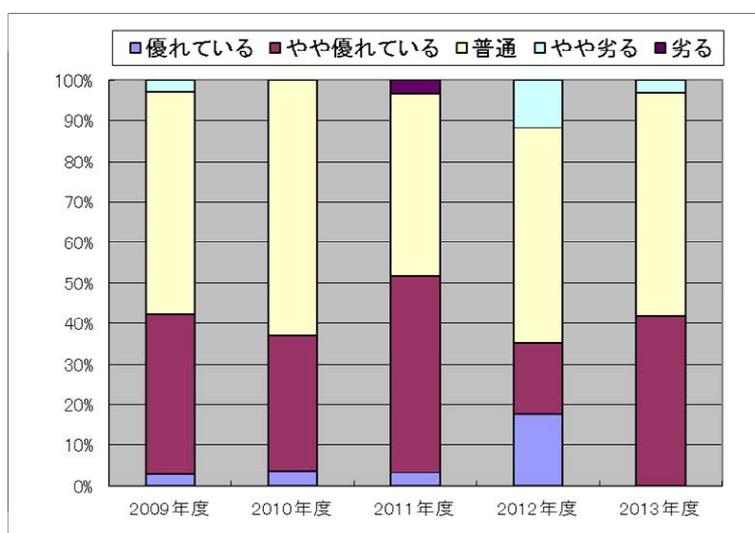
※アンケート回収率

| 配付枚数 | 回収枚数 |
|------|------|
| 88名 | 31名 |

1. 教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

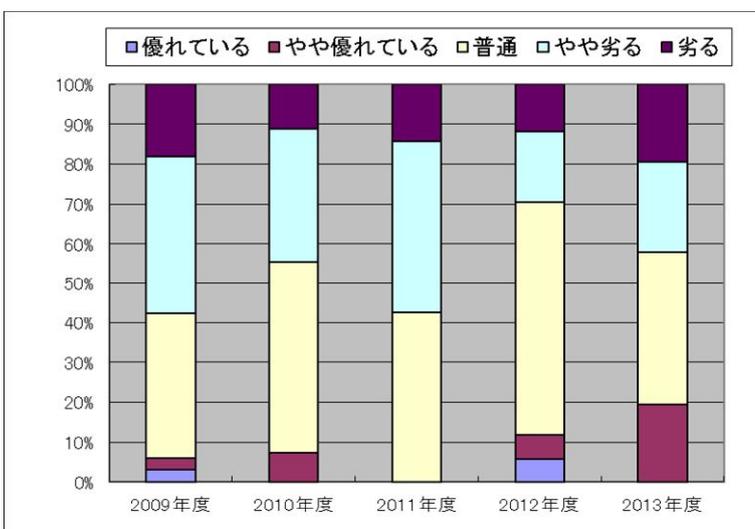
(1) あなたが受けた教養教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は2012年度40%を切るところまで後退したが、2013年度は40%代に向上した。注視し続けることが必要な教育項目である。



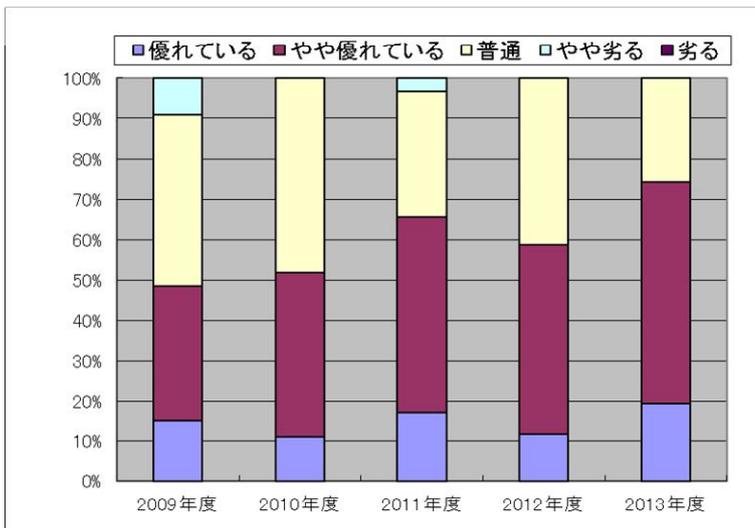
(2) あなたが受けた語学(とくに英語)教育のレベル

「普通」以下の評価が90%前後であり続けていた前年度までの水準からやや好転し、「やや優れている」以上の評価が20%に迫るところまで改善された。これまで行われてきた対策ならびに、これから行われようとしている対応策を見ながら更なる改善策を引き続き考えていく必要がある。



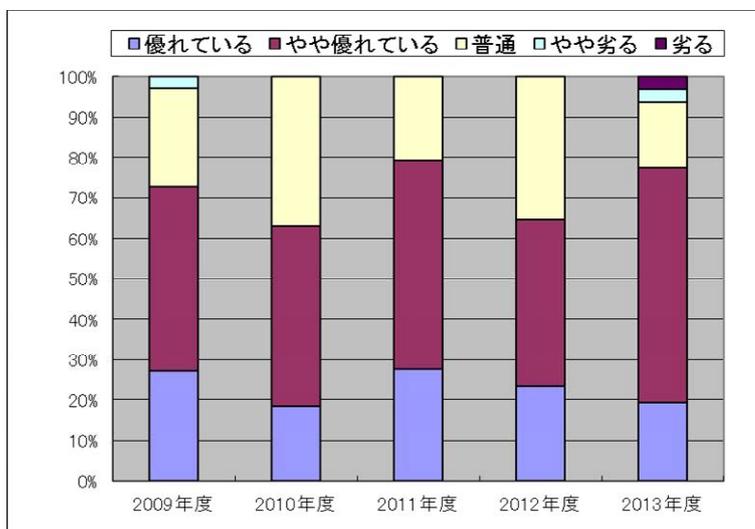
(3) あなたが受けた理数系教育のレベル

2012年度と比べて2013年度においては「優れている」「やや優れている」肯定的評価の割合がやや増加し、約70%が肯定的な評価となっている。



(4) あなたが受けた専門教育のレベル

2013年度においては「優れている」、「やや優れている」の肯定的評価が昨年度と比べ15%増加した。否定的な意見が若干散見する。今後注視していく必要がある。



(5) あなたは入社後資格を取得しましたか？

○入社後取得した資格（具体的に）

1陸特、基本情報技術者、工事担当者、他

CAD 検定3級

危険物乙4種、土木2級施工管理

技術士補

技術士補、IT パスポート

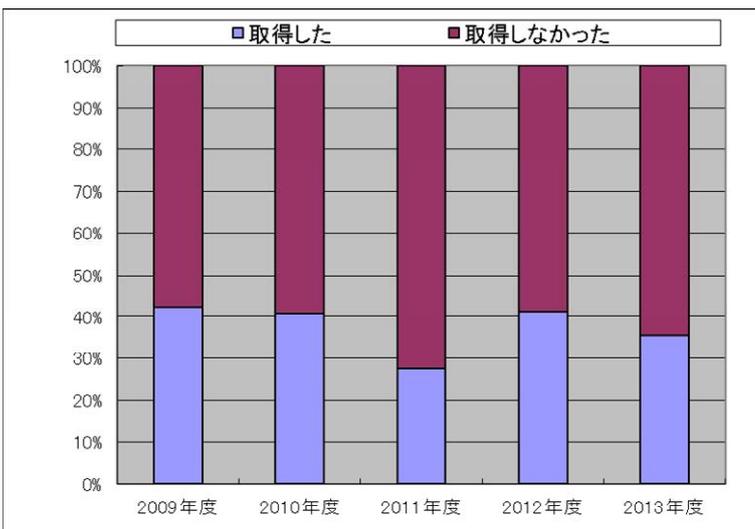
高圧ガス製造保安責任者、甲種機械

工事担当者 AI・DD 総合種

第一種衛生管理者

玉掛け

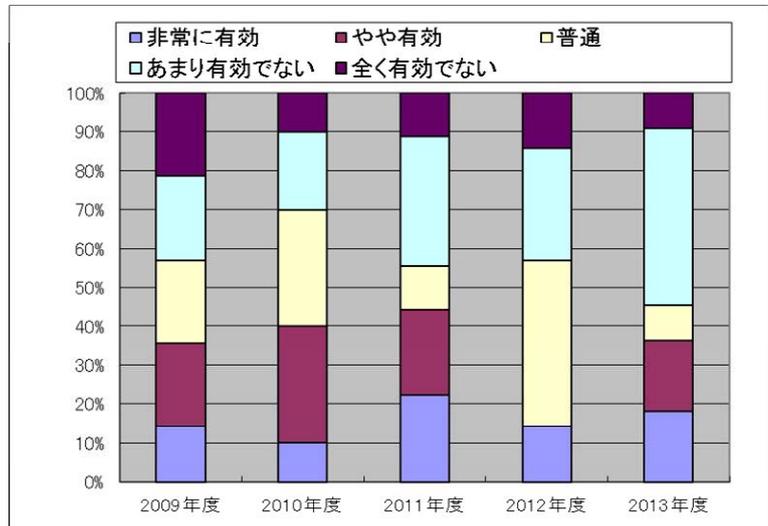
鉄骨製作管理技術者1級



10件の資格取得は認められている。
2013年度には2012年度より5%程度取得件数の割合が低下している。今後、資格取得に関する意識を高める教育も必要と考えられる。

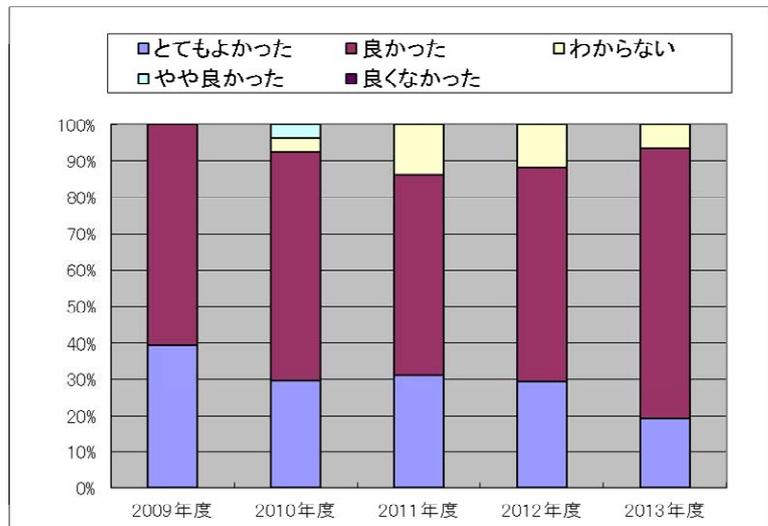
(6) 資格を取得した方にお尋ねします。
本学の教育は資格取得に有効でしたか？

2013年度では2009年以降2012年まで、「全く効果がない」の強い否定的評価の比率が10%以上である。全般的には肯定的評価は40%程度に留まり、大差はない。否定的評価に関しては資格の種類と大学教育のマッチングの問題等も関与しているものと考えられる。



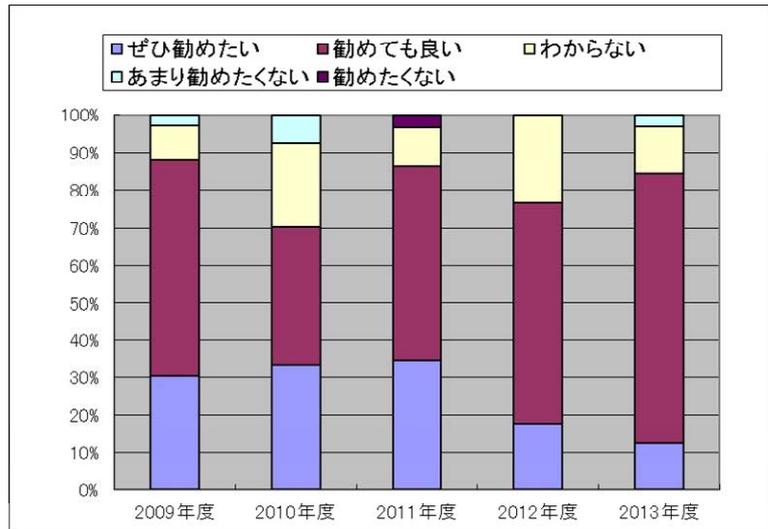
(7) あなたは、九州工業大学工学部を卒業してよかったと思いますか？

2013年度においては「とても良かった」「良かった」の肯定的評価が依然90%以上であるものの、「わからない」の中立的評価をする割合も5%程度みられる。全体的にはほとんどの卒業生が今の仕事を続けていく上で、本学で受けた教育の成果を肯定的に考えている。



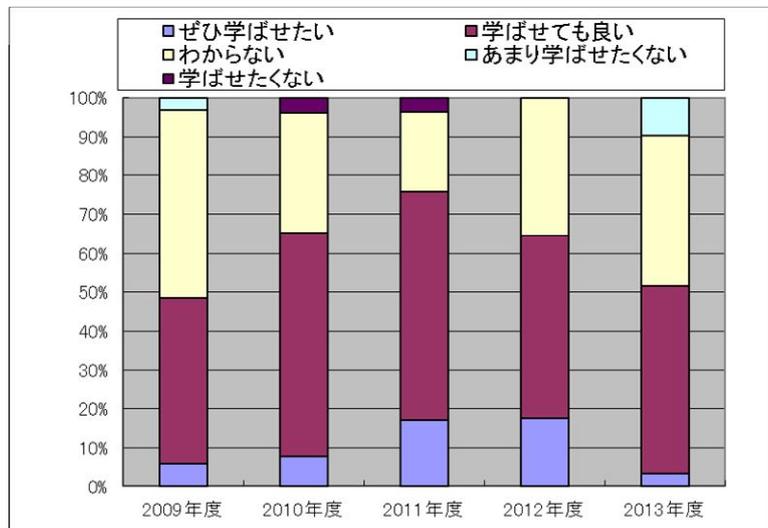
(8) あなたは、九州工業大学工学部を魅力ある学部として後輩に勧めたいと思いますか？

2013年度においては、「ぜひ勧めたい」、「勧めても良い」の肯定的評価の割合が2012年度の約10%程度に増加している。いずれにおいても、九州工業大学工学部を魅力ある学部として後輩に勧めたいと思うように更なる努力が必要であろう。



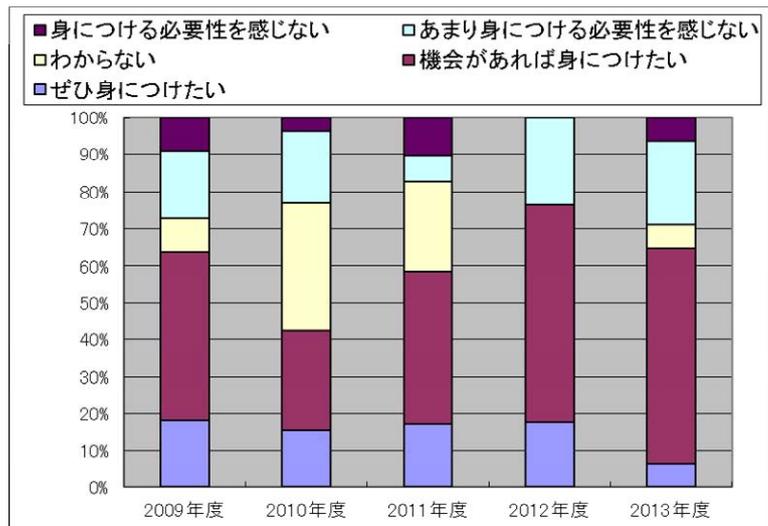
(9) あなたは、将来、子供ができれば、九州工業大学に学ばせたいと思いますか？

2013年においては、「ぜひ学ばせたい」、「学ばせても良い」の割合が50%に達している。今後も更なるこの流れを継承し、より魅力ある大学にする努力が必要である。



(10) あなたは、更に高度な学力(修士、博士)を身につけたいと思いますか？

2013年度は2012年と比較して、高度な専門性の学力習得に肯定的評価をするものが10%低下している。「わからない」と回答した割合は20%近く増加している。かなりの数の学生がその必要性に迷っていることは明らかである。



2. あなたが九州工業大学 工学部 に在学して良かった点がありましたらご記入下さい。

九州工業大学で学んだことが十分に職域において貢献している。特に研究室に入ってからの研究と全体的教育によって習得したことが有効であったと考えられる。専門教育やその教育レベルの高さについての満足度は高く、研究指導では学術面の指導のみならずサークルや共同研究を通じての有意義な人的交流も特筆されている。

- ・ 2駅で小倉の街に出られるので都会的だった。女性が少ないので少ない中で仲良くなれ、深い付き合いが出来た
- ・ 多くの実験ができたこと、社会に出た時、物事を考えることが重要だと思います。実験を通して考え方を学びました
- ・ 九工大卒のブランド力はある
- ・ 組み込み技術を知り、少し基礎を身に付けられたこと。1年の時に外国の人(先生)と英語で話して、少し意思疎通がとれた実績を作れたこと
- ・ 講義などが厳しく、身につくまでしっかりと勉強できた点。多くの奇人、変人(趣味人)がいて、多彩な人と友になれた点
- ・ コンクリートの現場試験を実際にできてよかった。もっと回数を増やしてもいいと思う。実践的な研究内容が多かったのでよかった
- ・ 様々な先生方の協力もあり、就職活動がスムーズにできたこと
- ・ 実際に職場で仕事をするに当たって、特別にこのようなことをおしえてもらっていたら就職後すぐに理解できていたと言えるような講義は少ないのですが、製造業(IC 等)という業種の中で、半導体、LED 等の知識は貴重なものでした
- ・ 専門性の高い授業、研究室での実験、活発なサークル活動
- ・ 専門性の高い知識が身についた
- ・ 専門的な教育(特に電力に関して)が充実している
- ・ たくさんの人と触れ合い知人が増えた
- ・ 他大学の生徒と比較しても十分な学力レベルは得られていると思う
- ・ 人間関係の構築
- ・ 幅広い分野について学べた
- ・ 明専会を含めた就職支援が充実しており、同年代の他大学学生と比べると比較的就職活動がスムーズに進んだ、また、社内でも卒業生同士のつながりがあり、交友関係を広げる1つの機会となる
- ・ 良い友人に恵まれたこと

3. あなたが九州工業大学 工学部 に在学して不満を感じた点、こう改善すべきだと感じた(例えばこういった技術(科目)を教えてほしかった)点がありましたらご記入ください。

学部の教育の目的や課程と日常の会社業務遂行に必要なとされる能力や資格の差異については本人の意識も截然としていないため、アンケートには「不満」として表れてしまったように見受けられる。特に卒業後の業務内容との関係で一般教育や専門科目に対する要望が示されている傾向にあり、そのため実践的教育を望む声が多い。大学教育における論理的思考能力の育成という基本的課題との調和を図りながら、英語教育、プログラミング言語、CAD等の科目のより一層の充実が求められている。

- ・ 2年次のコース分けの時に希望コースに行けず現在の仕事に知識が活かせていない
- ・ CADソフトを用いた製図の授業。選択科目に手書きの製図の授業はあったが実際、現代では実践的でないと感じ

で選択を止めた。他大学より入社した同期はCADの授業があり入社当初より難なく使いこなせていたのでぜひ本校でも取り入れるべきと感じる

- ・ CADの操作をもう少し学びたかった。研究室を単位次第で早めに決め、研究を長くやりたかった。
- ・ 英語の重要性が年々高ま亭ますので在学中の間に TOEIC の受験を必須にした方が良いと思います。後輩たちが社会に出た時苦勞しないよう制度を考えてみてください
- ・ 学部生の就職活動サポートのなさにびっくりした。研究室の配属が遅すぎる
- ・ 希望する研究室に進めなかった点。(自分よりも成績の悪い人たちがその研究室に進んだ)
- ・ 教授によっては就職活動よりも研究を重視すべきとの考え方を持つ方も居た。その考え方は改めるべきだと感じました。
- ・ 講義の選択肢がほしかった。
- ・ サーバやルータ、FW等の仮想化に関する教育を広く取り入れること。
- ・ 就職して、英語力の必要性を感じました、また入社直後に TOEIC を受けさせる会社も多いです。1, 2回生だけでなく、3, 4回生にも英語の講義があればよかったです。また、就職する際の情報が少ない為、学内ネットワークに就職に関する情報(卒業生の終章先、九州の主な会社等)を載せると、就職に関して興味がわくのではないのでしょうか
- ・ 制御工学コースでは、プログラミング系の授業が増える良い。
- ・ 制御ソフトやプログラミングを用いた実験
- ・ 製図の授業の時に CAD を教えてほしかった
- ・ ゼネコンを目指すにあたって仕事でよく技術を学びたかった、具体的には CAD、測量(光波、レベル)、座標計算、型枠構造計算、土量計算 etc..高専卒の方が詳しくあった…。紙の製図、物理の実験はナンセンス。
- ・ 不満はありませんが、個人的にはものづくりの実習などの授業を増やしてほしいと思った。学科によっても内容は様々に異なってくると思いますが、ものづくりの学校だから、まだまだ増やすと色々な興味がわいてくると思います。(十分他の学校と比べても多いい方だと思いますが)実際に行うのと、机上で考えるだけとは、全く違うと思います。
- ・ 社会に出て役立つ知識を全く習得していなかった。後悔はしていないが、大学で学んだ意味はあったかな、ふと感じることがある。もっと学習内容が何につながるのかを理解しながら、理数系の教育は受講する必要がある。その必要性を伝えて欲しい。また将来に就職したい業界を決めている人にはその業界での知識／専門性を学ばせてほしい。
単位取得に必死で、とりあえず受講しなきゃいけない講義が多かった。
また、教授達が一度社会に出て一般企業で働いて教授になっている方達が少ないように感じた。なので「学問」としての講義に傾いていたと思う。
もっと社会に出た人から学ぶと上述したように業界での知識も教えてもらえたのではないかと思う

4. 全体としての傾向

回答のあった卒業生は31名(回答率35.2%)であった。問2の「在学して良かった点」と問3の「不満を感じた点」で相反する形の回答が散見され、各人の在学中や就職後の充実感・手応えと言ったものが多様であること、また卒業生の向上心が高いことを反映している。

学部教育と大学院前期、そして大学院後期の教育の目的と実社会の業務遂行における能力・資格の差

異が本人にも截然と意識されていないためアンケートには「不満」として表現されてしまったような部分が見受けられる。

大学教育における論理的思考能力の育成という基本的課題との調和を図りながら、英語教育、実験・実習、プログラミング、プレゼンテーションなど実践的科目のより一層の充実が求められている。

2. 6 教育達成度評価アンケート：修了生 (2011年3月以前修了生)

※アンケート実施年月日 平成26年7月15日

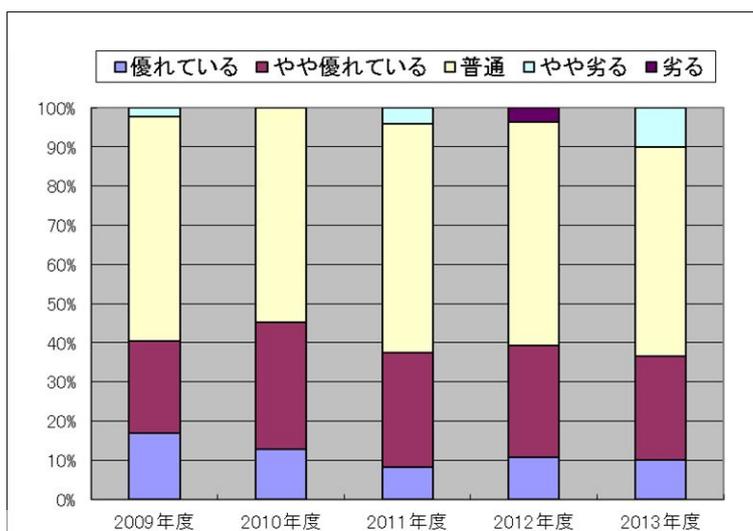
※アンケート回収率

| 配付枚数 | 回収枚数 |
|------|------|
| 135名 | 30名 |

1. 教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

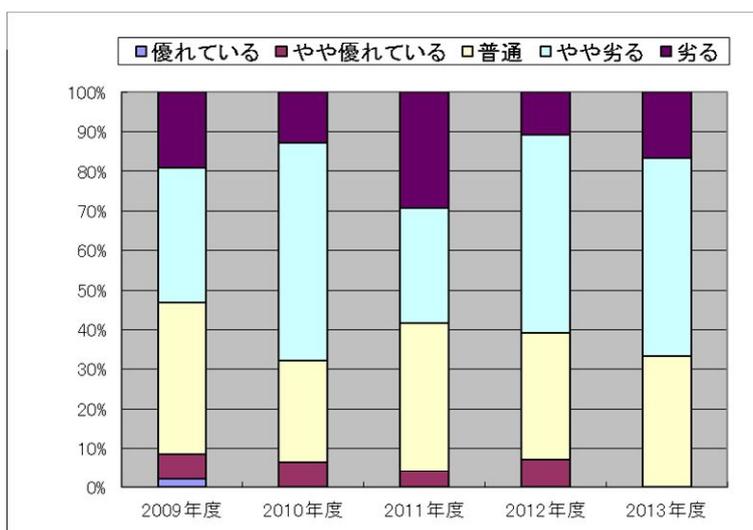
(1) あなたが受けた教養教育のレベル

2010年度は「優れている」と「やや優れている」の割合が2009年度より微増している。教養教育のレベルについては肯定的に評価されている。しかし、2011年度と2012年度は肯定的に評価している割合が40%に減少している。更に、2013年度には40%を割り込んでいる



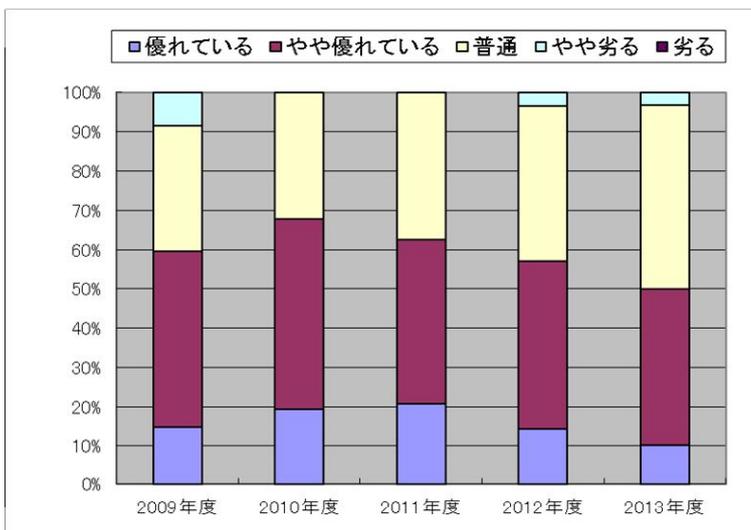
(2) あなたが受けた語学（特に英語）教育のレベル

英語等の語学教育については、現状の批判的評価が2009年度より見てみると次第に減少したが、2012年度は幾分増加した。しかし、中庸的評価も減少し、肯定的評価も増加している。しかし、2013年度には批判的評価が70%を超えている。今後も、英語教育を改善する必要がある。



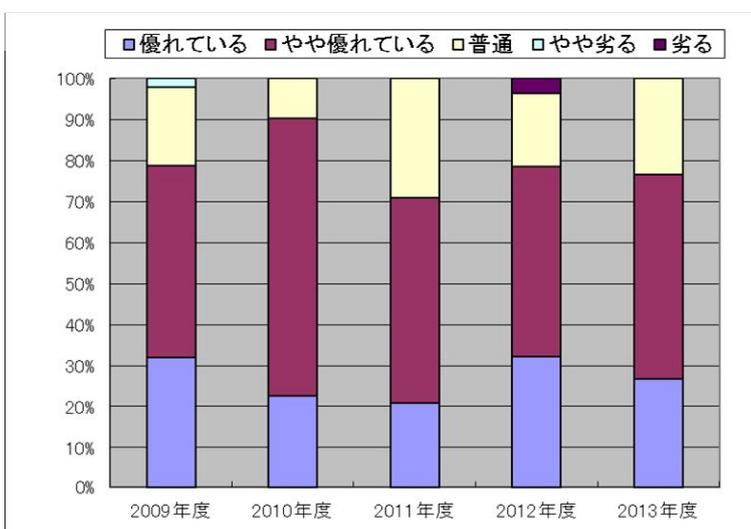
(3) あなたが受けた理数系教育のレベル

理数系の教育レベルについては、肯定的評価が50%以上であり、良い評価を得ている。2009年度に10%程度あった「やや劣る」は2010年度と2011年度においては消えており、改善が進んでいることがわかる。しかし、2012年度には否定的評価も5%ほどみられ、また、肯定的評価が2010年度より漸次的に減少している。



(4) あなたが受けた専門教育のレベル

専門教育のレベルについては、各年度肯定的評価が80%程度あり、現在の教育内容が高く評価されていると判断できる。全体的にみても否定的評価はほとんどみられない。



(5) あなたは入社後資格を取得しましたか？

○入社後取得した資格（具体的に）

エネルギー管理士

危険物取扱乙種2類、第一種衛生管理者

危険物取扱甲種

技術士補

基本情報技術者

高圧ガス製造保安責任者、乙種機械

コンクリート技士

車両系建設機械運転

消防設備士甲1種

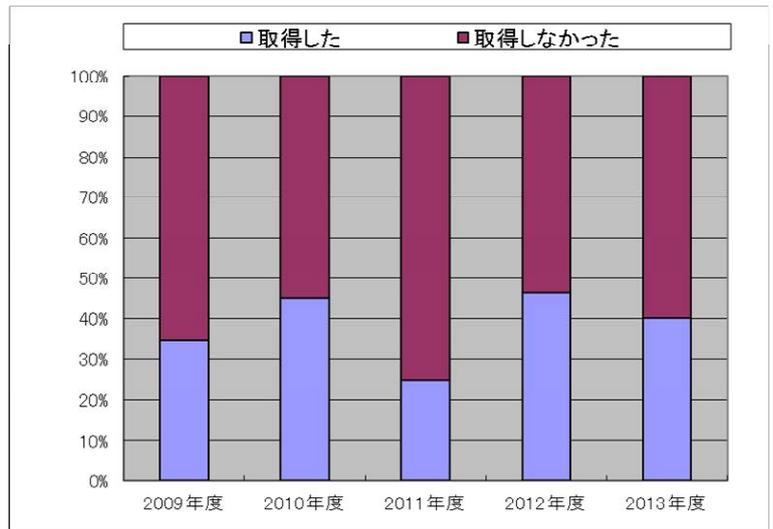
玉掛け、床土クレーン

危険物取扱甲種、公害防止水質1種

技術士補、機械設計技術者3級、クレーンデ

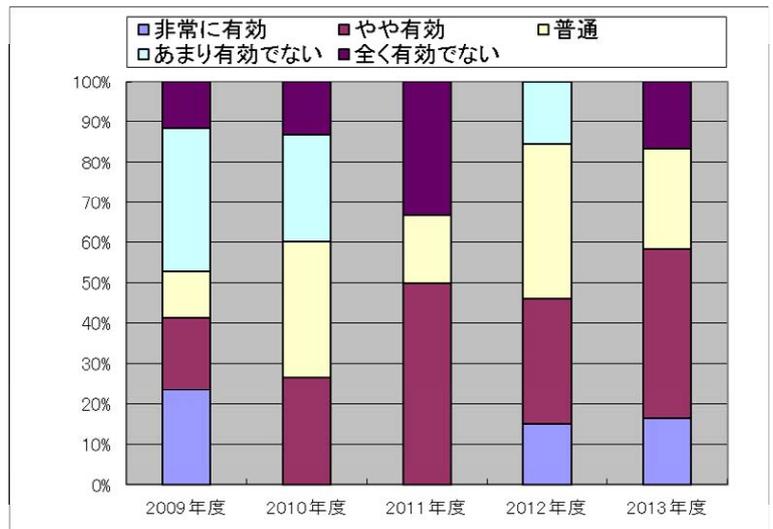
リック運転士、技能士2級

入社後に何らかの資格を取得した者の比率が2012年度と同程度である。



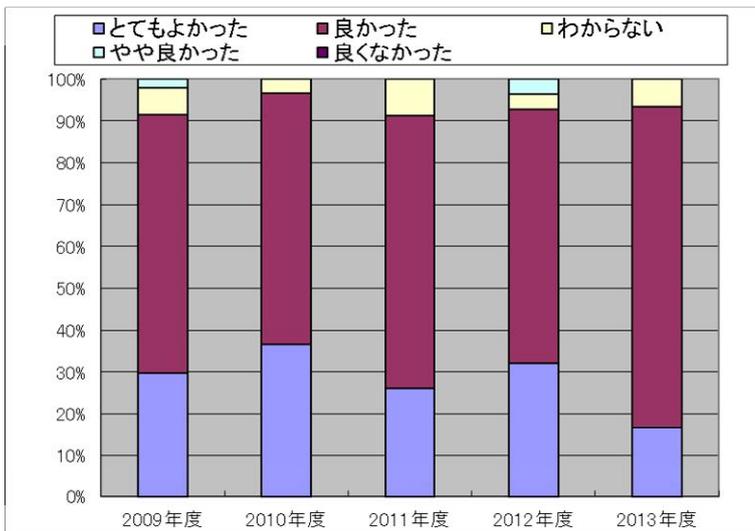
(6) 資格を取得した方にお尋ねします。本学の教育は資格取得に有効でしたか？

資格取得に対する本学の教育を肯定的に評価する者の割合が、2013年度は最も増加している。「普通」以下の評価をする者の数が増えた。2012と2013年年度は2011年度と比較して強く肯定した者が15%増加した。更なる今後の調査が必要である。



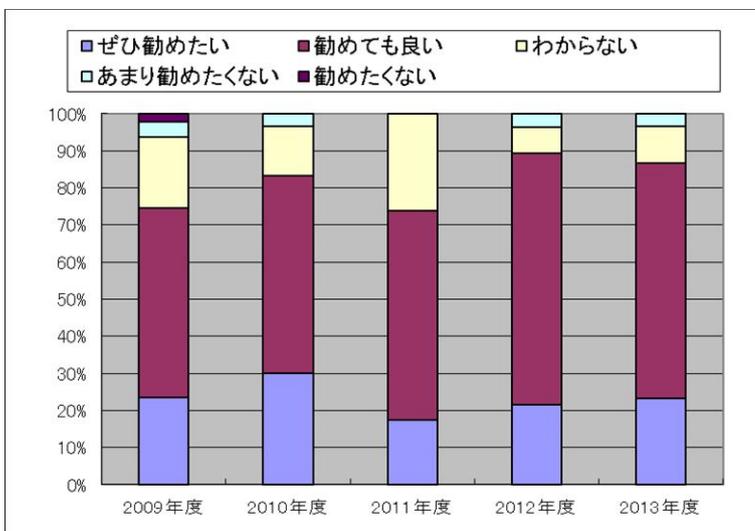
(7) あなたは、九州工業大学大学院工学研究科（博士前期又は後期課程）を修了してよかったと思いますか？

工学研究科の教育のあり方としては、2013年度も、これまで同様、大多数から肯定的評価を受けていると判断できる。



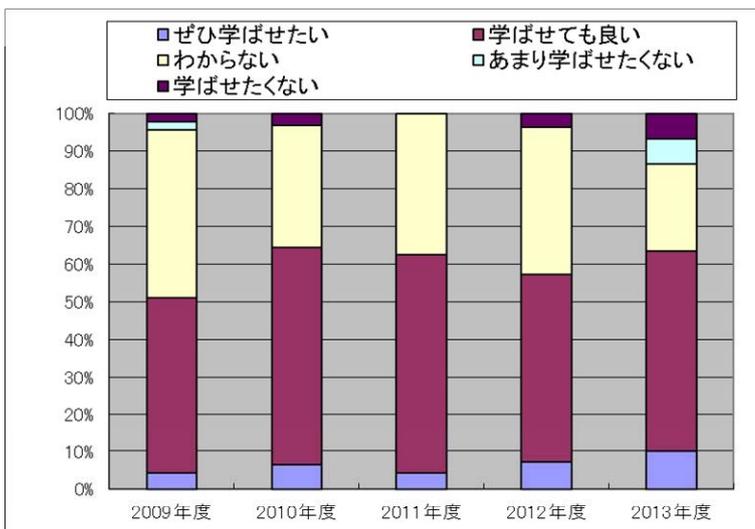
(8) あなたは、九州工業大学大学院工学研究科を魅力ある研究科として後輩に勧めたいと思いますか？

2011年度から2012と2013年度において「ぜひ勧めたい」が10%程度増加した。肯定的評価が90%程度である。今後は「わからない」の中立的評価の比率を減少していく必要がある。



(9) あなたは将来、子供ができれば、九州工業大学に学ばせたいと思いますか？

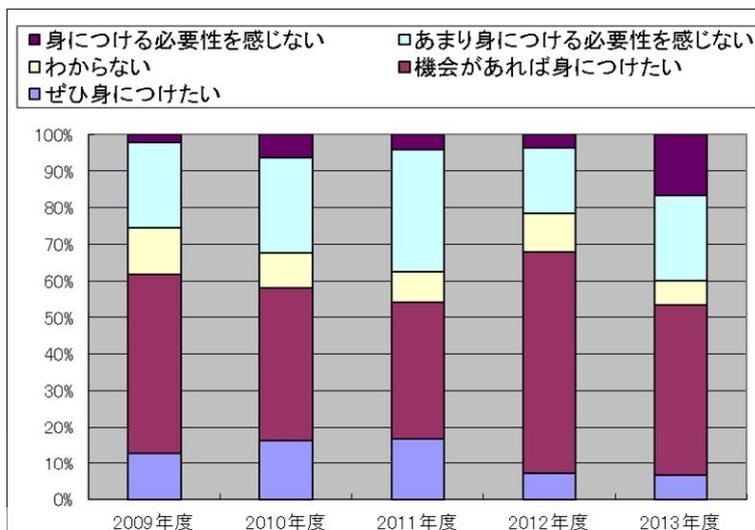
2013度の傾向を見ると、「ぜひ学ばせたい」と「学ばせても良い」が合計で60%程度であり、2012年と同様、高い評価を得ている。しかし依然「わからない」以下の回答も多い。より魅力ある大学にする努力が必要である。



(10) あなたは、更に高度な学力（博士）を身につけたいと思いますか？

「ぜひ身につけたい」と「機会があれば身につけたい」の肯定的評価は70%近傍であり、これまでで最も高い値を得た。

2012年度と比較して10%低下している。一方、「あまり身につける必要性を感じない」と「身につける必要性を感じない」は2012年度と比較して増加の傾向にある。高度な学力を身につける意義を十分に認識していない傾向が伺われる。



2. あなたが、九州工業大学大学院工学研究科に在学して良かった点がありましたらご記入ください。

大学院に在籍して良かった点として、研究指導を通しての教員とのコミュニケーション、在籍中に学んだ専門知識、研究室での先輩、同輩、後輩との交流や深いつながり、学会発表、産学連携などを挙げている。このような評価は昨年と同様であり、今後もその維持と一層の高度化を図りたい。

- ・ ARLISS(CanSat)に参加できたこと、KITCUTS(鳥人間)に関われたこと、好きな翼の研究を行え、風洞実験を行えたこと。
- ・ 各業界で活躍されている先輩が多いので、顔を思ってもらいやすく、実力を認めてもらいやすい。高度な技術が学べる
- ・ 学会など発表の機会が多かったため資料作り、プレゼンテーションの力は身についたと感じる。土木建築関連の仕事に携わっているため、同期の友人と情報交換ができる
- ・ 教育内容では無く、研究に対するストイックさ、また学生に与える責任は、学生時には苦痛であったが、その経験があれば、どんな環境・内容であっても忍耐強く働いていける
- ・ 金属系の学科を持つ大学の中でも、より専門的に学ぶことができた。また現在の職務で知識を生かすことができた
- ・ 計算力と問題解決能力が身についた。難しい設計を数式化し原因を解明、問題点を合理的に解消することができている。
- ・ 研究室での研究とコアタイムに合わせた生活
- ・ 研究室に配属されたjからの学習内容は非常に充実していた。国際学会やインターンシップに参加する機会があり、視野を広げることができた。
- ・ 研究発表の場がしっかり設けられているところ
- ・ 工学の基礎を土木に関して一通り学ぶことができた
- ・ 様々な企業とつながりを持っている点
- ・ 仕事に必要な知識を大学で学べた点
- ・ 指導教官の方には、研究、進路、プライベートのこと等親身になって対応していただきました。
- ・ 自発的な研究が出来たこと。教授から手厚いフォローをしていただいたこと
- ・ 諸先輩方とつながりがあり、様々なことで手助けがあること。研究室や授業を通じて学んだ知識・実験方法が仕事に役立っていることが良かった点です

- ・ 比較的楽しく学生生活を送らせていただいたと思います。
- ・ 広い教養(土木だけでなく、環境や景観など)を身に付けることができた
- ・ 歴代の先輩方の功績により就職に強いこと。一通りの基礎学力は確実に習得できること
- ・ 私の研究はプログラミングを用いたものであったが、そこで身に付けた研究を進めていく力は就職してからのシステムの設計開発でも役立っている

3. あなたが、九州工業大学大学院工学研究科に在学して不満を感じた点、こう改善すべきだと感じた(例えばこういった技術(科目)を教えてほしかった)点がありましたらご記入ください。

英語教育の必要性を求める意見と、より実践的な専門科目や社会的に必要とされる教育やスキルを求める声が多い。今後は高度な専門教育と同時に企業等で求められるビジネスマインドを涵養するような教育への対応を考える必要がある。

- ・ C言語等の情報系の科目をもう少し多くしてほしい。仕事とPCが切り離せないのも、技術不足を痛感している。
- ・ 英語力が向上するような講義を増やした方がよい。外国人講師の英語授業は高校生レベルだと思う。
- ・ 教授との意見交換は頻繁に行っていたが、同レベル(同期、先輩、後輩など)の者どうしでの意見交換などは機会が少なかった。社会にでできた際に、同じ立場で意見を言い合える練習が足りないと感じるときがある。
- ・ 具体的な設計、施工方法について
- ・ 計測技術
- ・ 建築コースもできていると思うので、設備に関する科目もべるとよい。(自分がサブコンに入社したため)
- ・ 工作機械をもっと自由に使いやすい環境にしてほしいです
- ・ 語学力が向上する教育体制にすべきだ
- ・ 語学力の向上に努めるべきだった
- ・ 専門科目に関しては、実際に会社・工場で使われている技術等に関してより深く知ることができたらと思います。また、学部の実験でありましたものづくり実習のような品物を作る実習が増えると興味や面白さ・知識の助けになると思います。英語教育は、話す・聞く力を重点して教育があれば良かったと思います
- ・ 他の専攻の基本的な知識が得られる講義を受けてみたかったです
- ・ 鉄道関係の業種ですので、鉄道土木の講義(せめて広い意味での交通関係の土木)があれば良いかなと思いました
- ・ 土留めに関する授業が少なかったように思えます。推進工法(計算等)を教えてほしいです。
- ・ とにかく英語力が低すぎます。
- ・ 欲を出せば、実業務に沿った授業内容があると、入社後に役立つ知識を得られると思います。
- ・ 留学制度、教員免許などをもっと充実してほしい。生物系の科目を増やしても良い

4. 全体としての傾向

回答者30名、回答率22%で昨年度より回答率がやや上昇しているものの、昨年と同様に修了生の工学研究科に対する評価はかなり高く、研究室での生活が充実したものであったことがわかる。また、専門性、プレゼンテーション能力、問題解決能力の向上にも十分な満足度が得られているものと判断される。しかし、英語教育については1.(2)にあるように、依然修了生は不足感を感じており、大学院の英語教育のあり方を議論し、早急に対策を施す必要がある。

3 大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営

3. 1 大学院工学研究院・工学府・工学部の組織図

平成25年度の管理運営組織並びに意志決定体制を、図3. 1. 1及び図3. 1. 2に示す。

図3. 1. 1 組織図

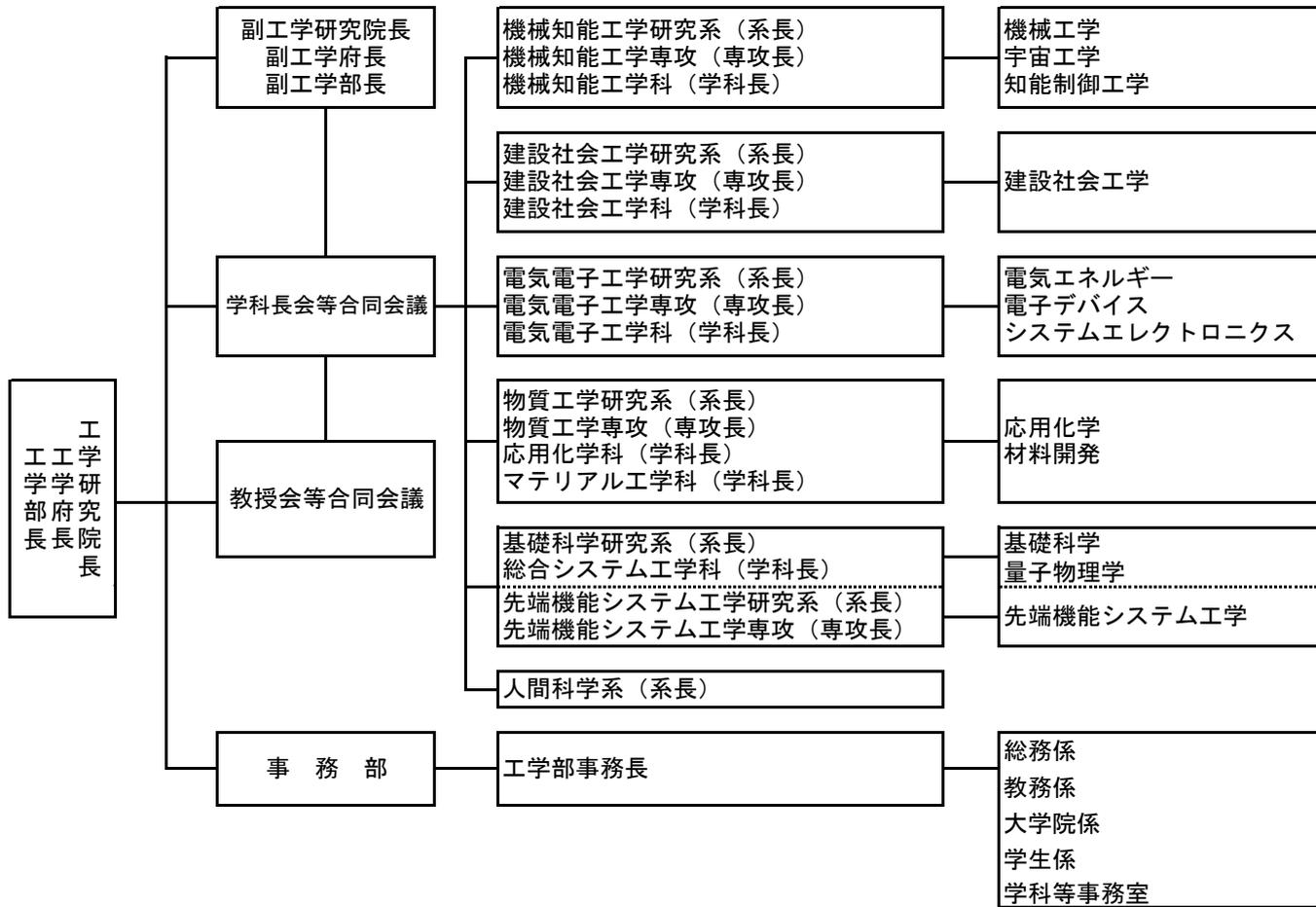
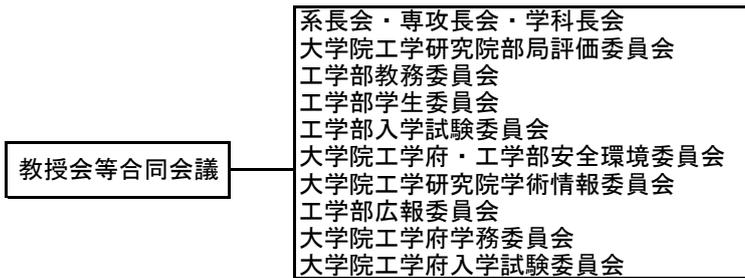


図3. 1. 2 各種委員会



3. 2. 1 大学院工学研究院部局評価委員会

1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 平成24年度卒業生、修了生アンケートの解析・まとめ
- (2) 平成24年度企業アンケートの実施と解析・まとめ
- (4) 「現状と課題」平成24年度版の発行

2. 今年度採択した事項

- (1) 各種アンケートの結果をまとめ、「現状と課題（平成24年度版）」に掲載した。
- (2) 平成25年度卒業生・修了生アンケート内容を検討した。
- (3) 平成25年度企業アンケート内容および実施方法を検討した。

3. 残された課題または将来解決すべき事項

- (1) 各種アンケート結果の効果的な活用

現状を把握しその評価結果を分析・記録し続けることにより継続的に改善を行って行くことは極めて重要なことである。そのために大学における活動の実情のデータに加え、修了・卒業を控えた学生、修了・卒業した学生、修了生・卒業生を受け入れた企業に対するアンケートも実施し、その結果を分析している。これらの記録や分析結果は各種委員会や教員にフィードバックし、より大学の教育・研究の改善に繋げるべく利用される方法を考える必要がある。

4. 委員会の議論に使用された主な資料

- ・工学研究院部局評価委員会内規
- ・教育達成度評価アンケート実施のための情報提供依頼文書
- ・雇用主アンケート
- ・修了・卒業後3年が経過した修了生・卒業生に対するアンケート
- ・平成24年度に実施する教育職員評価の方針に対する意見について
- ・企業アンケート分析結果について
- ・卒業生・修了生アンケートについて
- ・「現状と課題」24年度版について

5. 工学部の現状に関する意見または改善に関する提言

上記3.(1)(2)と同様。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- (1) 各種アンケート内容の見直しの効果的な活用

卒業生、修了生、企業に対して実施しているアンケートは、過年度との比較が重要であるため長年、同一の内容のまま維持されて来たが、時代の要請の変化に適合しているかその内容を点検すべき時期に来ていると思われる。比較は引き続き必要と思われるので、それを維持しつつ現況に即した内容への変更を議論し始める必要があると思われる。また、得られたアンケートの結果をうけ、より改善に繋げるための仕組み作りについても検討が望まれる。

3. 2. 2 工学部教務委員会

1. 今年度取り組んだ課題

(1) 教育関係

● 中期計画・中期目標

- ①平成25年度中期目標・中期計画について
- ②平成26年度年度計画について
- ③部局間相互評価について

● 学部教育改革

- ①平成24年度・学部教育WG検討結果の報告
- ②工学部1年時入門科目の導入
- ③他分野習得科目の導入
- ④工学部3年次（4年次）PBL科目の導入
- ⑤3年次（4年次）専門英語科目の導入
- ⑥「工学と環境」および「工学倫理・安全工学」の選択必修化に伴う履修対応
- ⑦TOEFL講座の開設について
- ⑧TOEFL一斉試験の実施（1年次と3年次）
- ⑨2、3年次向けオリエンテーションの実施

● 成績

- ①卒業査定について
- ②進級査定について
- ③新しい学生の成績評価と適用基準の適用（より多様化した成績評価の適用）

● 規則等

- ①学部教育改革などに伴う工学部学修細則の一部改正について
- ②平成26年度工学部研究生等事務手続き要領について

● 単位認定

- ①編入生の単位認定について
- ②入学前の既修得単位の認定について
- ③オールド・ドミニオン大学派遣学生の単位認定について
- ④eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位認定について
- ⑤外国語能力試験の成績に基づく単位認定について

● 国際交流協定校

- ①平成25年度オールド・ドミニオン大学語学研修派遣学生について
- ②昌原大学校との短期プログラム実施について
- ③九州工業大学と昌原大学校との短期プログラムに関する要項の改正について
- ④日本学生支援機構（JASSO）平成25年度留学生交流支援制度（短期派遣）
採択プログラム学生派遣について（韓国・昌原大学校、ドイツ・クラウスタール大学、
ノルウェー・テレマーク大学）

- 学年暦
 - ① 入学試験の実施に伴う臨時休講措置について
 - ② 新入生研修に伴う休講措置について
 - ③ 授業調整期間・再授業再試期間について
 - ④ 学期末試験に係る授業日数について
 - ⑤ 平成26年度学生健康診断日程案について
 - ⑥ 平成27年度学年歴（入学式の日程）について
- コース分け
 - ① 平成25年度コース分けスケジュールについて
 - ② コース志望状況について
 - ③ 振り分け結果
- 入学前教育
 - ① 推薦入試I合格者の入学前教育について
 - ② 推薦入試I合格者ガイダンスの実施について
- 学修自己評価システム
 - ① 学修ポートフォリオシステム専門部会構成員について
 - ② 学修成果自己評価システムおよび学習成果自己評価シートについて
 - ③ 学修自己評価システムの機能改善について
 - ④ 学修自己評価システムの利用促進について
- 期末試験
 - ① 期末試験・再試験の実施について
 - ② 成績評価の異議申し立てについて
- 平成26年度
 - ① 平成26年度時間割の作成について
 - ② 平成26年度非常勤講師任用予定時間数について
 - ③ 平成26年度入学生の指導教員の割り振りについて
 - ④ 平成26年度オリエンテーションスケジュールについて
 - ⑤ 平成26年度学年暦について
 - ⑥ 平成26年度学生便覧等作成スケジュールについて
- その他
 - ① 講義ナンバリング化作業について
 - ② シラバス記載要領の変更（授業外学習に取り組むための指針などの明示）
 - ③ 学部教育改革に伴う新設科目などのシラバス記載について
 - ④ 外国人研究生の受入れ、および外国人研究生の受入れ期間変更について
 - ⑤ 平成25年度後期の聴講生・科目等履修生の受入れについて
 - ⑥ 進級要件および卒業要件の見直しについて

(2) 授業関係

- ①工学部1年時入門科目の導入
- ②他分野習得科目の導入
- ③工学部3年次(4年次)PBL科目の導入
- ④3年次(4年次)専門英語科目の導入
- ⑤「工学と環境」および「工学倫理・安全工学」の選択必修化に伴う履修対応
- ⑥TOEFL講座の開設について
- ⑦TOEFL一斉試験の実施(1年次と3年次)
- ⑧2、3年次向けオリエンテーションの実施
- ⑨工学部基礎共通実験実習経費について
- ⑩大学院入門科目の受講申請状況について
- ⑪「図書館情報リテラシー」の実施報告について
- ⑫読替科目一覧表について
- ⑬生命体工学研究科「生命体工学入門」の開設について

(3) 修学指導

●学籍

- ①平成25年9月30日に休学期間満了となる学生について
- ②平成26年3月31日に休学期間満了となる学生について
- ③連続する2年間で30単位を修得できない学生について
- ④平成26年度末で除籍になるおそれのある学生について
- ⑤除籍対象学生への通知等について
- ⑥授業料未納による除籍の取扱いについて

●通知

- ①全学生の保証人への成績郵送について
- ②1年次保証人への単位修得状況の通知について
- ③卒業・進級査定に関する学生通知について
- ④履修登録をしていない学生について

(4) その他

①6年一貫教育WGについて

ミッション再定義を踏まえた、大学改革案として「社会と協働する教育研究インタラクティブ化加速パッケージ」が文科省に提案された。その中で6年間一貫教育プログラムの検討が謳われており、それを実践するためのWGが組織され副委員長がメンバーに選出された。

②エンジニアリング・デザイン教育WGについて

本年度は、エンジニアリング・デザイン教育に対する意識統一を図るため、シラバスへの記載内容、ならびにFabPark(仮称)工場の整備について、検討を行った。

③アクティブ・ラーニング MILAiS での授業実施について

本年度は、特に課題解決能力を涵養する教育としての PBL 科目の学習効果を検証するため、アンケート（SEQ テスト）を実施した。

④ランゲッジ・ラウンジで学ぶ英語プレゼンテーションについて

2. 今年度採択した事項

(1) 教育関係

●中期計画・中期目標

①平成 25 年度中期目標・中期計画について

平成 25 年度計画を実施し、暫定評価および最終評価を行った。

②平成 26 年度年度計画について

平成 26 年度年度計画を策定した。

●学部教育改革

①学部教育改革について

平成 24 年度学部教育改革答申に基づき、教務委員会担当事項を確認し、以下の科目を開設することとした。これに伴いシラバスおよび工学部学修細則を一部改正した。

- ・ 入門科目
- ・ 他分野習得科目
- ・ 3 年次（4 年次）の PBL 科目
- ・ 3 年次（4 年次）専門英語の設置
- ・ 2、3 年次向けのオリエンテーションを実施した。

●成績

①卒業査定について

卒業査定を実施した。

②進級査定について

進級査定を実施した。

●単位認定

以下の単位について認定した

- ①編入生の単位認定
- ②オールド・ドミニオン大学派遣学生の単位認定
- ③e ラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位認定
- ④外国語能力試験の成績に基づく単位認定
- ⑤日本学生支援機構（JASSO）平成 25 年度留学生交流支援制度（短期派遣）採択プログラム学生派遣について単位認定した。

韓国・昌原大学校、ドイツ・クラウスタール大学およびノルウェー・テレマーク大学

●学年暦

以下の臨時休講措置、授業調整期間等を決定した。

- ①入学試験の実施に伴う臨時休講措置について
- ②新入生研修に伴う休講措置について

③授業調整期間・再授業再試期間について

④学期末試験に係る授業日数について

●コース分け

機械知能工学科2年次、建設社会工学科2年次および3年次、電気電子工学科2年次のコース分けを実施・決定した。

●入学前教育

推薦入試I合格者の入学前教育として、合格者ガイダンスおよび通信教材による教育プログラムを決定・実施した。

●期末試験

期末試験・再試験の実施および成績評価の異議申立について、審議し承認した。

●平成26年度

①平成26年度時間割の作成について

平成26年度時間割を作成した。

②平成26年度非常勤講師任用予定時間数について

平成26年度非常勤講師任用予定時間数を審議、決定した。

③平成26年度入学生の指導教員の割り振りについて

平成26年度入学生の指導教員の割り振り方法を審議、決定した。

④平成26年度オリエンテーションスケジュールについて

平成26年度オリエンテーションスケジュールを決定した。

⑤平成26年度学年暦について

平成26年度学年暦を決定した。

⑥平成26年度学生便覧等作成スケジュールについて

平成26年度学生便覧等作成スケジュールを決定した。

(2) 授業関係

①「工学と環境」、「工学倫理・安全工学」の開講について

平成23年度入学生から、工学総合科目「工学と環境」「工学倫理・安全工学」が選択必修となっていることから、これら科目の開講要領を決定し、シラバスを見直した。また、工学部学修細則を一部改正した。

② 工学部教育改革科目の開講について

平成24年度学部教育改革答申に基づき、教務委員会担当事項を確認し、以下の科目を開設することとした。これに伴いシラバスおよび工学部学修細則を一部改正した。

- ・入門科目
- ・他分野習得科目
- ・3年次（4年次）のPBL科目
- ・3年次（4年次）専門英語

②工学部基礎共通実験実習経費について

工学部基礎共通実験実習経費について、平成25年度案を作成し、承認した。

③大学院入門科目の受講申請状況について

大学院入門科目受講の申請を審議し、承認した。

④読替科目一覧表について

読替科目の確認を行った。

⑤TOEFLについて

TOEFL講座の開講し、TOEFL一斉試験を実施した。（1年次と3年次）

⑥講義ナンバリング化作業について

⑦生命体工学研究科「生命体工学入門」の開設について

(3) 修学指導

●学籍

以下について、保証人宛に通知文書を郵送した

- ・平成25年9月30日に休学期間満了となる学生について
- ・平成26年3月31日に休学期間満了となる学生について
- ・連続する2年間で30単位を修得できない学生について
- ・平成25年度末で除籍になるおそれのある学生について
- ・除籍対象学生への該当通知
- ・全学生の保証人への成績郵送について
- ・1年次保証人への単位修得状況の通知について
- ・履修登録をしていない学生について

3. 残された課題または将来解決すべき事項

(1) アクティブ・ラーニング MILAiS について

- ・課題解決能力を涵養する教育としてのPBL科目の学習効果を検証し、問題点等あれば改善を行い、継続して推進する。
- ・本年度は課題解決能力を涵養する教育としてのPBL科目の学習効果を検証するため、アンケート（SEQテスト）を実施した。平成26年度は、そのアンケート結果などに基づいてPBL教育の取り組みにフィードバックさせる。

(2) エンジニアリング・デザイン教育について

- ・平成25年度特別経費（プロジェクト分）—高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実に概算要求した結果、事業名：「エンジニアリング・デザイン教育強化のためのカリキュラムおよび環境の整備」として採択されたことを受け、工学部教務委員会にて、エンジニアリング・デザイン教育WGを組織した。WGでは、エンジニアリング・デザイン教育に対する意識統一を図るため、シラバスへの記載、およびFabPark（仮称）工房の整備について、検討を行った。
- ・教務委員会にて審議の結果、エンジニアリング・デザインについてシラバスに掲載することは、時期尚早との意見があり、平成26年度シラバスに掲載することは見送り、今後引き続き検討していくこととした。

- ・「FabPark（仮称）工房の授業での活用希望調査について」を授業担当教員に周知した。
3月末に、機器の講習会を実施予定である。

(3) 「工学倫理・安全工学」の開講について

平成26年度は以下の要領で開講されるので、準備が必要である。

なお、応化の学生は、「工学倫理・安全工学A、B、C」の全ての科目を受講できる。

機械、建社、マテリアルの学生は工学倫理・安全工学Aを、電気電子の学生は工学倫理・安全工学Bを、総合システムの学生は工学倫理・安全工学Cを受講する。

- ・工学倫理・安全工学A

開講時期：後期金曜5限

対象学科：総合システム以外

担当教員：非常勤講師＋FD室教員

- ・工学倫理・安全工学B

開講時期：後期金曜5限

対象学科：総合システム

担当教員：工学倫理（FD室教員）、安全工学（総シス教員）

(4) 「工学と環境」

平成26年度から、応用化学および非常勤講師により2クラス開講する。

応用化学の学生はこれを受講できるが、応用化学科以外の学生の受講にあたっては制限が設けられる。

(5) 工学部教育改革科目について

以下の科目について、順次開講できるように準備を進める。

- ・入門科目
- ・他分野習得科目
- ・3年次（4年次）のPBL科目
- ・3年次（4年次）の専門英語

(6) 生命体工学専攻「生命体工学入門」

「生命体工学入門」の開講要領について教務委員会で引き続き議論する。

(7) 学修自己評価システム

学修における自己管理意識を高めるため、学生による達成度評価を実施することを目的として、学修自己評価システムの利用を推進した。

さらに優れた自己学修管理能力の向上を目指して、学修自己評価システムの強化を検討する。

各部局での運用における問題点を検証する。

(8) グローバル・エンジニアリング教育およびグローバル・コンピテンシー教育の促進

海外協定校などへの学生派遣を促進するとともに、受入れのための問題点を検討し、解決のための諸施策を具体化する必要がある。

(9) 基礎共通科目（工学基礎科目）の内容と評価の統一

基礎共通科目（工学基礎科目）の内容と評価の統一について、PDCAサイクルの確立と運用が課題であると認識されている。要すれば、WGを作り、問題点を検討し、解決のための諸施策を具体化する必要がある。

(10) その他

- ①教育の質保証について、要すればWGを作り引き続き検討する。
- ②第15回目授業のあり方について、要すればWGを作り引き続き検討する。
- ③平成27年度の学年歴の実践について
平成27年度は、入学式がはじめて土曜日に実施予定である。
要すれば、入学式の前オリエンテーション実施の要否など学年歴について検討する。
- ④卒業・進級査定に関する学生通知要領について、要すれば検討する。

3. 2. 3 工学部学生委員会

1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 中期目標・中期計画の立案と実行
- (2) 全国学生相談会にて情報収集
- (3) 保健センターとの定期的意見交換
- (4) キャリアセンター長（オブザーバ参加）との意見交換（職活動に起因する学生のメンタル不調等について）
- (5) 学生危機管理に関わる工学部の連携状況の整理と改善策について
- (6) 鳳龍奨学賞を補完する工学部奨学賞の実施について
- (7) 工学部全体で教育に関わる会議にて学生委員会関連事項についての連携の必要性
- (8) 不正行為防止について
- (9) 工大祭への対応（企画段階でのアドバイスと実施時の巡回）
- (10) 新入生研修の実施日程及び研修資料策定に係る部局意見の検討
- (11) 学期初回授業における学生への注意喚起と資料の改変
- (12) 総合教育棟における自転車の迷惑駐輪防止策の実施
- (13) 日本学生支援機構奨学生の選考
- (14) 意見箱へ寄せられた学生からの意見への対応（武道場トレーニング室の設備補修に関する要望）
- (15) 課外活動団体への物品援助に係る団体選定の確認

2. 今年度採択した事項

- (1) 昨年度に制定した工学部奨学賞を実施し、69名の学生を表彰した。
- (2) 校内で自転車の迷惑駐輪が多いことから、特に人の通行に重大な支障を来している総合教育棟の内側について自転車進入禁止の看板を掲示し、迷惑駐輪を一掃した。
- (3) 今年度創設された工学部イングリッシュ・プレゼンテーション・コンテストに関し、副賞の内容等を決定した。
- (4) 定期試験にあたり、不正行為がいかにかんげすべき行為であるか等の事項を列挙した学生向け警告文を作成し、掲示板及びWeb上で周知した。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 学生のマナーアップに対する具体的な取り組みと駐輪場の整備要望の継続。
- (2) 抜本的な不正行為防止策の検討。
- (3) 発達障害、メンタル不調、引きこもり、自殺など学生を取り巻く今日的課題に、工学部内外の各部署と連携し、情報を共有する仕組みづくりについて継続して取り組む。

4. 委員会の議論に使われた資料

- ・九州工業大学中期目標・中期計画
- ・全国学生相談会報告書

5. 工学部・工学研究府の現状に関する意見、又は改善に関する提言

不断の注意喚起と教職員の協力にも関わらず、残念なことに試験における不正行為が、今年度は3件発生してしまった。平成23年度の後期から不正行為が発生しておらず、学生の間で、不正行為が見つかったときの結果（懲戒処分・単位取消等）を他人事のように考えてしまう風潮が醸成されていたのかもしれない。これは、不正行為を行った学生への事情聴取の際にも感じられたことである。今後は、新入生研修や年度初めの2・3年生向けオリエンテーション等の場で、不正行為を行うデメリット等について周知すること等、有効な対応策について議論し、制定していく必要がある。

また自転車の迷惑駐輪も、変わらず問題となっている。学生への注意喚起をしながら、駐輪場の確保（屋根付き、固定機付きなど）と学生に知らせる表示方法等についても議論し、業務分掌の明確化と実施の迅速化が求められている。

さらに今日的な課題である学生の発達障害、メンタル不調、引きこもり、自殺などに関し、各部署が連携し情報を共有するための組織化と対応策については、平成26年度から全学的組織として設置される「学生総合支援室」との連携や協働も含め、今まで以上に強力に取り組まなければならない。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- ・不正行為が今年度は3件発生した。監視体制が有効に機能している証拠とも言えるが、好ましくない事象であることは間違いのないため、引き続き、防止策の検討を行い、有効な対策を採る必要がある。
- ・総合教育棟における迷惑駐輪については、現在のところ1台も無い状態をキープできているが、4月に新入生が入ってから再度周知を行わなければ、従前の状態に戻ってしまう可能性もある。

3. 2. 4 工学部入学試験委員会

1. 今年度、本委員会が取り組んだ課題

- (1) 平成26年度工学部編入学試験実施について
- (2) 平成26年度工学部推薦入試Ⅰについて
- (3) 平成26年度推薦入試Ⅱ実施について
- (4) 平成26年度私費外国人留学生入試実施について
- (5) 平成26年度個別学力検査実施について
- (6) 平成26年度推薦入試Ⅱの合格判定基準について
- (7) 入試と一年次成績の分析について

2. 今年度、本委員会が採択し、実施した事項

通常の選考・審査，募集要項の作成については例年どおり実施した．ここでは，新たに実施した事項についてのみ記す．

- (1) 本年度入学者の工学部の入試状況を分析した結果を提示して、各学科に、入試区分ごとの定員の適正化の検討を依頼し、電気電子工学科とマテリアル工学科の定員の修正を実施した。
- (2) 推薦入試Ⅱの合否判定を円滑に行うために、過去5年間の前期入試と後期入試の合格者と不合格者のセンター得点とセンター試験の全国平均値との相関を調べ、参考資料を作成した。
- (3) 工学部の一つの学科の入試データ(センター試験、個別試験)と1年次の成績との相関を調べた結果、特に、目立った相関がないことがわかったが、入学直後のレポート(作文)の評価と成績には、緩やかであるが、相関があることがわかった。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 個別学力試験における英語の導入について
九州地区の他の国立大学の工学部が英語導入に進む中であって、本学のみが取り残された状態になっている。工学部単独で英語の導入に踏み切るべきだと思う。
- (2) 推薦入試のAO入試化
センター試験が、大きく変わろうとしている中、本学が実施している二つの推薦入試を精査して、AO入試の導入も考えるべき時だと思う。
- (3) 入試委員会の実施部会化。
入試委員会は、工学部アドミッションセンターとして、入試改革と募集活動を含めた課題を処理するセンター化をはかり、各入試の実施については、実施部会で従来の業務をすすめていくのが良いと考える。

4. 委員会の議論に使われた資料

- (1) 平成26年度推薦入試学生募集要項
- (2) 平成26年度帰国子女入試学生募集要項
- (3) 平成26年度一般入試合格者選考方法等
- (4) 平成25年度私費外国人留学生募集要項

5. 工学部の現状に関する意見、又は改善に関する提言

上記3で記述した。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

前年度の提言に関して、調査分析を行い、進むべき方向性を示した。

3. 2. 5 大学院工学府・工学部安全環境委員会

1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 研究室単位の「安全衛生教育」、「安全衛生ミーティング」の実施および実施結果の評価
- (2) 「学部2と3学年安全衛生教育」の実施および実施結果の確認
- (3) 「講義室安全環境チェック」の実施および必要箇所の改善
- (4) 「実験・実習における安全の手引き」の改訂、及びダイジェスト版（電気取扱い）の改訂
- (5) 報告された「危機事象発生報告書」の情報共有化

2. 今年度採択した事項

- (1) 安全ミーティング報告書の「本部への要望等」で挙げられた要望の対応を行い、対応結果の共有化を図った。また、安全衛生教育・ミーティングの報告割合を学科ごとに出してもらい実施状況の把握を行った。
- (2) 自転車に関する道路交通法の一部改正に関して、安全教育で自転車に関する注意喚起を行ってもらった。
- (3) 安全衛生委員会が主幹で行ったヒヤリハット調査で、調査の依頼とアンケート回収を行った。
- (4) 安全教育報告書や講義室チェック表の改訂。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 「安全衛生教育・ミーティング」の報告率が6割と低い。報告率の改善。
- (2) 安全衛生委員会との役割分担や統合等の検討。

4. 委員会の議論に使われた資料

- (1) 安全教育等実施要項
- (2) 平成25年度講義室安全環境チェック 指摘事項・対応一覧
- (3) 工学部平成25年度版「実験・実習における安全の手引」
- (4) 危機事象発生報告書 様式

5. 工学部・工学研究府の現状に関する意見、又は改善に関する提言

- (1) 「安全衛生教育・ミーティング」の報告率を後期に集計したところ、対象研究室数に対する報告数の割合が6割と低い。報告率を改善する取り組みが必要である。
- (2) 安全ミーティング報告書で挙げられた「本部への要望等」に対する回答を情報共有して各学科にフィードバックする体制をつくる。
- (3) 構内の自転車駐輪については関連部署と連携して対処する。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- (1) 昨年度に、安全衛生委員会と安全環境委員会の2つの委員会の必要性や役割を検討すべきとの提言がなされた。2つの委員会があることの問題点が明確でないため今年度は提言に対する検討を深く行っていない。引き続き問題点の把握が必要である。

3. 2. 6 大学院工学研究院学術情報委員会

1. 今年度、委員会が取り組んだ課題

- (1) 本委員会組織に関わる検討
 - A. 正副委員長の選出と本委員会の業務等確認
 - B. 情報基盤機構運営会議への委員の参加
 - C. 情報基盤企画室運営会議への委員の参加
- (2) 違法行為防止、及びセキュリティ向上についての検討と対処
 - A. 新入生オリエンテーション及び学部2年・3年生向けオリエンテーションでの情報モラルとネットワークセキュリティ教育の実施
 - B. 平成25年度情報モラル向上週間の企画と実施(年2回)
- (3) 全学運用ソフトウェアの工学部での運用方法の検討と実施
 - A. マイクロソフト教育機関向けライセンスプログラムの運用に関する工学研究院の基本方針策定
 - B. ウィルス対策ソフトウェアの運用に関する工学研究院の基本方針策定
- (4) 附属図書館に関する検討
 - A. 平成25年度工学部学生用図書購入予算額配分の審議
 - B. 図書館情報リテラシー(中級)の卒業研究への組織的参画について

2. 今年度、委員会が採択した事項

- (1) 本委員会組織に関わる検討
 - A. 正副委員長の選出と本委員会の業務等確認(第1回)
正副委員長を選出し、副委員長が全学委員会へオブザーバー参加することを確認した。
また本委員会における業務等をまとめ、確認した。
 - B. 情報基盤機構運営会議への委員の参加
委員長が情報基盤機構運営会議に参加することを確認した。
 - C. 情報基盤企画室運営会議への委員の参加
副委員長が情報基盤機構運営会議に参加することを確認した。
- (2) 違法行為防止、及びセキュリティ向上についての検討と対処
 - A. 新入生オリエンテーション及び学部2年・3年生向けオリエンテーションでの情報モラルとネットワークセキュリティ教育の実施
新たに、学部2年・3年生向けのオリエンテーション実施に伴い、各学科で情報モラルとネットワークセキュリティ教育を実施した。
 - B. 平成25年度情報モラル向上週間の企画と実施(年2回)
平成24年度に策定した、情報モラル向上週間の運用方法に従い、各学科で「情報倫理デジタルビデオ小品集3」のビデオ映像の閲覧を行った。
- (3) 全学運用情報化関連ソフトウェアの工学部での運用方法の検討と実施
 - A. マイクロソフト教育機関向けライセンスプログラムの運用に関する工学研究院の基本方針策定
 - ・研究室配属の学生の指導教員が行う承認行為の簡素化したこと
 - ・今後利用見込みがないWindows VistaのCAシステムからの除外したこと
 - ・生協販売PCはプロダクトキーを入れない状態で販売すること
 - ・平成26年度のVisual Studio全学運用案を確認したこと
 - ・卒業生/修了生の継続利用申請について、申請制から利用者すべてに対して継続利用を行うよう手順を簡素化したこと
 - B. ウィルス対策ソフトウェアの運用に関する工学研究院の基本方針策定
平成26年度のライセンス契約において、台数制限があることへの対応策を確認したこと。
- (5) 附属図書館に関する検討
 - A. 工学部学生用図書購入予算額配分
従来通り各系に予算を按分することを了承し、選書を実施したこと。
 - B. 図書館情報リテラシー(中級)の卒業研究への組織的参画について
卒業研究の一環として組織的に実施することに関して、実施方法や時期などを確認したこと。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

以下の事項について、引続き主体的に取り組んでいく必要がある。

- (1) 情報セキュリティポリシーの不断の周知徹底
- (2) 情報モラル向上のための啓蒙活動
- (3) ソフトウェアライセンス管理の徹底とCA申請システムの改善
CA申請システムの認証機能が独自で開発されているため、全学教育用統合IDとの連携が今後望まれる。
- (4) 学生への各種情報の周知方法について
新入生・在学生向けの生涯メールサービスが平成26年度より導入されるが、メールを用いた学生への各種情報の周知のあり方について、学年や学科等の区分により、一斉送信することなどの運用方法について、今後検討する必要がある。

4. 委員会の議論に使われた資料

- ・平成25年学術情報委員会資料（全学委員会資料）
- ・平成25年度大学院工学研究院学術情報委員会委員名簿
- ・大学院工学研究院学術情報委員会内規
- ・大学院工学研究院学術情報委員会委員長ローテーション表
- ・マイクロソフト教育機関向けライセンスプログラムの運用に関する工学研究院の基本方針
- ・ウィルス対策ソフトウェアの運用に関する工学研究院の基本方針
- ・ネットワークをよりよく安全に使うために（平成25年度オリエンテーション資料）
- ・平成25年度情報モラル向上週間取組実施状況について
- ・平成25年度工学部学生用図書購入予算額配分（案）
- ・図書館情報リテラシー（中級）の卒業研究への組織的参画について（依頼）

5. 工学研究院の現状に関する意見、又は改善に関する提言

上記3.（1）～（4）と同様。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

全学組織である情報基盤機構の発足により、必ずしも専門知識が十分とは言えない各学科持ち回りの委員によるネットワーク関連の技術的な企画や運用に関わる審議等が少なくなり、改革は進行している。

今年度、学術情報委員会が実施した改革は、2.（3）項で触れた通り、生協で販売するPCにインストールされているソフトウェアのプロダクトキーを学生によるキャンパスアグリーメントの登録と引き換えに情報基盤室が行うようにしたこと、卒業生や修了生に対するソフトウェアの継続利用申請は全員分を自動的に行うようにしたことである。今までは、キャンパスアグリーメントや継続申請を行わない学生を職員が多く時間を費やして追跡する等の問題が一举に解決された。

また、3項に示す課題についても、今後の委員会活動において徐々に解決を図り、無駄のない効率的な運営を進めて行くべきである。

今後、学術情報委員会は、情報基盤機構との役割分担を明確に理解した上で、ネットワークシステムの構築、その運用や操作方法等については、各部局の学術情報委員会を経由せずに、直接ユーザである教職員や学生に対して指示や情報提供を依頼する等、時間的に無駄と思われる連絡のステップを極力省略し、効率的な活動を目指すことが望まれる。

また、親組織である全学の学術情報委員会からの指示を各専攻の教室会議に伝達するだけの役割は見直しし、情報モラル教育、ソフトウェアのライセンス運用や図書館関連等、部局固有に必要とされる作業に注力して、効率的な学術情報委員会を運営していくことが重要である。

3. 2. 7 工学部広報委員会

1. 今年度、貴委員会が取り組んだ課題

工学部広報委員会は学部学生募集活動の実施母体である。全学の学部学生募集専門部会（以下「募集部会」という。）を通して情報工学部と連携を取りながら、全学的に統一性のある学生募集活動の充実に努めた。また、工学研究院広報室（以下「広報室」という。）と密接に連携して、質の高い学生募集活動の充実に努めた。これらの活動のために、本委員会は、各学科及び人間科学系から各1名、工学研究院広報室長から構成されており、本委員会の委員長、副委員長及び広報室長は募集部会の構成員となっている。また、本委員会の委員は広報室の構成員でもある。このような組織の下、主に以下の定例的な課題について検討を行い実施した。

- (a) オープンキャンパス
- (b) 高校訪問（大学説明会）
- (c) 進学説明会
- (d) 本学主催入試説明会
- (e) 高校からの工学部訪問への対処
- (f) 大学案内の編集補助
- (g) オープンキャンパスの実施方法改善の検討
- (h) その他

2. 今年度、貴委員会が採択した事項

前項目の各課題に対応するため下記事項を採択し実施した。

- (a) オープンキャンパス
 - (1) 今年度のオープンキャンパスは8月9日(金)と10日(土)に開催した。参加人数は2140人で、過去最高の来場者数であった。
 - (2) 内容は昨年度と大きく変更し次の通り実施した。まず、学科ツアーと自由見学の2本立てとし、学科ツアーは午前と午後の2回開催とした。また、2日間の学科の組み合わせは異なるものとした。これにより、これまでの課題であった希望する学科ツアーへの参加を可能とした。学科ツアーは、3コースとし、8/9はAコース「機械知能、総合システム」、Bコース「建設社会、応用化学」、Cコース「電気電子、マテリアル」とし、8/10はAコース「機械知能、マテリアル」、Bコース「建設社会、総合システム」、Cコース「電気電子、応用化学」とした。各コースの参加人数の上限を100名とし、上限に達すると他のコースを紹介するようにした。この見学時間の間に保護者・引率者向けの保護者説明会を中村記念館で、大学・学会説明会を総合教育棟 C-3C 講義室で開催した。自由見学では、複数の学科への見学を促すために、スタンプラリーを例年と同様に実施した。アンケートの回収は、スタンプラリーの景品交換場所をメインとし、各学科に回収箱を設置するとともに、正門の特設テントに職員を配置し回収に努めた。また、鳳龍会館において教員による「学科相談コーナー」、事務による「総合相談コーナー・入試相談コーナー」にて参加者からの相談に対応した。また、今年度も昨年を引き続き「女子学生相談コーナー」を設けたが、今年度は新たに「理系女子のための工学部進路相談会」を企画し、その中で延べ8名の本学OGのパネリストにご協力頂き本学OGによるキャリア相談会を開催した。いずれも理系女子の生の声や理系女子に対して聞きたい事が聞けたとの事で好評であった。
 - (3) 各学科の説明においては、昨年度と同様に説明者の服装、態度に関して配慮をお願いすると共に、平易な説明を心がけていただけよう依頼した。
 - (4) 期間中にボランティアで誘導に協力していただく生協学生委員に対して、昨年同様、服装、態度に関して配慮をお願いすると共に、説明内容をキャンパス生活などに限定するように依頼するとともに、チラシの作成を認め内容を確認した。
 - (5) 昨年度と同様に生命体工学研究科とPBL教育推進室の参加を認めた。
 - (6) 平成26年度オープンキャンパスの開催日程について検討し、学年歴に入れていただくように教務委員会に依頼した。
- (b) 高校訪問（大学説明会）

募集部会にて「高校訪問（大学説明会）実施に関する事務処理申し合わせ」に基づき決定され

た高校及び予備校を広報委員等が分担して訪問し、生徒向けの説明会を実施した。

説明には全学共通のスライドを用い、事前にその内容を検討した。また、昨年度の高校訪問報告書のまとめを参照し質問への対応に活用した。

(c) 進学説明会

募集部会にて「企業主催による進学説明会への参加の基本方針」に基づき決定された進学説明会に広報委員等が分担して参加し、「平成25年度進学説明会ブースでの説明手順」を基にブース訪問者へ説明、対応を行った。

(d) 本学主催入試説明会

本学主催の入試説明会に出席し、スライドを用いて工学部に関する説明を行い質問へ対応した。

(e) 高校からの工学部訪問

理数教育支援センターで受付けている大学訪問に対して大学説明を実施した。

(f) 大学案内の編集補助

今年度は、大学案内を一新する年であるため、紙面を減らして写真を大きく載せる等のレイアウトや内容を大幅に改定した。本委員会では、工学部に関して、学科のページ構成や新たに追加した Navigation のページの作成と昨年作成した工学部と自動車のページの内容の見直しを行い、高校生が工学部や各学科を身近に感じより魅力を抱くようにした。

(g) オープンキャンパスの実施方法改善の検討

オープンキャンパスの参加人数は年々増大しており、記念講堂の収容能力を上回り始めていた。また、参加者に対して行ったアンケートの情報から、見学コース等に関して現状からの変更を要望する意見もあったので、これらの事項を勘案して改善案を検討した。その結果、学科ツアー（午前、午後の2回）と自由見学の2つを実施することとし、その間に、保護者説明会と、大学・学科説明会を実施して参加者の分散を試みた。

(h) その他

全学広報戦略会議からの依頼で「夢ナビ」及び「夢ナビライブ」に対応する教員の追加、ベネッセのマナビジョンへの掲載原稿の対応等を行った。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

充実したオープンキャンパス、高校訪問等を目標に活動を行ってきた。これからも、同内容の活動を着実に遂行していくことが重要であると思われる。来年度のオープンキャンパスについては、新たな方法で実施した本年度の内容は概ね好評であったため、基本的には本年度の内容を維持しつつ、改善が必要なところは更に改善を図りよりよいオープンキャンパスとなることを期待している。なお、改善箇所としては、午前の学科ツアーに参加者が集中していた一方で、大学・学科説明会はほとんど参加者がいないなど、いかに参加者を分散させて実施できるかを検討頂きたい。

4. 委員会の議論に使われた資料

募集部会資料、大学案内、オープンキャンパスアンケートおよび調査結果。

5. 工学部・工学研究科の現状に関する意見、又は改善に関する提言

特になし

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

充実したオープンキャンパスの実施に対して、昨年改善案をもとに昨年までとは異なる実施方法で開催したが、大きなトラブルも無く、アンケートの結果も概ね好意的な評価であり、改善は一定の効果があったと考えられる。なお、午前と午後の参加者に偏りがあり、午前に集中している状況を改善するとよりスムーズに見学ができることになるとと思われる。

3. 2. 8 大学院工学府学務委員会

1. 今年度取り組んだ課題

(1) 授業関係・教育関係

博士後期課程一専攻化に伴うカリキュラムの検討
「融合科目」の取扱い
工学府学修細則の一部改定
平成26年度工学府学生便覧等の原稿作成
平成26年度工学府時間割表
教育・学習系統図
工学府社会人修学支援講座平成26年度募集要項
実践工学総合科目Ⅰ～Ⅲの開講
「大学間連携共同教育推進事業」のカリキュラム導入
工学府授業科目の特例履修に関する単位の認定
ダブルディグリー学生の単位認定
他学府等の授業科目の履修
平成26年度大学院工学府研究生・科目等履修生・聴講生の募集要項

(2) 学生関係

学生異動・除籍・派遣
国際交流協定の締結
大学院国際共同教育学生派遣願書（案）について
外国人研究生・特別研究学生・特別聴講学生の受入
国費外国人留学生（研究留学生）受入
社会人修学支援講座（技術者大学院講座）の科目等履修生・聴講生の受入
平成25年度博士後期課程指導教員グループの決定
日本学生支援機構大学院予約奨学生を選考
日本学生支援機構大学院第一種奨学金の返還免除候補者推薦枠の配分
長期履修申請

(3) 中期目標・中期計画

中期目標・中期計画

(4) 工学府改組

博士後期課程一専攻化に伴うカリキュラム検討WG経過報告
改組に伴うポリシーの見直し
改組に伴う学内規則等の一部改正

2. 今年度採択した事項

(1) 授業関係・教育関係

イ. 博士後期課程一専攻化に伴うカリキュラムの検討

平成26年度からの博士後期課程一専攻化に伴い、WGでの検討を基にカリキュラムやシラバスについて審議し承認した。

ロ. 工学府学修細則の一部改正

平成26年度の工学府学修細則について、博士後期課程の履修要件の変更、先端機能システムの博士前期課程の履修要件の一部変更、「工学融合科目」「半導体トピックセミナー」の新設について審議し承認した。

ハ. 実践工学総合科目Ⅰ～Ⅲの開講

平成25年度後期に、「宇宙ベンチャー創生塾」を「実践工学総合科目Ⅰ（1単位）」及び「実践工学総合科目Ⅱ（1単位）」として、「半導体トピックセミナー」を「実践工学総合科目Ⅲ（2単位）」として開講することについて審議し承認した。

ニ. 「大学間連携共同教育推進事業」のカリキュラム導入

「地域連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクト（①）」と「未来像を自ら描く電気エネルギー分野における実践的人材の育成（②）」の平成26年度カリキュラムへの導入について審議し、①については「物理化学概論」を提供科目とすること、②については「電気エネルギー特論Ⅰ」「電気エネルギー特論Ⅱ」として科目を新設することを承認した。

(2) 学生関係

イ. 国際交流協定の締結

ベルギーのアントワープ大学と国際交流協定を締結し、部局で初めて平成26年度にダブルディグリーで

学生を派遣することとなった。

ロ. 大学院国際共同教育学生派遣願書

ダブルディグリーでの派遣に伴う学生派遣願書の様式を作成した。

ハ. 就職担当教員の教務情報システムのアクセス件設定

就職担当教員からの教務情報システムへのアクセス件設定依頼に伴い、今後は各専攻から学務委員会に申し出てもらい、当委員会です承された後、設定することとした。

(3) 中期目標・中期計画

イ. 部局間相互評価

昨年度同様、平成24年度の年度計画の部局間相互評価を行うため、特色ある事項についての調査書の作成とエビデンスの収集を行った。

ロ. 平成25年度中期計画・中期目標の調査の進め方

委員の交代による担当者の変更、前年度の進捗状況及び年度計画の検討事項について確認を行い、あわせてエビデンスの収集を行った。

(4) 工学府改組

イ. 博士後期課程一専攻化に伴うカリキュラム検討WG

博士後期課程一専攻化に伴う問題点等についてWGを立ち上げ内容を精査することとした。

ロ. 改組に伴うポリシーの見直し

教育委員会から提案のあったディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの見直しについて検討を行い、一部改正を承認した。

ハ. 改組に伴う学内規則等の一部改正

改組に伴い改正が必要な以下の学内規則等の一部改正について審議し承認した。

- ・大学院工学府学務委員会内規
- ・大学院工学府の博士の学位審査に関する取扱内規
- ・大学院工学府における研究指導体制に関する申合せ
- ・「教育・研究活動報告書」の取扱い

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

(1) 改組後の博士後期課程の運用

単位数の増加への対応、融合科目、国際・企業インターンシップ、専門拡張型のプロジェクト研究などの新規科目の実施

(2) グローバルコンピテンシーを有する高度技術者の育成

カリキュラムと実践環境の整備

(3) 6年一貫性教育の導入

4. 委員会の議論に使われた資料

(1) 教育委員会資料

(2) 日本学生支援機構奨学金返還免除選考資料

(3) 学務委員会資料等

5. 工学府の現状に関する意見または改善に関する提言

特になし

6. 昨年度の改善に関する提言に対する、改善状況と未改善および新たな問題点

特になし

3. 2. 9 大学院工学府入学試験委員会

1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 大学院入学試験専門部会委員を選出した。
- (2) 出願資格認定委員会委員5名を選出した。
- (3) 平成26年度工学府博士前期課程入学試験(推薦選抜)実施日程を決定した。
- (4) 平成26年度工学府博士課程入学試験(第1回外国人選抜、第1回一般・社会人選抜)実施日程を決定した。
- (5) 平成25年度工学府博士前期課程入学試験(第1回)及び平成25年10月入学大学院工学府博士後期課程入学試験の出願資格認定を行った。
- (6) 平成25年10月入学大学院工学府博士後期課程入学試験(第1回外国人選抜)面接免除候補者を選考した。
- (7) 平成25年10月入学大学院工学府博士課程入学試験(第1回外国人選抜)合格候補者を選考した。
- (8) 平成26年度博士前期課程入学試験(推薦選抜)合格候補者を選考した。
- (9) 平成26年度工学府博士前期課程入学試験(一般選抜)募集人員の変更を行った。
- (10) 平成26年度工学府博士課程入学試験(第1回一般・社会人選抜)合格候補者を選考した。
- (11) 平成26年度(平成24年10月入学)第1回国際共同教育学生選抜実施要項に基づく大学院工学府博士前期課程入学試験合格者候補者を選考した。
- (12) 平成26年度博士前期課程一般選抜試験(第2回)募集実施の有無について審議し、実施を決定した。
- (13) 平成26年度工学府博士課程入学試験(第2回外国人選抜、一般・社会人選抜)実施日程を決定した。
- (14) 平成26年度大学院工学府博士後期課程入学試験(第2回外国人選抜)面接免除候補者を選考した。
- (15) 平成26年度工学府博士後期課程入学試験(第2回)の出願資格認定を行った。
- (16) 平成26年度大学院工学府博士課程入学試験(第2回外国人選抜)合格候補者を選考した。
- (17) 平成26年度第2回国際共同教育学生選抜実施要項に基づく大学院工学府博士課程入学試験合格者候補者を選考した。
- (18) 平成27年度工学府大学院入学試験日程(H26年度実施日程)について審議し、決定した。
- (19) 大学院工学府博士課程入学試験の充足状況及び辞退者について確認した。
- (20) 中期目標・中期計画について審議し、決定した。
- (21) 平成27年度募集要項について審議した。
- (22) 「入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)」及び「学生募集要項」の英文化を行った。
- (23) ダブルディグリー取得学生の博士後期課程進学時の面接について審議した。
- (24) 大学院工学府社会人プログラムリーフレットについて審議し、決定した。
- (25) 大学院入試においてTOEFLも併用することとし、TOEICとTOEFLの換算表について審議した。
- (26) 就職・採用活動時期の後ろ倒しに伴う大学院入試時期等の見直しについて、大学院入試の時期や回数について各分野の意見を取りまとめ、工学府長に報告した。
- (27) 大学院入学手続時期について検討を行い、学部前期日程合格者の手続日にも実施することとした。

2. 今年度採択した事項

- (1) 平成26年度実施の平成27年度入学者選抜試験から、TOEIC公開テストの他、TOEFL-iBTも併用することを決定した。なお、大学等において英語カリキュラム制度の一環として受験していることが分かる書類(履修の手引きのコピー等)を提出できる場合は、TOEFL-ITP(団体特別受験制度)も有効とすることとした。ただし、本学部生については英語セクションで受講者が確認できるため添付書類は不要であること、各学科のガイダンス時に学生にその旨周知をはかることが確認された。
- (2) 平成27年度募集要項において以下の事柄を採択実施した。
 - ・TOEIC公開テストの他、TOEFL-iBTも併用する。
 - ・外国人留学生に理解しやすくするために、全学入試委員会と連携して、アドミッションポリシーの英文併記を行なった。

- ・事前連絡の記載については、出願者に誤解を生じる可能性があることから記載しない。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 大学院博士前期課程入試結果に対する公開請求に答えられるよう、点数開示のための整備を5専攻全体で足並みを揃える必要がある。その際、総合評価(A, B, C, D)と点数との関係を見直す必要がある。
- (2) 現行の一般選抜試験では、無気力学生(本学学部生)であっても選抜試験を受験することができ、合格できてしまう場合もある。無気力学生をどうするか、工学府入試委員会だけでなく、大学全体として学部とも連携して対応策を検討していく必要がある。
- (3) 就職・採用活動時期の後ろ倒しに伴う大学院入試時期等を具体的に検討する必要がある。
- (4) 博士後期課程一専攻化の継続周知を行う必要がある。
- (5) 建設社会工学専攻及び電気電子工学専攻のコース変更(試験科目含む)の事前予告等を検討する必要がある。

4. 委員会の議論に使用された資料

- (1) 「中期目標・中期計画」
- (2) 平成27年度九州工業大学大学院工学府博士前期課程学生募集要項(案)
- (3) 平成27年度九州工業大学大学院工学府博士後期課程学生募集要項(案)
- (4) 大学院における入学定員管理について(7月10日付け工学研究院長通知)
- (5) 平成25年度及び平成26年度大学院工学府博士前期課程・後期課程定員充足予測表

5. 工学府の現状に関する意見または改善に関する提言

- (1) 工学府博士後期課程の入学定員数の適正管理が実施されたため、平成26年度入学においては国費留学生、ダブルディグリー等を除いた法人評価では定員を充足しない可能性がでてきた。認証評価を満たせる見込みであるが、引き続き平成27年度以降の入学においても少なくとも認証評価を満たせるよう努力する必要がある。なお、専攻が一本化されたことにより、各領域の割当数の管理をどうするか、今後議論が必要となる。
- (2) 工学府入学定員管理会議が設置され、博士前期課程の入学定員数の適性化が厳守された結果、平成26年度入学一般選抜試験では大量の不合格者が発生した。平成27年度入学一般選抜試験においては、指導教員、進路指導教員とも連携し、生命体研究科や他大学を併願するなどの対策が必要である。一方、平成28年度以降に関しては入学試験時期の見直しに応じて対応策の検討が必要である。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する、改善状況と未改善及び新たな問題点

- (1) TOEIC公開テストの本学実施については受験者数に大きく依存するため、流動的である。平成26年度選抜からTOEIC公開テストに切り替えたことから本学で実施されるよう機会があるごとに(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会に要望を伝える必要がある。
- (2) 本学学生に対してはTOEFL-ITP(団体特別受験制度)を認めたため、一時的にTOEIC公開テストの受験希望者が減少する可能性がある。日本企業においては就職活動中ならびに入社後相変わらずTOEICが重視されていることを考えると、英語セッションならびに就職担当者とも連携し、TOEIC公開テストの受験も推奨していく必要がある。特に、TOEICとTOEFLの換算表の信頼性を検証する上でも、一定数以上の併願者数を確保する必要がある。

3. 3 教員組織

3. 3. 1 教員の配置

① 大学院工学研究院

表 3. 3. 1 大学院工学研究院教員現員一覧

(平成25年4月1日現在)

| 系 | 講座名 | 教授 | | 准教授 | | 講師 | | 助教 | | 合計 | 技術職員等 |
|-----------|----------------|----|--|-----|--|----|----|----|------------------------|----|-------|
| | | 現員 | 氏名 | 現員 | 氏名 | 現員 | 氏名 | 現員 | 氏名 | 現員 | 現員 |
| 機械知能工学研究系 | 機械工学部門 | 5 | 梅景 俊彦 鶴田 隆治 野田 尚昭 水垣 善夫 宮崎 康次 | 6 | 河部 徹 吉川 浩一 黒島 義人 清水 浩貴 坪井 伸幸 長山 暁子 | | | 2 | 谷川 洋文 田丸 雄摩 | 13 | 13 |
| | 宇宙工学部門 | 4 | 赤星 保浩 橘 武史 松田 健次 米本 浩一 | 1 | 平木 講儒 | 0 | | 2 | 西川 宏志 松本 剛明 | 7 | |
| | 知能制御工学部門 | 6 | 石川 聖二 大屋 勝敬 金 亨燮 黒木 秀一 坂本 哲三 田川 善彦 | 3 | 相良 慎一 タン・ジューグイ 西田 健 | 0 | | 1 | 新田 益大 | 10 | 5 |
| | 小計 | 15 | | 10 | | 0 | | 5 | | 30 | 48 |
| 建設社会工学研究系 | | 7 | 秋山 壽一郎 幸左 賢二 佐久間 治 永瀬 英生 松田 一俊 山口 栄輝 吉武 哲信 | 8 | 穴井 謙 伊東 啓太郎 鬼束 幸樹 重枝 未玲 寺町 賢一 徳田 光弘 日比野 誠 廣岡 明彦 | 0 | | 1 | 合田 寛基 | 16 | 2 |
| | 小計 | 7 | | 8 | | 0 | | 1 | | 16 | 18 |
| 電気電子工学研究系 | 電気エネルギー部門 | 3 | 白土 竜一 匹田 政幸 三谷 康範 | 4 | 大塚 信也 豊田 和弘 渡邊 政幸 小迫 雅裕 | 0 | | 1 | 今給黎 明大 | 8 | 7 |
| | 電子デバイス部門 | 3 | 和泉 亮 大村 一郎 松本 聡 | 2 | 川島 健児 松平 和之 | 0 | | 3 | 佐竹 昭泰 鶴巻 浩 渡邊 晃彦 | 8 | |
| | システムエレクトロニクス部門 | 6 | 池永 全志 桑原 伸夫 芹川 聖一 中藤 良久 前田 博 水波 徹 | 6 | 生駒 哲一 市坪 信一 河野 英昭 張 力峰 中司 賢一 水町 光徳 | 0 | | 3 | 山脇 彰 楊 世淵 野林 大起 | 15 | |
| | 小計 | 12 | | 12 | | 0 | | 7 | | 31 | 38 |

| | | | | | | | | | | | |
|---------------|---------|----|--|----|---|---|-------|----|--|-----|-----|
| 物質工学研究系 | 応用化学部門 | 7 | 横野 照尚 古曳 重美 清水 陽一 竹中 繁織 柘植 顕彦 中戸 晃之 山村 方人 | 8 | 新井 徹 荒木 孝司 植田 和茂 岡内 辰夫 北村 充 坪田 敏樹 佐藤 しのぶ 村上 直也 | 0 | | 5 | 下岡 弘和 馬渡 佳秀 高瀬 聡子 毛利 恵美子 森口 哲次 | 20 | 5 |
| | 材料開発部門 | 4 | 秋山 哲也 石丸 学 恵良 秀則 松本 要 | 4 | 高須 登実男 廣田 健治 山口 富子 横山 賢一 | 0 | | 4 | 伊藤 秀行 北村 貴典 山根 政博 堀出 朋哉 | 12 | 4 |
| | 小計 | 11 | | 12 | | 0 | | 9 | | 32 | 41 |
| 基礎科学研究系 | 数理科学部門 | 4 | 池田 敏春 酒井 浩 鈴木 智成 仙葉 隆 | 8 | 浅海 賢一 井上 創造 木村 広 花沢 明俊 平山 至大 藤田 敏治 三浦 元喜 若狭 徹 | 0 | | 0 | | 12 | 0 |
| | 量子物理学部門 | 5 | 鎌田 裕之 出口 博之 西谷 龍介 中尾 基 美藤 正樹 | 2 | 中村 和磨 渡辺 真仁 | 0 | | 0 | | 7 | |
| | 小計 | 9 | | 10 | | 0 | | 0 | | 19 | 19 |
| 先端機能システム工学研究系 | | 5 | 奥山 圭一 小森 望充 鈴木 芳文 趙 孟佑 本田 崇 | 6 | 大門 秀朗 坂井 伸朗 孫 勇 高原 良博 竹澤 昌晃 脇迫 仁 | 0 | | 2 | 岩田 稔 花澤 雄太 | 13 | 0 |
| | 小計 | 5 | | 6 | | 0 | | 2 | | 13 | 13 |
| 人間科学系 | | 6 | アブドゥルハミド 恭子 田吹 昌俊 鳥井 正史 本田 逸夫 水井 万里子 ラックストン・イソ. c | 9 | 大野 瀬津子 児玉 恵美 反町 裕司 辻 隆司 中村 雅之 虹林 慶 八丁 由比 東野 充成 ロング・ロバート | 1 | 前田 雅子 | 0 | | 16 | 0 |
| | 小計 | 6 | | 9 | | 1 | | 0 | | 16 | 16 |
| 合計 | | 65 | | 67 | | 1 | | 24 | | 157 | 193 |

② 大学院工学府

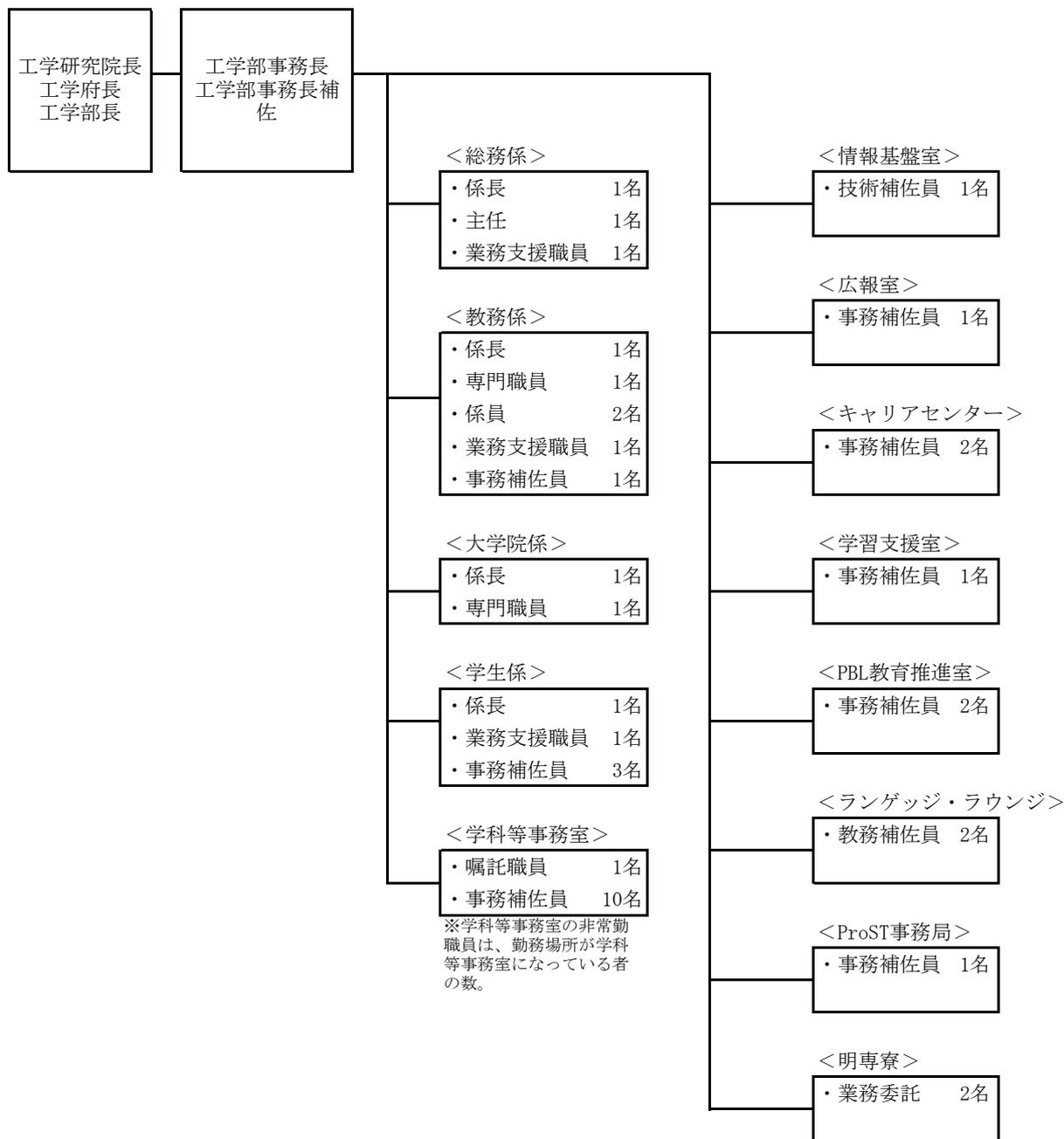
表 3. 3. 2 大学院工学府連携講座 (定員外)

(平成25年4月1日現在)

| 専攻名 | 教授 | | 准教授 | | 講師 | | 助教 | | 合計 | |
|--------------|----|------|-----|------|----|----|----|----|----|----|
| | 現員 | 氏名 | 現員 | 氏名 | 現員 | 氏名 | 現員 | 氏名 | 現員 | 現員 |
| 先端機能システム工学専攻 | 1 | 山田 明 | 1 | 西 敏郎 | 0 | | 0 | | 2 | 0 |
| 合計 | 1 | | 1 | | 0 | | 0 | | 2 | 0 |

3. 4 事務組織

図 3. 4. 1 事務組織図 (平成 25 年 4 月 1 日現在)



4 大学院工学研究院・工学府・工学部の財政

4.1 運営費交付金配分状況

表4.1.1 運営費交付金配分額、学部運営費、教室配分額年次変化（単位：千円）

| 区分・年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 運営費交付金配分額 | 480,984 | 488,920 | 478,118 | 510,350 | 495,681 |
| 学部運営費 | 194,407 | 198,584 | 211,206 | 226,491 | 210,999 |
| （うち光熱水費保留分） | (116,320) | (116,773) | (124,136) | (119,483) | (103,869) |
| 各学科等配分額 | 286,577 | 290,336 | 266,912 | 283,859 | 284,682 |

（*）平成21年度より光熱水費の全額を部局で管理することとなったため、額が例年よりも大きくなっている。

表4.1.2 平成25年度費目別配分額（単位：千円）

| 費目 | 配分額 | 比率（%） |
|---------|---------|--------|
| 研究経費 | 64,752 | 13.06% |
| 教育経費 | 156,227 | 31.52% |
| 業績等配分経費 | 32,308 | 6.52% |
| 事項指定経費 | 31,395 | 6.33% |
| 学部運営費 | 107,130 | 21.61% |
| 光熱水費 | 103,869 | 20.96% |
| その他 | | |
| 合計 | 495,681 | 100% |

表4.1.3 過去5年間の学科等別積算校費配分額の推移（単位：千円）

| 年度・科目/系 | 機械知能工学 研究系 | 建設社会工学 研究系 | 電気電子工学 研究系 | 物質工学研究 系 | 基礎科学系 | 人間科学系 | 先端機能システム 工学研究系 | その他 | |
|---------|---------------|---------------|---------------|-------------|--------|-------|-------------------|--------|---------|
| 平成21年度 | 研究経費 | 13,984 | 7,600 | 15,200 | 15,592 | 7,192 | 7,600 | 4,400 | 0 |
| | 教育経費 | 35,464 | 17,051 | 38,413 | 35,279 | 0 | 2,929 | 17,384 | 0 |
| | 業績等配分経費 | 4,325 | 1,827 | 5,338 | 5,432 | 549 | 1,282 | 1,629 | 0 |
| | その他 | 753 | 0 | 32,439 | 1,502 | 0 | 0 | 3,023 | 204,797 |
| 平成22年度 | 研究経費 | 16,500 | 8,500 | 17,988 | 17,400 | 9,000 | 8,500 | 6,688 | 0 |
| | 教育経費 | 36,305 | 16,421 | 38,276 | 34,348 | 0 | 2,218 | 18,971 | 0 |
| | 業績等配分経費 | 3,646 | 1,752 | 5,921 | 5,126 | 1,653 | 1,126 | 1,115 | 7,511 |
| | その他 | 981 | 0 | 257 | 1,267 | 0 | 0 | 3,963 | 223,487 |
| 平成23年度 | 研究経費 | 13,600 | 6,800 | 13,200 | 13,968 | 7,168 | 5,584 | 5,200 | 0 |
| | 教育経費 | 40,469 | 17,985 | 33,744 | 32,308 | 970 | 2,287 | 21,888 | 10 |
| | 業績等配分経費 | 3,766 | 1,604 | 5,374 | 5,144 | 1,545 | 917 | 2,449 | 0 |
| | その他 | 1,072 | 0 | 281 | 346 | 0 | 0 | 4,330 | 236,109 |
| 平成24年度 | 研究経費 | 12,800 | 6,400 | 13,200 | 13,580 | 7,180 | 5,600 | 5,600 | 0 |
| | 教育経費 | 43,961 | 17,909 | 33,315 | 31,589 | 480 | 2,370 | 25,232 | 25 |
| | 業績等配分経費 | 6,930 | 3,258 | 8,013 | 8,814 | 2,456 | 1,627 | 2,459 | 0 |
| | その他 | 1,368 | 0 | 0 | 355 | 0 | 0 | 4,435 | 251,394 |
| 平成25年度 | 研究経費 | 12,000 | 6,400 | 12,800 | 13,576 | 7,976 | 6,400 | 5,600 | 0 |
| | 教育経費 | 43,793 | 16,833 | 32,419 | 32,743 | 400 | 3,648 | 26,391 | 0 |
| | 業績等配分経費 | 6,712 | 3,116 | 6,990 | 8,670 | 2,605 | 1,544 | 2,671 | 0 |
| | その他 | 1,080 | 0 | 622 | 355 | 0 | 0 | 4,435 | 235,902 |

4 大学院工学研究院・工学府・工学部の財政

4.2 科学研究費助成事業の採択状況

表4.2.1 科学研究費助成事業採択状況（単位：千円）

| 種目/年度 | 平成21年度 | | 平成22年度 | | 平成23年度 | | 平成24年度 | | 平成25年度 | |
|-------------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 件数 | 金額 |
| 特別推進研究 | 1 | 11,700 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 特定領域研究 | — | — | 1 | 4,900 | — | — | — | — | — | — |
| 特別研究促進費 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 新学術領域研究 | 1 | 3,300 | 1 | 3,300 | — | — | 2 | 3,200 | 2 | 6,700 |
| 基盤研究（S） | — | — | — | — | 1 | 40,500 | 1 | 39,500 | 1 | 32,600 |
| 基盤研究（A）（海外） | 1 | 10,600 | 1 | 5,000 | 1 | 4,600 | 0 | 0 | — | — |
| 基盤研究（A）（一般） | 3 | 20,000 | 1 | 15,200 | 1 | 13,100 | 2 | 20,900 | 2 | 22,500 |
| 基盤研究（B）（一般） | 10 | 43,200 | 10 | 32,100 | 8 | 29,000 | 9 | 35,100 | 7 | 35,600 |
| 基盤研究（C）（一般） | 22 | 26,000 | 30 | 30,900 | 34 | 43,000 | 40 | 48,700 | 43 | 49,900 |
| 挑戦的萌芽研究 | 3 | 3,200 | 5 | 5,800 | 9 | 12,650 | 12 | 12,950 | 13 | 17,100 |
| 研究活動スタート支援 | — | — | — | — | 2 | 2,000 | 3 | 4,800 | 1 | 1,000 |
| 奨励研究 | — | — | 1 | 570 | 1 | 600 | 1 | 600 | 1 | 600 |
| 若手研究（A） | — | — | 2 | 8,400 | 2 | 14,500 | 2 | 8,200 | 1 | 3,300 |
| 若手研究（B） | 13 | 17,600 | 11 | 13,700 | 8 | 6,600 | 9 | 12,700 | 8 | 10,100 |
| 特別研究員奨励費 | 4 | 2,500 | 5 | 3,700 | 3 | 1,900 | 1 | 900 | 5 | 4,600 |
| 計 | 58 | 138,100 | 68 | 123,570 | 70 | 168,450 | 82 | 187,550 | 84 | 184,000 |

※金額は、直接経費のみ。（転出を含み、転入を除く）

表4.2.2 平成25年度科学研究費助成事業学科等別申請、採択状況（採択件数の上段は継続課題で内数）

| 事項/系 | 機械知能 工学研究 系 | 建設社会 工学研究 系 | 電気電子 工学研究 系 | 物質工学 研究系 | 基礎科学 研究系 | 先端機能 システム 工学研究 系 | 人間科学 研究系 | 合計 |
|------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------|-------------|---------------------------|-------------|-----|
| 申請件数 | 26 | 10 | 23 | 34 | 13 | 11 | 3 | 120 |
| 採択件数 | 9 | 6 | 10 | 14 | 8 | 3 | 5 | 55 |
| | 15 | 9 | 13 | 19 | 12 | 5 | 5 | 78 |

※申請件数・採択件数ともに、非常勤研究員を含む。
また、申請・採択件数には、奨励研究費及び特別研究員奨励費を含まない。

4. 3 外部資金導入状況

表4.3.1 寄附金受け入れ状況（奨学寄附金）（単位：千円）

| 学科等/年度 | 平成21年度 | | 平成22年度 | | 平成23年度 | | 平成24年度 | | 平成25年度 | |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 件数 | 金額 |
| 機械知能工学研究系 | 17 | 12,800 | 19 | 12,767 | 17 | 13,007 | 17 | 13,328 | 11 | 6,340 |
| 建設社会工学研究系 | 13 | 15,390 | 12 | 19,936 | 17 | 10,673 | 14 | 7,325 | 15 | 21,480 |
| 電気電子工学研究系 | 18 | 18,987 | 23 | 32,440 | 16 | 15,923 | 17 | 8,210 | 16 | 10,590 |
| 物質工学研究系 | 26 | 19,240 | 32 | 28,425 | 27 | 23,021 | 20 | 14,880 | 19 | 19,587 |
| 基礎科学研究系 | 2 | 1,950 | 2 | 310 | 2 | 280 | 2 | 1,500 | 2 | 1,029 |
| 先端機能システム工学研究系 | 8 | 5,010 | 4 | 2,000 | 4 | 1,600 | 4 | 2,100 | 4 | 1,000 |
| 人間科学系 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 84 | 73,377 | 92 | 95,878 | 83 | 64,504 | 74 | 47,343 | 67 | 60,026 |

表4.3.2 民間等との共同研究受け入れ状況（単位：千円）

| 学科等/年度 | 平成21年度 | | 平成22年度 | | 平成23年度 | | 平成24年度 | | 平成25年度 | |
|---------------|--------|----------------------|--------|----------------------|--------|----------------------|--------|----------------------|--------|----------------------|
| | 件数 | 金額 |
| 機械知能工学研究系 | 13 | 11,650 (11,650) | 19 | 24,848 (24,848) | 23 | 33,691 (33,691) | 21 | 22,002 (19,002) | 21 | 18,084 (18,084) |
| 建設社会工学研究系 | 4 | 13,986 (13,986) | 4 | 9,540 (9,540) | 8 | 11,418 (11,418) | 9 | 8,395 (7,400) | 7 | 10,645 (10,645) |
| 電気電子工学研究系 | 31 | 74,909 (74,909) | 37 | 66,063 (66,063) | 36 | 61,958 (61,958) | 37 | 42,446 (41,351) | 34 | 34,536 (34,536) |
| 物質工学研究系 | 38 | 41,120 (31,555) | 33 | 36,492 (36,492) | 36 | 35,268 (35,268) | 34 | 41,290 (41,290) | 25 | 37,552 (37,552) |
| 基礎科学研究系 | 6 | 5,119 (5,119) | 4 | 2,000 (2,000) | 4 | 4,500 (4,500) | 3 | 2,200 (2,200) | 3 | 4,948 (4,948) |
| 先端機能システム工学研究系 | 4 | 12,970 (12,970) | 8 | 120,428 (120,428) | 5 | 34,468 (34,468) | 11 | 47,013 (46,017) | 13 | 37,380 (37,380) |
| 人間科学系 | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | |
| 合計 | 96 | 159,754 (150,189) | 105 | 259,371 (259,371) | 112 | 181,303 (181,303) | 115 | 163,346 (157,260) | 103 | 143,145 (143,145) |

※下段の（ ）数字は民間負担分の歳入金額で内数。

※複数年契約を含む。

表4.3.3 受託研究受け入れ状況（単位：千円）

| 学科等/年度 | 平成21年度 | | 平成22年度 | | 平成23年度 | | 平成24年度 | | 平成25年度 | |
|---------------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 件数 | 金額 |
| 機械知能工学研究系 | 13 | 25,448 | 9 | 10,862 | 7 | 14,370 | 9 | 12,961 | 10 | 27,902 |
| 建設社会工学研究系 | 2 | 12,000 | 3 | 1,180 | 7 | 10,956 | 6 | 19,888 | 7 | 35,931 |
| 電気電子工学研究系 | 23 | 68,501 | 18 | 62,414 | 20 | 31,547 | 21 | 33,727 | 22 | 38,199 |
| 物質工学研究系 | 19 | 97,956 | 18 | 134,331 | 24 | 192,184 | 22 | 130,101 | 18 | 94,334 |
| 基礎科学研究系 | 2 | 4,860 | 2 | 3,600 | 1 | 1,800 | 1 | 1,150 | 3 | 9,041 |
| 先端機能システム工学研究系 | 4 | 18,092 | 12 | 87,282 | 9 | 56,982 | 6 | 5,361 | 5 | 12,181 |
| 人間科学系 | 0 | | 0 | | 0 | | 1 | 0 | 1 | 150 |
| 合計 | 63 | 226,857 | 62 | 299,669 | 68 | 307,839 | 66 | 203,188 | 66 | 217,738 |

※複数年契約を含む。

※注意事項

- ・ 束ね契約もありますが、申請を1件としています。
- ・ 知的クラスターは1テーマを1件とし、代表者の所属で分けています。
- ・ 受託事業は含まれていません。

表4.3.4 寄附講座受け入れ状況（単位：千円）

| 名称 | 所属学科 | 寄附者 | 年度別受け入れ金額 | | | | | 教員組織 |
|----------|---------|---------|-----------|--------|--------|--------|--------|------------------------|
| | | | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | |
| 電力系統制御工学 | 電気電子工学科 | 九州電力(株) | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 25,000 | 18,000 | 平成24年度 寄附講座教員 1名 |

4. 3. 5 寄附金の利息

大学院工学研究院・工学府・工学部では、寄附金の利息を共通経費として運用している。

表4. 3. 5に平成25年度の使用内訳を示す。

表4. 3. 5 平成25年度寄附金共通経費使用報告

(単位:円)

| 受入額 | | 使用額 | |
|--------------|------------------|---------------------|------------------|
| 事項 | 金額 | 事項 | 金額 |
| 前年度繰越 | 6,555,907 | サンテティエンヌ大学との国際交流会議費 | 30,115 |
| | | 明専寮開寮式に係る式典費 | 100,000 |
| | | ランゲッジ・ラウンジ開設に係る式典費 | 120,000 |
| | | 研究院長会議費 | 1,930 |
| | | 次年度繰越 | 6,303,862 |
| 計 | 6,555,907 | 計 | 6,555,907 |

5 大学院工学研究院・工学府・工学部と社会のつながり

5.1 地域貢献活動

5.1.1 大学公開

大学公開事業の一環として実施している高校生のためのオープンキャンパス（学内見学会）の実施状況を表5.1.1に示す。

| 年度 | 参加者数（名） | |
|--------|---------|-----------|
| | 大学全体 | 学部別 |
| 平成21年度 | 2,427 | (工) 1,502 |
| | | (情) 925 |
| 平成22年度 | 2,767 | (工) 1,594 |
| | | (情) 1,173 |
| 平成23年度 | 3,012 | (工) 1,807 |
| | | (情) 1,205 |
| 平成24年度 | 3,005 | (工) 1,989 |
| | | (情) 1,016 |
| 平成25年度 | 3,426 | (工) 2,140 |
| | | (情) 1,286 |

5. 1. 2 公開講座等

表5.1.2 公開講座等実施状況 (単位：名)

| 年度 | 講座名 | 対象 | 参加者数 |
|--|---|--|-------|
| 平成21年度 | 福岡県高校化学部会研修会 | 高校教員 | 20 |
| | 第33回ジュニア・サイエンス・スクール「JSS in 環境ミュージアム」 | 小学生以上 | ブース出展 |
| | 第34回ジュニア・サイエンス・スクール「多角形をたたんで作るふしぎな模様」 | 小学生以上 | 59 |
| | 北九州市立永犬丸市民センター | 小学1～6年生 | 約50 |
| | 北九州市立前田市民センター | 小学1～6年生 | 25 |
| | 第35回ジュニア・サイエンス・スクール「皆既日食観察会」 | 小学生以上 | 420 |
| | 第36回ジュニア・サイエンス・スクール「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」 | 中学生 | 42 |
| | 日本化学会九州支部「化学への招待」への協力 | 小学生以上 | 63 |
| | 北九州市児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」への協力 | 一般 | ブース出展 |
| | 戸畑区「いいっちゃ戸畑」への協力 | 一般 | ブース出展 |
| | 戸畑区まちづくり推進課推進課「安川・松本家と戸畑の百年」記念事業への協力 | 一般 | 33 |
| | 天文講演会「宇宙を身近に～宇宙開発者たちに聞いてみよう～」 | 小学校高学年以上一般まで | 103 |
| | 第37回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(初級)」「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(中級)」 | 小学生以上 | 72 |
| | 北九州市立三六市民センター | 小学1～6年生 | 約40 |
| | 平成22年度 | 第38回ジュニア・サイエンス・スクール「ソルバトクロミズム：周りの環境で色が変わるカメレオン分子を作ってみよう」 | 小学生以上 |
| 第39回ジュニア・サイエンス・スクール「家庭の科学—電気製品の仕組みと安全な使用法」 | | 小学生以上 | 30 |
| 第40回ジュニア・サイエンス・スクール「ドライアイスで遊ぼう！」 | | 小学生以上 | 41 |
| 福岡県立戸畑高等学校文化祭に参加「折り紙ユニットで立体を作ってみよう」「超高速カメラでおもしろ実験」 | | 小学生以上 | ブース出展 |
| 第41回ジュニア・サイエンス・スクール「JSS in 環境ミュージアム」 | | 小学生以上 | ブース出展 |
| 第42回ジュニア・サイエンス・スクール「多角形を切って作るふしぎな模様」 | | 小学生以上 | 100 |
| 天文講演会「星をながめて」 | | 小学校高学年以上一般まで | 82 |
| 福岡県高校化学部会研修会 | | 高校教員 | 19 |
| 読売新聞企画 社会見学受入れ「液体窒素の実験」 | | 小学生 | 30 |
| 第43回ジュニア・サイエンス・スクール「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」 | | 中学生 | 33 |
| 第44回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAを調べよう」 | 小学生以上 | 58 | |
| 出張！オープンキャンパス in イムズ「折り紙ユニットで立体をつくってみよう」「宇宙空間ってどんなところ？」 | 一般 | ブース出展 | |

| | | | |
|--------|--|---------------------------|-------|
| | 北九州市児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」への協力 | 一般 | ブース出展 |
| | フクオカサイエンスマンス「光と電気のふしぎ体験」 | 小学生以上 | ブース出展 |
| | 科学で遊ぼう！夢テクノロジー2010 in 中津 | 小学生以上 | ブース出展 |
| | 理数教育研究セミナー2010 | 一般 | 28 |
| | 第45回ジュニア・サイエンス・スクール「手作り望遠鏡教室」 | 小学生以上 | 29 |
| | 第46回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体（中級）」 | 小学生以上 | 52 |
| 平成23年度 | 第47回ジュニア・サイエンス・スクール「JSS in 環境ミュージアム」 | 小学生～一般の方 | ブース出展 |
| | 缶サット甲子園2012 九州大会 | 高校生 | |
| | 福岡県高校化学部会研修会 | 高校教員 | |
| | 平成23年度「先端科学技術体験合宿」「超伝導体の電気磁気特性～電気抵抗ゼロの世界～」 「ものづくりの道具 金型の構造と作り方を学ぶ」「多面体と折り紙と数学と」「マイコンでオリジナルプログラムを組んでみよう！」 | | |
| | 第48回ジュニア・サイエンス・スクール「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」 | 小学生（5年生以上）、中学生（保護者は、見学のみ） | 32 |
| | 読売新聞企画 社会見学受入れ「液体窒素の実験」 | 小学生 | 30 |
| | 第49回ジュニア・サイエンス・スクール「天体観測」 | 一般（中学生以下は保護者同伴） | 71 |
| | SAFnet世界一行きたい科学広場IN北九州2011「冷却パックを作ろう」 | | |
| | 戸畑図書館 夏休み特別企画「科学であそぼう」 | 小学生 | 60 |
| | 第50回ジュニア・サイエンス・スクール「科学実験と楽しい工作」 | 小学生 | 49 |
| | | | |
| | アインシュタイン展LOVE特別展 科学実験教室「ドップラー効果から宇宙を知る」「アインシュタインのノーベル賞理論を体験しよう～光電効果の実験～」 | 小学4年生以上 | |
| | 北九州市児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」への協力「『えきじょうか』ってな～に」 | 一般 | ブース出展 |
| | 第51回ジュニア・サイエンス・スクール「正六角形で作るふしぎな立体」 | 小学生以上（一般の方の参加も歓迎します） | 75 |
| | フクオカサイエンスマンス2011「折り紙ユニットで立体を作ってみよう」 | | ブース出展 |
| | 第52回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置作りに挑戦！」 | 小学校 4 年生以上 | 30 |
| | JICA青年研修受入れ | 大洋州8ヶ国研修生 | 21 |
| | 第53回ジュニア・サイエンス・スクール「簡単な電子工作～オルゴールを作ろう～」 | 小学校 5 年生以上 | 20 |
| | ユニセックワークショップ | | |
| | 第54回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAをつくろう」 | 小学校 4 年生以上 | 40 |
| | 第55回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体（初級）」 | 小学生以上（一般の方の参加も歓迎します） | 63 |

| | | | |
|--------|--|----------------------------------|-------|
| | 理数教育研究セミナー2012「竜巻ってなあに？」 | 一般 | 28 |
| 平成24年度 | 「日食・金星太陽面通過 観察説明会」 | 指導者（小中高等学校の先生、市民福祉センター、公共施設の担当者） | 30 |
| | 第56回ジュニア・サイエンス・スクール「正多角形をたたくで作る不思議な模様」 | 小学生～一般の方 | 72 |
| | 缶サット甲子園2012九州大会 | 高校生 | |
| | サイエンスフェア&サイエンスコンテストfor 高校生 | 高校生 | |
| | 第57回ジュニア・サイエンス・スクール「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」 | 小学生（5年生以上），中学生 | 32 |
| | サマーサイエンスフェスタin北九州2012 | 一般とSSH指定校の高校生 | 2000 |
| | 福岡県教育委員会主催先端科学技術体験合宿 | 中学生 | 44 |
| | 福岡県教育センター主催キャリアアップ講座 | 高校教員 | 15 |
| | 読売新聞企画 社会見学受け入れ | 小学生 | 30 |
| | SAFnet世界一行きたい科学広場IN北九州2012 | 一般 | ブース出展 |
| | 北九州市立戸畑図書館 夏休み特別企画「科学であそぼう」 | 小学生 | |
| | 第58回ジュニア・サイエンス・スクール「ロボット学習と顕微鏡作り」 | 小学4～6年生 | 16 |
| | 北九州市立児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」 | 一般 | ブース出展 |
| | 第59回ジュニア・サイエンス・スクール「電子回路ものづくり体験」 | 小学5年生～中学生 | 19 |
| | 第60回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAを調べよう」 | 小学生4年生～中学生 | 23 |
| | 第61回ジュニア・サイエンス・スクール「宇宙ってどんなところ？」 | 小学校4年生以上～中学生まで | 28 |
| | 福岡県高等学校北九州筑豊地区化学部会研修会 | 高校教員 | 10 |
| | 第62回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置を作ろう」 | 小学校4年生以上～高校生まで | 40 |
| | 第63回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作る不思議な立体（中級）」 | 小学校4年生以上～一般の方 | 62 |
| 平成25年度 | 第64回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットでつくる不思議な立体（初級）」 | 小学生～一般の方 | 47 |
| | 第65回ジュニア・サイエンス・スクール「JSSin環境ミュージアム」 | 小学生～一般の方 | 約250 |
| | 第66回ジュニア・サイエンス・スクール「顕微鏡で植物のからだを調べてみよう」 | 小学生 | 69 |
| | 第67回ジュニア・サイエンス・スクール「見て触れて楽しもう！北九州工学体験工房」 | 小学生（5年生以上），中学生 | 34 |
| | 第68回ジュニア・サイエンス・スクール「宇宙ってどんなところ？2」 | 小学4年生～中学生 | 20 |
| | 第69回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置をつくろう！」 | 小学4年生～高校生 | 29 |

| | | |
|--|------------------|------|
| 第70回ジュニア・サイエンス・スクール「オリジナルクリスマスリースを作ろう」 | 小学生 | 15 |
| 第71回ジュニア・サイエンス・スクール「三角形の内角の和は本当に180度なのかな？」（飯塚キャンパスにて開催） | 小学5年生～中学生 | 19 |
| 第72回ジュニア・サイエンス・スクール「正多角形を切って作るふしぎな模様」 | 小学生～一般の方 | 52 |
| 特別編ジュニア・サイエンス・スクール「生ごみがおいしい野菜にへんしん？～土のちからをまなぶ～」 | あやめが丘学童クラブの児童・先生 | 113 |
| 理数教育支援センター セミナー2013 | 一般 | 79 |
| 秋田県立大学 平成25年度夏休み科学教室 にブース出展「折り紙ユニットで作るふしぎな立体」 | 小学3年生～中学3年生 | 約30 |
| 読売新聞企画 社会見学受入れ「宇宙ってどんなところ？」 | 小学生 | 30 |
| 世界一行きたい科学広場 IN 北九州 2013 にブース出展「光の絵画を作ろう！」 | 一般 | |
| 北九州市立戸畑図書館 夏休み特別企画「科学であそぼう！！宇宙の寒さを体験しよう！」 | 小学生 | 60 |
| 北九州市環境ミュージアム 科学教室「光で遊ぼう！」 | 小学生以上 | |
| 一般社団法人 電子情報通信学会 子供の科学教室「ものづくり体験 ～センサーを用いた電子工作教室～」 | 小学5,6年生 | 15 |
| 北九州市立児童文化科学館 わくわくサイエンスキッズ にブース出展「光の絵画を作ろう！」 | 一般 | |
| 北九州市エアターミナル株式会社共催「Mobile Space Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」 | 一般 | 196 |
| オットモ★プラネタリウム | 一般 | 60 |
| 「若田光一宇宙飛行士とのリアルタイム交信 ～宇宙につながれ！きみの夢～」サブ会場 | 一般 | 141 |
| イノベーションフォーラム2013 連携イベント「Mobile Space Laboratory ～いつでも どこでも プラネタリウム～」 | 一般 | |
| サマーサイエンスフェスタin北九州2013 | 一般とSSH指定校の高校生 | 2150 |
| IKEA神戸でプラネタリウムを楽しもう！ | 一般 | 150 |
| 福岡県教育委員会主催先端科学技術体験合宿 講座3「色と色素について調べてみよう」 講座4「センサや電子回路でものづくりを体験しよう」 | 中学生 | 20 |
| 福岡県高等学校北九州筑豊地区化学部会研修会 | 高校教員 | 11 |

5. 1. 3 北九州市民カレッジへの協力

本学は、福岡・北九州地域リカレント教育推進協議会主催のリカレント教育の実施大学の一つになっていたが、その後継事業として、平成17年度から北九州市民カレッジが始まった。これらの事業にこの5年間に協力したセミナーの実施状況を表5. 1. 3に示す。

表5.1.3 北九州市民カレッジ（リカレント教育）協力セミナー実施状況（単位：名）

| 年 度 | セミナー名 | 参加者数 | 備 考 |
|--------|--|------|--------|
| 平成21年度 | 原語で読む現代ドイツ文学 —ダニエル・ケールマン『陽の下で』— | 27 | 市民カレッジ |
| 平成22年度 | 前期：原語で読む現代ドイツ文学（2） —ダニエル・ケールマン『陽の下で』— | 21 | 市民カレッジ |
| | 後期：講師の都合により中止 | | |
| 平成23年度 | 学校ではぜったい教わらない北九州のマチモノガタリ | 21 | 市民カレッジ |
| 平成24年度 | 人類文明を切り拓く材料開発の過去・現在・未来 | 10 | 市民カレッジ |
| 平成25年度 | 未来を切り拓く先端機能システム | 10 | 市民カレッジ |

5. 1. 4 出前講義

表5.1.4 出前講義

近年、社会的問題となっている、いわゆる青少年の「科学離れ」「理工系離れ」対策の一環として、小・中・高等学校の生徒を対象に本学の教官が小・中・高等学校に出向き、理工系分野の学問の最前線の話題や魅力等について分かり易く講義をする。

| 年度 | 講義名 | 実施件数 | 対象者 |
|----------------------------------|--|------|---------|
| 平成21年度 | もてる男の顔・対称性とその顔認証への応用ーバイセキュリティの世界ー | 9 | 高校生 |
| | 情報工学のもたらす新世界探訪ー情報工学の可能性は∞ー | 3 | 高校生 |
| | やさしい情報通信の世界ーインターネットの基礎と応用ー | 1 | 高校生 |
| | テレビはなぜ見える！ーテレビ・デジタルテレビの原理と電波のふしぎー | 4 | 高校生 |
| | 音声のブラインド信号分離ー聖徳太子プロジェクトー | 1 | 高校生 |
| | 世界最速のデジタルオーディオICー20年目の夢ー | 3 | 高校生 |
| | 見えないことと、その支援方法 | 1 | 高校生 |
| | 聞こえないことと、その支援方法 | 1 | 高校生 |
| | いつも働いている脳ー早寝、早起き、脳にご飯をー | 2 | 高校生 |
| | 人間の見るしぐさをしらべてロボットの見るしぐまをつくってますー脳の視覚のしぐまをコンピュータで実現ー | 10 | 中・高校生 |
| | 自動ピアノから学ぶ人間の不思議ー人の感覚を探るー | 2 | 高校生 |
| | 生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場ー先端医療デバイスからアミューズメントロボットまで | 3 | 高校生 |
| | ニューラルネットのロボットへの応用ー脳をまねてロボットを動かすはなしー | 2 | 高校生 |
| | 携帯電話もパソコンもテレビも車も集積回路(IC)がぎっしりーICってなに？半導体ってなに？ー | 2 | 高校生 |
| | カーボンナノチューブによる半導体ナノテクノロジーーカーボンナノチューブとは？ー | 3 | 高校生 |
| | 超伝導体による浮上実験ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー | 11 | 小・中・高校生 |
| | 電気のいろいろな作り方ー身近なもので電気をつくろうー | 2 | 小学生 |
| | 生物のつくるナノ構造を観察しよう！ーコンピュータを使った新しい自然観察ー | 1 | 高校生 |
| | DNAと遺伝子ーやさしい遺伝子のはなしー | 1 | 高校生 |
| | 医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術ー生物に学ぶドラッグデリバリーシステムー | 1 | 高校生 |
| | なぜ砂糖や塩に味を感じるのか？ | 1 | 高校生 |
| | エコポ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化ー自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てようー | 1 | 高校生 |
| | 魚のすみやすい川づくり | 1 | 高校生 |
| 風を生活に役立てる最先端研究ー何がわかって、何がわかってない？ー | 2 | 高校生 | |
| 地球温暖化問題と自然エネルギーー風力発電を含めてー | 2 | 高校生 | |

| | | | |
|--------|---|----|---------|
| | お目様パワーは地球を救うー太陽電池のはなしー | 4 | 高校生 |
| | 電子レンジで化学の実験ーマイクロ波が促進する化学反応ー | 3 | 高校生 |
| | 生ゴミからプラスチックと肥料をつくるーびせいぶつの不思議な世界ー | 1 | 高校生 |
| | 生ゴミからプラスチックと肥料をつくるーリサイクルを考えようー | 1 | 高校生 |
| | あっ、プラスチックが水に溶ける！ープラスチックのリサイクルを考えるー | 1 | 高校生 |
| | データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜くー血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ー | 2 | 高校生 |
| | 正多面体のはなしー折り紙でいろいろな立体をつくらうー | 3 | 中・高校生 |
| | 相対性理論と4次元時空間ーアインシュタインが目指したものー | 1 | 高校生 |
| | 宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？ー科学と技術ー | 2 | 高校生 |
| | 「アポロ13」はただの冒険映画じゃないー技術者ってカッコいい！ー | 2 | 高校生 |
| | 「紅の豚」はただのアニメじゃないー技術者っていいもんだ！ー | 4 | 高校生 |
| | 自動車の出来るまでーものづくりの現場を見てみようー | 5 | 高校生 |
| | 工学部ってどんなところ？ | 3 | 高校生 |
| 平成22年度 | もてる男の顔・対称性とその顔認証への対応ーバイオセキュリティの世界ー | 10 | 高校生 |
| | 情報工学のもたらす新世界探訪ー情報工学の可能性は∞ー | 5 | 高校生 |
| | テレビはなぜ見える！ーテレビの基本原理と電波のふしぎー | 6 | 小学・高校生 |
| | 世界最速のオーディオICー20年目の夢ー | 3 | 高校生 |
| | 見えないことと、その支援方法 | 1 | 高校生 |
| | いつも働いている脳ー早寝、早起き、脳にご飯をー | 5 | 高校生 |
| | データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜くー血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ー | 1 | 高校生 |
| | 人間の見るしぐみをしらべてロボットの見るしぐみをつくってますー脳の視覚のしぐみをコンピューターで実現ー | 8 | 高校生・その他 |
| | 迷路とマイクロマウスー人工知能ってなにー | 1 | 高校生 |
| | 機械情報工学って何？ー身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術ー | 5 | 高校生 |
| | 世界初！蝶ロボットの開発ー何故、蝶は飛ぶことができるのか？ー | 3 | 高校生 |
| | 自動ピアノから学ぶ人間の不思議ー人の感覚を探るー | 3 | 高校生 |
| | 生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場ー先端医療デバイスからアミューズメントロボットまでー | 4 | 高校生 |
| | ニューラルネットのロボットへの応用ー脳をまねてロボットを動かすはなしー | 5 | 高校生 |
| | からくり人形とロボットの不思議 | 3 | 高校生 |
| | 超精密の不思議ー身の回りにある超精密ー | 3 | 高校生 |

| | | |
|---|----|-----------|
| 「鉄&鉄子」の楽しみ –身近な電車の中の先端技術– | 1 | 高校生 |
| ミクロの機械の不思議 –マイクロマシン（微小な機械）– | 1 | 高校生 |
| 携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路（LSI）がぎっしり –LSIってなに？半導体ってなに？– | 9 | 高校生 |
| 自動車の出来るまで –ものづくりの現場を見てみよう– | 3 | 高校生 |
| カーボンナノチューブによる半導体ナノテクノロジー –カーボンナノ チューブとは？– | 2 | 高校生 |
| 生命に学ぶナノテクノロジー –機械工学へのナノテク応用– | 2 | 高校生 |
| シャボン玉から知る複合材料の科学 | 1 | 高校生 |
| 超伝導体による浮上実験 –超伝導体と磁石はどう違うか？– | 15 | 小学・中学・高校生 |
| 電気のいろいろな作り方 –身近なもので電気をつくろう– | 3 | 小学生 |
| お日様パワーは地球を救う –電気から学ぶ資源とエネルギー– | 1 | 高校生 |
| 地球温暖化問題と自然エネルギー –風力発電を含めて– | 2 | 高校生 |
| エコポ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化 – 自分のデザインした植木鉢をつくって植物を育てよう– | 1 | 高校生 |
| 魚のすみやすい川づくり | 2 | 高校生 |
| 風を生活に役立てる最先端研究 –何がわかってて、何がわかってない？– | 2 | 中学・高校生 |
| 地盤災害はどうして起こる？ | 4 | 高校生 |
| 生ゴミからプラスチックと肥料をつくる –リサイクルを考えよう– | 5 | 中学・高校生 |
| 生ゴミからプラスチックと肥料をつくる –びせいぶつの不思議な世界– | 3 | 高校生 |
| あっプラスチックが水に溶ける！ –プラスチックのリサイクルを考える– | 2 | 高校生 |
| 生命がつくるナノ構造を覗き見る –コンピュータをつかった新しい自然観察– | 3 | 中学・高校生 |
| DNAと遺伝子 –やさしい遺伝のはなし– | 2 | 高校生 |
| 医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術 –生物に学ぶドラッグデリ バリーシステム– | 2 | 高校生 |
| 総合的学問「建築」への招待 | 3 | 高校生 |
| 生き物の分子をデザインする –遺伝子や蛋白質の美しさと生命科学の 世界– | 1 | 高校生 |
| 驚きのマイクロ波化学 –電子レンジがCO ₂ を減らす– | 1 | 高校生 |
| 宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？ | 1 | 高校生 |
| 正多面体のはなし –折り紙でいろいろな立体をつくろう– | 3 | 高校生 |
| 「アポロ13」はただの冒険映画じゃない –技術者ってカッコいい！– | 7 | 高校生 |
| 「紅の豚」はただのアニメじゃない –技術者っていいもんだ！– | 1 | 高校生 |
| 工学部ってどんなところ？ | 3 | 高校生 |

| | | | |
|--------|--|----|------------|
| 平成23年度 | もてる男の顔認証ーバイオセキュリティの世界ー | 10 | 小学・中学・高校生 |
| | 情報工学のもたらす新世界探訪ー情報工学の可能性は∞ー | 5 | 高校生 |
| | テレビはなぜ見える！ーテレビの基本原理と電波のふしぎー | 5 | 中学・高校生・その他 |
| | 世界最速のオーディオICー20年目の夢ー | 2 | 高校生 |
| | 見えないことと、その支援方法 | 2 | 高校生 |
| | 環境にやさしいプラスチックで作る自在に曲がる電子デバイスーポリマーで拓く未来の情報機器とロボットー | 2 | 高校生 |
| | データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜くー血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ー | 2 | 高校生 |
| | 人間の見るしくみをしらべてロボットの見るしくみをつくってますー脳の視覚のしくみをコンピューターで実現ー | 5 | 高校生・その他 |
| | 迷路とマイクロマウスー人工知能ってなにー | 1 | 高校生 |
| | 機械情報工学って何？ー身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術ー | 4 | 高校生 |
| | 世界初！蝶ロボットの開発ー何故、蝶は飛ぶことができるのか？ー | 1 | 高校生 |
| | ロボットから学ぶ人間の不思議ー人の感覚を探るー | 3 | 高校生 |
| | 生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場ー先端医療デバイスからアミューズメントロボットまでー | 6 | 高校生 |
| | ニューラルネットのロボットへの応用ー脳をまねてロボットを動かすはなしー | 2 | 高校生 |
| | 超精密の世界ー身の回りの超精密ー | 5 | 中学・高校生 |
| | 「鉄&鉄子」の楽しみー身近な電車の中の先端技術ー | 2 | 高校生 |
| | ミクロの機械の不思議ーマイクロマシン（微小な機械）ー | 2 | 高校生 |
| | 携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路（IC）がぎっしりーICってなに？半導体ってなに？ー | 5 | 中学・高校生 |
| | 日本刀に学ぶマテリアル工学 | 2 | 高校生 |
| | 自動車の出来るまでーものづくりの現場を見てみようー | 8 | 高校生 |
| | シャボン玉から知る複合材料の科学 | 4 | 高校生 |
| | 最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう！ー制がん剤から新幹線までー | 2 | 中学・高校生 |
| | 超伝導体による浮上実験ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー | 7 | 小学・中学・高校生 |
| | 電気のいろいろな作り方ー身近なもので電気をつくろうー | 3 | 小学生・その他 |
| | お日様パワーは地球を救う！ー電気から学ぶ資源とエネルギーー | 1 | 高校生 |
| | 地球温暖化問題と自然エネルギーー風力発電を含めてー | 5 | 小学・中学・高校生 |
| | 見えない“流れ”を視る！ー何故、ボールは変化する？何故、昆虫は飛ぶことができる？ー | 2 | 高校生 |
| | エコボ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化ー自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てようー | 3 | 小学生・その他 |
| | 地盤災害はどうして起こる？ | 5 | 小学・高校生 |

| | | | |
|--------|--|----|-----------------|
| | 生ゴミからプラスチックと肥料をつくるーリサイクルを考えようー | 1 | 中学生 |
| | 生命が創るナノ構造を覗きみようーコンピュータを使った新しい自然観察法ー | 2 | 高校生 |
| | DNAと遺伝子ーやさしい遺伝のお話ー | 1 | 高校生 |
| | 3Dデザインで健康を科学しますーメタボ、がん、肌、毛髪までー | 2 | 高校生 |
| | 医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術ー生物に学ぶドラッグデリバリーシステムー | 3 | 高校生 |
| | 総合的学問「建築」への招待 | 1 | 高校生 |
| | 生命の起源と進化を考えるー卵が先か、ニワトリが先かー | 2 | 中学・高校生 |
| | 光や電磁波を使っている最新技術をみてみようー電子線, 蛍光, ミリ波, マイクロ波, ラジオ波って何だろうー | 1 | 高校生 |
| | 正多面体のはなしー折り紙でいろいろな立体をつくろうー | 1 | 高校生 |
| | 「アポロ13」はただの冒険映画じゃないー技術者ってカッコいい！ー | 1 | 高校生 |
| | 「紅の豚」はただのアニメじゃないー技術者っていいもんだ！ー | 3 | 中学・高校生 |
| | 工学部ってどんなところ？ | 3 | 高校生 |
| | 大学ってどんなところ？ー当世大学・学生事情ー | 1 | 高校生 |
| | 理系（技術系）人材養成のためのプロジェクト学習についてー企業で求められる人材とは？ー | 3 | 高校生 |
| 平成24年度 | もてる男の顔認証ーバイオセキュリティの世界ー | 10 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| | 情報工学のもたらす新世界探訪ー情報工学の可能性は∞ー | 6 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| | 技術者ってカッコよくなって、わるくない！ーアニメや映画にみる技術者の姿ー | 7 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| | テレビはなぜ見える！ーテレビの基本原理と電波のふしぎー | 4 | 小学・中学・高校・予備校・一般 |
| | 切っても切れない情報社会ースマートフォンから予防医療までー | 2 | 中学・高校・高専・予備校 |
| | 見えないことと、その支援方法 | 2 | 中学・高校・高専・予備校 |
| | データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜くー血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ー | 1 | 高校・高専・予備校 |
| | 人間の見るしぐみをしらべてロボットの見るしぐみをつくってますー脳の視覚のしぐみをコンピューターで実現ー | 7 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| | 迷路とマイクロマウスー人工知能ってなにー | 2 | 小学・中学・高校 |
| | 機械情報工学って何？ー身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術ー | 6 | 高校・高専・予備校 |
| | 世界初！蝶ロボットの開発ー何故、蝶は飛ぶことができるのか？ー | 4 | 高校・高専 |
| | 見えない“流れ”を見る！ー何故、ボールは変化する？何故、昆虫は飛ぶことができる？ー | 3 | 高校・高専 |
| | ロボットから学ぶ人間の不思議ー人の感覚を探るー | 3 | 中学・高校・高専 |
| | 生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場ー先端医療デバイスからアミューズメントロボットまでー | 3 | 高校・高専 |
| | 人のためのロボット | 1 | 高校・高専 |

| | | |
|--|----|-----------------|
| ニューラルネットのロボットへの応用ー脳をまねてロボットを動かすはなしー | 1 | 高校 |
| 超精密の不思議ー身の回りの超精密ー | 2 | 小学・中学・高校・高専 |
| 携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路 (IC) がぎっしりーICってなに？半導体ってなに？ー | 3 | 中学・高校・高専・予備校 |
| 自動車の出来るまでーものづくりの現場を見てみようー | 5 | 高校・高専・予備校 |
| シャボン玉から知る複合材料の科学 | 1 | 高校 |
| 最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう！ー制がん剤から新幹線までー | 2 | 中学・高校・高専・予備校 |
| 世界最強！日本磁石研究最前線ー世界を変えた強力磁石。レアメタル問題を救えるか？ー | 4 | 中学・高校・高専・予備校 |
| 不思議な金属ー金属から学ぶ材料のいろいろー | 2 | 高校・保護者 |
| 超伝導体による浮上実験ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー | 10 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| 電気のいろいろな作り方ー身近なもので電気をつくろうー | 3 | 小学 |
| お日様パワーは地球を救う！ー電気から学ぶ資源とエネルギーー | 3 | 高校・高専 |
| 共に考えよう、地球温暖化とエネルギーのことー自然エネルギーの利用の話を中心にー | 2 | 小学・中学・高校・予備校 |
| エコポ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化ー自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てようー | 2 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| 地盤災害はどうして起こる？ | 2 | 小学・中学・高校 |
| 総合的学問「建築」への招待 | 3 | 高校 |
| 生ゴミからプラスチックと肥料をつくるーリサイクルを考えようー | 1 | 小学・中学 |
| 生ゴミからプラスチックと肥料をつくるーびせいぶつの不思議な世界ー | 1 | 小学 |
| パンデミックシミュレーションー新型インフルエンザや口蹄疫流行の予測ー | 1 | 中学・高校・高専 |
| 生物の創り出すナノ世界を覗き見るー生物を理解するための情報工学と物理ー | 1 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| 医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術ー生物に学ぶドラッグデリバリーシステムー | 1 | 高校・高専・予備校 |
| 3Dデザインで体の健康を科学しますー血管、がん、肌、毛髪、歯骨までー | 3 | 中学・高校・高専・予備校 |
| 驚きのマイクロ波化学ー電子レンジでグリーンイノベーションー | 2 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| 科学を装ったニセモノの世界ーニセ科学にだまされるな！ー | 2 | 中学・高校・高専・予備校予備校 |
| 生命の起源と進化を考えるー卵が先か、ニワトリが先かー | 2 | 中学・高校・高専・予備校 |
| 宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？ | 1 | 高校・高専・予備校 |
| 相対性理論と4次元時空間ーアインシュタインが目指したものー | 1 | 高校・高専・予備校 |
| 数学と物理のコラボが導く新しい理系眼ー数学を通して見た高校と大学の接続ー | 1 | 高校・高専・予備校 |
| 管楽器はどうして鳴るかーなぜ音は出るの？ー | 1 | 中学・高校・高専・予備校 |
| 工学部ってどんなところ？ | 3 | 高校・予備校 |

| | | | |
|--------|--|----|-----------------|
| | 理系（技術系）人材養成のためのプロジェクト学習についてー 企業で求められる人材とは？ー | 2 | 中学・高校・高専・予備校 |
| 平成25年度 | もてる男の顔認証ーバイオセキュリティの世界ー | 9 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| | 自分で作るフライトシミュレーターー運動方程式に従って飛行機を操縦しようー | 2 | 高校・高専・予備校 |
| | 情報工学のもたらす新世界探訪ー情報工学の可能性は∞ー | 4 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| | 技術者ってかっこよくて、わるくない！ ーアニメや映画にみる技術者の姿ー | 11 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| | 切っても切れない情報社会ースマートフォンから予防医療までー | 1 | 中学・高校・高専・予備校・一般 |
| | 自分がやりたいことをみつけるための方法ーラベル思考法を体験してみようー | 1 | 中学・高校・高専・予備校 |
| | データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜く ー血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ー | 2 | 中学・高校・高専・予備校 |
| | 人間の見るしぐまをしらべてロボットの見るしぐまをつくってます ー脳の視覚のしぐまをコンピューターで実現ー | 9 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| | 迷路とマイクロマウスー人工知能ってなにー | 1 | 小学・中学・高校 |
| | 機械情報工学って何？ ー身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術ー | 7 | 高校・高専・予備校 |
| | ロボットから学ぶ人間の不思議ー人の感覚を探るー | 2 | 中学・高校・高専 |
| | ロボットとプログラミング | 2 | 中学・高校・高専・予備校 |
| | 生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場 ー先端医療デバイスからアミューズメントロボットまでー | 6 | 高校・高専 |
| | 人のためのロボット | 2 | 高校・高専 |
| | ニューラルネットのロボットへの応用ー脳をまねてロボットを動かすはなしー | 1 | 高校 |
| | 未来に挑戦 超精密加工技術ー電子機器、グリーンデバイス、医療への適用ー | 2 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| | 携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路（IC）がぎっしり ーICってなに？半導体ってなに？ー | 4 | 中学・高校・高専・予備校 |
| | 自動車の出来るまでーものづくりの現場を見てみようー | 4 | 高校・高専・予備校 |
| | 金属の強さとやわらかさ | 1 | 高校 |
| | 金属の不思議な性質についてー形状記憶現象の観察ー | 2 | 高校 |
| | 医療に役立つ材料ーバイオマテリアルー | 3 | 高校 |
| | 最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう！ー制がん剤から新幹線までー | 1 | 中学・高校・高専・予備校 |
| | スマートな先端材料ー医療からボーイング787までー | 3 | 高校 |
| | 世界最強！日本磁石研究最前線 ー世界を変えた強力磁石。レアメタル問題を救えるか？ー | 4 | 中学・高校・高専・予備校 |
| | 超伝導体による浮上実験ー超伝導体と磁石はどう違うか？ー | 7 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| | 電気のいろいろな作り方ー身近なもので電気をつくろうー | 3 | 小学 |
| | 共に学ぼう、地球温暖化とエネルギーのことー自然エネルギーの利用の話を中心にー | 2 | 小学・中学・高校・予備校 |
| | エネルギーを操る革新的なマテリアルたち ー太陽電池、超伝導、革新的エネルギー・マテリアルー | 1 | 中学・高校・高専・予備校 |
| | マテリアルの資源とリサイクルー持続型循環社会をめざしてー | 1 | 高校・予備校 |
| | エコボ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化 ー自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てようー | 2 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |

| | | |
|---|---|--------------------|
| 魚のすみやすい川づくり | 1 | 中学・高校 |
| 地盤災害はどうして起こる？ | 1 | 小学・中学・高校 |
| 長～い橋が風で揺れる！？－揺れを小さくする技術とは？－ | 2 | 中学・高校・高専・予備校 |
| 総合的学問「建築」への招待 | 1 | 高校 |
| 生物の創り出すナノ世界を覗き見る －生物を理解するための情報工学と物理－ | 1 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| 体の健康を観察と計算予測で魅せます。 －血管、がん、肌、毛髪、歯骨、肝臓まで－ | 2 | 高校・高専・予備校 |
| 私たちの生活に欠かせない遺伝子の利用-遺伝子組み換え作物とiPS細胞 | 2 | 小学・中学・高校・高専・予備校・一般 |
| 科学を装ったニセモノの世界－ニセ科学にだまされるな！－ | 1 | 中学・高校・高専・予備校・一般 |
| 生命の起源と進化を考える－卵が先か、ニワトリが先か－ | 1 | 中学・高校・高専・予備校・一般 |
| 材料の元になる元素はどこからやってきたの？ 宇宙・星の一生から地球へ－元素の旅－ | 2 | 中学・高校・高専・予備校 |
| 宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？ | 1 | 高校・高専・予備校 |
| クイズでわかる現代物理の不思議な世界 -時間とは？光とは？物質とは？原発は？宇宙は？- | 1 | 高校・高専・予備校 |
| 正多面体のはなし－折り紙でいろいろな立体をつくろう－ | 2 | 小学・中学・高校・高専・予備校 |
| 公式暗記に振り回されず、いつも「なぜ」という疑問をもつ習慣をもてば、数学は必ず易しくて面白い得意な科目に化ける | 3 | 中学・高校・高専・予備校 |
| 管楽器はどうして鳴るか－なぜ音は出るの？－ | 1 | 中学・高校・高専・予備校 |
| 工学部ってどんなところ？ | 4 | 高校・予備校 |
| 理系（技術系）人材養成のためのプロジェクト学習について －企業で求められる人材とは？－ | 1 | 中学・高校・高専・予備校 |

大学見学時の模擬授業含む

5. 1. 5 情報公開

大学院工学研究院・工学府・工学部の情報公開の実施状況を表5. 1. 5に示す。

表 5.1.5 各種情報公開の現状

| 現在公開（公表）している情報等 | 編集方針 | 年間発行回数、発行時期 | 公開・情報提供先 | 編集組織の名称 |
|----------------------------|--|-------------|---------------------|-----------------|
| 大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書 | 大学院工学研究院・工学府・工学部とその関連部局における自己点検・評価を行い、その結果を公表する。 | 1回・2月 | 大学公式ホームページ上で、学内外へ公開 | 大学院工学研究院部局評価委員会 |

5.2 学生の国際交流

表5.2.1 外国人留学生(国籍別・課程別・費用別)在学状況一覧表

◎外国人留学生在学状況 平成25年5月1日現在

(単位：人)

| 国籍 | | 中国 | 韓国 | マレーシア | インドネシア | ベトナム | フランス | タイ | オーストラリア | 台湾 | インド | バンラデシ | カンボジア | シリア | ブラジル | イラン | スリランカ | リベリア | エジプト | モンゴル | フィリピン | ナイジェリア | マダガスカル | パレスチナ | モロッコ | ウクライナ | ルーマニア | スーダン | シンガポール | ヨルダン | トルコ | カナダ | スイス | ポルトガル | 合計 | | |
|----------------|-------------------|---------|--------|-------|--------|------|------|----|---------|----|-----|-------|-------|-----|------|-----|-------|------|------|------|-------|--------|--------|-------|------|-------|-------|------|--------|------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|
| 工学学部・ 工学研究科 | 課程別 | 博士後期課程 | 20 | 1 | 1 | 5 | 1 | 2 | | | 2 | 2 | | | | | | 1 | 2 | 1 | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | 41 | | |
| | | 博士前期課程 | 27 | 2 | | | 2 | 3 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | | | | | 41 | |
| | 内 訳 | 学部生 | 8 | 2 | 3 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 15 | |
| | | 研究生/聴講生 | 13 | 4 | | | | 2 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 21 | |
| | 費用別 | 国 費 | 3 | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | | 13 | |
| | | 本国政府派遣 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 私 費 | 65 | 9 | 4 | 4 | 2 | 6 | 2 | | 3 | 3 | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 2 | | | 1 | | | | | | | | 105 | | |
| | | JASSO | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 国籍 | 小 計 | 68 | 9 | 4 | 5 | 2 | 6 | 2 | 0 | 3 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 118 | |
| | 情報工学部・ 情報工学研究科 | 課程別 | 博士後期課程 | 5 | | 2 | 5 | 5 | 4 | | | | 3 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 25 | |
| 博士前期課程 | | | 22 | | | 5 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 28 | | |
| 内 訳 | | 学部生 | 1 | 3 | 6 | | 1 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 14 | | |
| | | 研究生/聴講生 | 1 | 1 | | | | | | 2 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | | |
| 費用別 | | 国 費 | | | | | 1 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 4 | |
| | | 本国政府派遣 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | | 私 費 | 29 | 4 | 8 | 10 | 5 | | 3 | 2 | 1 | 1 | 3 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 67 | | |
| | | JASSO | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| 国籍 | | 小 計 | 29 | 4 | 8 | 10 | 7 | 0 | 5 | 2 | 1 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 73 | |
| 生命体工学研究科 | | 課程別 | 博士後期課程 | 11 | 1 | 10 | 3 | 1 | | | | 11 | 1 | | 1 | | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 43 | |
| | 博士前期課程 | | 16 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | 19 | | |
| | 内 訳 | 学部生 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | |
| | | 研究生/聴講生 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 費用別 | 国 費 | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 3 | |
| | | 本国政府派遣 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | | 私 費 | 28 | 1 | 10 | 3 | 1 | 1 | | | | 11 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | 63 | | |
| | | JASSO | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | |
| | 国籍 | 小 計 | 29 | 1 | 11 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 11 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 67 |
| | 合 計 | 課程別 | 博士後期課程 | 36 | 2 | 13 | 13 | 6 | 1 | 6 | 0 | 0 | 13 | 6 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 109 |
| 博士前期課程 | | | 65 | 2 | 1 | 5 | 3 | 3 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 88 | |
| 内 訳 | | 学部生 | 9 | 5 | 9 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 29 | |
| | | 研究生/聴講生 | 16 | 5 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 2 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 32 | |
| 費用別 | | 国 費 | 3 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 20 | |
| | | 本国政府派遣 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | | |
| | | 私 費 | 122 | 14 | 22 | 17 | 8 | 7 | 5 | 2 | 4 | 15 | 5 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 235 | |
| | | JASSO | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | | |
| 国籍 | | 合 計 | 126 | 14 | 23 | 18 | 10 | 7 | 7 | 2 | 4 | 15 | 6 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 258 | |

※ JASSOは、独立行政法人日本学生支援機構による大交流計画奨学金または留学生交流支援制度(短期受入れ)によって在籍する者

※ 研究生/聴講生は、協定校等からの特別聴講(研究)学生を含む

表5. 2. 2 外国人留学生（学科別・専攻別）在学状況一覧

(平成25年5月1日現在) (単位:人)

| 所 属 区 分 | 機 械 知 能 工 学 科 | | | 建 設 社 会 工 学 科 | | | 電 気 電 子 工 学 科 | | | 物 質 工 学 専 攻 | | 総 合 シ ス テ ム 工 学 科 機 能 シ ス テ ム 創 成 工 学 専 攻 先 端 機 能 シ ス テ ム 工 学 専 攻 | | 合 計 |
|-----------------|-----------------|--------------|------------------|-----------------|----------------------|----------------------|------------------------------|----------------------|------------------|-------------|-----------------|---|-------------------------|-----|
| | 機 械 知 能 工 学 専 攻 | | | 建 設 社 会 工 学 専 攻 | | | 電 気 電 子 工 学 専 攻 | | | 応 用 化 学 科 | マ テ リ ア ル 工 学 科 | 機 能 シ ス テ ム 創 成 専 攻 | 先 端 機 能 シ ス テ ム 工 学 専 攻 | |
| | 機 械 工 学 コー ス | 宇 宙 工 学 コー ス | 知 能 制 御 工 学 コー ス | 建 築 学 コー ス | 地 域 環 境 デ ザ イ ン コー ス | 都 市 再 生 デ ザ イ ン コー ス | シ ス テ ム エ レ ク ト ロ ニ ク ス コー ス | 電 気 エ ネ ル ギ ー 学 コー ス | 電 子 デ バ イ ス コー ス | | | | | |
| 博 士 後 期 課 程 | 2 | 2 | 10 | 3 | | | 3 | 3 | 0 | 6 | 2 | 0 | 5 | 36 |
| 博 士 前 期 課 程 | 13 | 4 | 5 | 2 | | | 4 | 2 | 1 | 3 | 2 | 0 | 5 | 41 |
| 学 部 生 2 年 生 以 上 | 1 | 4 | 2 | 4 | | | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 13 |
| 学 部 生 1 年 生 | 1 | | | 0 | | | 0 | | | 1 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 研 究 生 ・ 聴 講 生 | 4 | | | 0 | | | 0 | | | 1 | 0 | 2 | 0 | 7 |
| 短 期 留 学 生 | 8 | | | 4 | | | 3 | | | 0 | 1 | 0 | 0 | 16 |
| 合 計 | 56 | | | 13 | | | 17 | | | 11 | 6 | 13 | | 116 |

表5.2.3 学生の海外派遣

| 年度 | 国名 | 交流協定校 | 派遣内容 | 派遣学生数 (単位:人) | | | | | 備考 |
|----------|-------------------|----------------------------------|----------|--------------|-----|-------|-------|----------|--------------|
| | | | | 工学部 | 工学府 | 情報工学部 | 情報工学府 | 生命体工学研究科 | |
| 21 | イギリス | サリー大学 | 短期留学 | | 1 | | | | |
| | アメリカ | オールド・ドミニオン大学 | 語学研修 | 8 | | | | | |
| | フランス | 国際宇宙大学 | 短期留学 | | 3 | | | | 派遣先: アメリカ |
| | ニュージーランド | オークランド工科大学 | 語学研修 | | | 2 | | | |
| | オーストラリア | シドニー工科大学 | 短期留学 | 1 | 1 | | | | |
| | インド | バナラスヒンドゥー大学 | 短期留学 | | | | | 1 | |
| | 韓国 | 釜山大学 | 短期留学 | | 1 | | | | |
| | 忠州大学校 | 相互交流 | 12 | | | | | | |
| | 浦項工科大学 | 合同ワークショップ | | | | | 13 | | |
| 22 | アメリカ | オールド・ドミニオン大学 | 語学研修 | 8 | | | | | |
| | イギリス | サリー大学 | 語学研修 | | 8 | | 2 | 2 | |
| | フランス | ロレーヌ工科大学 | 短期留学 | | 1 | | | 1 | |
| | | 国際宇宙大学 | 短期留学 | | 3 | | | | |
| | オーストラリア | シドニー工科大学 | 短期留学 | 1 | | | | | |
| 韓国 | 忠州大学校 | 相互交流 | 14 | | | | | | |
| 23 | アメリカ | オールド・ドミニオン大学 | 語学研修 | 8 | | | | | |
| | | クラークソン大学 | 短期留学 | | | | 2 | | |
| | イギリス | サリー大学 | 短期留学 | | | | 1 | | |
| | | | 語学研修 | | 7 | | 4 | 1 | |
| | フランス | 国際宇宙大学 | 短期留学 | | 2 | | | | 派遣先: オーストラリア |
| | オーストラリア | ウォロンゴン大学 | 語学研修 | | | 1 | | | |
| 24 | 韓国 | 韓国交通大学校 | 相互交流 | 13 | | 1 | | | |
| | | 昌原大学校 | 相互交流 | 8 | | | | | |
| | オーストラリア | ウォロンゴン大学 | 語学研修 | | | 1 | | | |
| | | シドニー工科大学 | 交流協定 | | | 3 | | | |
| | フランス | ロレーヌ大学 | 交流協定 | | 1 | | | | |
| | | サントエティエンヌ国立高等鉱山学院 | 短期留学 | | 5 | | | | |
| | タイ | ADAMAS (THAILAND) CO., LTD. | インターンシップ | | | 1 | | | |
| | | タマサート大学シリンドホーン国際工学部 | 語学研修 | | | 1 | | | |
| | | キングモンクット工科大学 | 短期留学 | | | 4 | 2 | | |
| | | | 語学研修 | | | 1 | | | |
| | 台湾 | 台湾科技大学 | 短期留学 | | | | 2 | | |
| | | | 短期留学 | | | 3 | 1 | | |
| | | | 短期留学 | | | 6 | 1 | | |
| | トルコ | Gebze Institute of Technology | 短期留学 | | | | | 1 | |
| | インド | Nihon Technology Private Limited | インターンシップ | | | 1 | | | |
| | 中国 | デンソーソフトウェア上海 有限会社 | インターンシップ | | | | 1 | | |
| | ロシア | 三井住友銀行 | インターンシップ | | | | | 1 | |
| 米国 | ボートランド州立大学 | 語学研修 | | | 1 | | | | |
| | オールドドミニオン大学 | 語学研修 | 10 | | | | | | |
| | クラークソン大学 | 短期研修 | | | 2 | 1 | | | |
| | ボートランド州立大学 | 語学研修 | | | 3 | | | | |
| 英国 | サリー大学 | 語学研修 | | 7 | | 5 | | | |
| | ニューカッスル大学 | 語学研修 | | | 2 | | | | |
| | イーストアングリア大学 | 語学研修 | | | 3 | | | | |
| ニュージーランド | Massey University | 短期留学 | | | | | 1 | | |
| | オークランド工科大学 | 語学研修 | | | 3 | | | | |
| カナダ | ビクトリア大学 | 語学研修 | | | 5 | | | | |
| | ブリティッシュ・コロンビア大学 | 語学研修 | | | 3 | | | | |

表5.2.3 学生の海外派遣

| 年度 | 国名 | 交流協定校 | 派遣内容 | 派遣学生数(単位:人) | | | | | 備考 | |
|----------|-----------------|---------------------------|----------|-------------|-----|-------|-------|----------|----|----|
| | | | | 工学部 | 工学府 | 情報工学部 | 情報工学府 | 生命体工学研究科 | | |
| 25 | フランス | 航空宇宙高等学院 | 交流協定 | | 1 | | | | | |
| | | サンテティエンヌ国立高等鉱山学院 | 短期派遣 | | 5 | | | | | |
| | ノルウェー | テレマーク大学 | 短期派遣 | 2 | | | | | | |
| | ドイツ | クラウスタール工科大学 | 短期派遣 | 3 | | | | | | |
| | | ルール大学ボーフム | 短期派遣 | | | | | 1 | | |
| | 韓国 | 昌原大学校 | 短期派遣 | 8 | | | | | | |
| | | 韓国交通大学校 | 相互交流 | 14 | | | | | | |
| | | ハンバット大学 | 交流協定 | | | | 3 | | | |
| | 米国 | オールドドミニオン大学 | 語学研修 | 10 | | | | | | |
| | | テキサス大学エルパソ校 | 交流協定 | | 1 | | | | | |
| | | ボートワット州立大学 | 語学研修 | | | | 2 | | | |
| | | クラークソン大学 | 交流協定 | | | | 2 | 1 | | |
| | | | 短期派遣 | | | | 2 | 2 | | |
| | | カリフォルニア大学 | 短期派遣 | | | | | | 1 | |
| | | Trial Engineering Inc. | インターンシップ | | | | 1 | | | |
| | 英国 | サリー大学 | 語学研修 | | 7 | | 2 | 3 | | |
| | | イーストアングリア大学 | 語学研修 | | | | 3 | | | |
| | タイ | キングモンクット工科大学 | 語学研修 | | | | 2 | | | |
| | マレーシア | ブトラ大学 | 短期派遣 | | | | 2 | 2 | | |
| | | | 語学研修 | | | | 4 | | | |
| | | | 交流協定 | | | | | | 1 | |
| | | MSSC | 短期派遣 | 8 | | | | | | 5 |
| | | | 短期派遣 | 5 | | 5 | | | | |
| | | | 国際シンポジウム | | 16 | | | 1 | | 37 |
| | | 国際インターンシップ | | 10 | | | | | 21 | |
| | | UMW TOYOTA MOTOR SDN. BHD | インターンシップ | | 1 | | | 1 | | |
| | マレーシア工科大学 | 語学研修 | | | | 1 | | | | |
| | | 交流協定 | | | | | | 1 | | |
| | ベトナム | FPT大学 | 語学研修 | | | | 1 | | | |
| | ニュージーランド | クライストチャーチホリテック | 語学研修 | | | | 3 | | | |
| | | オークランド工科大学 | 語学研修 | | | | 2 | | | |
| | オーストラリア | ウーロンゴン大学 | 語学研修 | | | | 5 | | | |
| アデレード大学 | | 語学研修 | | | | 1 | | | | |
| モナシュ大学 | | 語学研修 | | | | 3 | | | | |
| シドニー工科大学 | | 短期派遣 | | | | | | 1 | | |
| カナダ | ビクトリア大学 | 語学研修 | | | | 4 | | | | |
| | ブリティッシュ・コロンビア大学 | 語学研修 | | | | 1 | | | | |
| 台湾 | 台湾科技大学 | 短期派遣 | | | | 3 | 8 | | | |
| | 台湾中央研究院 | 短期派遣 | 7 | | | | | | | |
| 中国 | 陽明大学 | 短期派遣 | | | | | | 2 | | |

※追加があれば適宜行を増やしてください。

6. おわりに

現状を確認し、それを分析し課題を見つけることは、どんな場合にも当てはまる改善のための普遍のプロセスでしょう。そして、この流れにしたがって個別的に多くの改善が成されてきました。この「現状と課題」はその役割を果たし、多くの項目で随分良くなったと言えると思います。では、総括的な改善はどのようなのでしょうか。個々の改善は束ねても必ずしも総括的改善になるとは限りません。残念ながら、昨今はローカルな改善議論に翻弄され、本筋を見据えた議論をする機会は寧ろ後回しにされているように感じます。今後は根本哲学に戻った議論が行えるよう進めるべきであり、そういう風潮になることを願っています。最後に、平成25年度版「現状と課題」を纏めるに当たり協力頂きました職員の方々、またアンケートの答えて頂いた本学卒業・修了生ならびに関係者に御礼申し上げます。

横野 照尚（大学院工学研究院部局評価委員会委員長）

2015年（平成27年）2月

平成26年度 大学院工学研究院部局評価委員会委員

| | | |
|----|----|----------------|
| 横野 | 照尚 | 工学研究院 教授【委員長】 |
| 美藤 | 正樹 | 工学研究院 教授【副委員長】 |
| 橘 | 武史 | 工学研究院 教授 |
| 山口 | 栄輝 | 工学研究院 教授 |
| 水波 | 徹 | 工学研究院 教授 |
| 鈴木 | 芳文 | 工学研究院 教授 |
| 鳥井 | 正史 | 工学研究院 教授 |
| 齋藤 | 武美 | 工学部事務長 |
